目　　次

会長のページ　よいお年を ……秦　喜八郎　3
日州医談 「品(ひん)」 ……濱砂　重仁　4
随筆 「国際山岳年」にあたって ……友成　久雄　6
エコー・リレー(328)……赤須　正道，白尾　一定　10
叙 勲・祝 賀 …… 11
表 彰・祝 賀 …… 12
感染症サーベイランス情報 …… 18
グリーンページ　医療保険制度改革―坂口私案 ……志多　武彦　19
宮崎医科大学だより(周産母子センター) ……池田　智明　25
第３回各郡市医師会協議会 …… 28
県ドクターズテニス秋の大会 …… 32
平成14年度九州学校検診協議会専門委員会 …… 33
九州各県医師会学校保健担当理事者会 …… 36
九医連第250回常任委員会 …… 37
九州各県・政令指定都市保健医療福祉主管部局長及び九州各県医師会長合同会議 …… 38
都道府県医師会公衆衛生担当理事連絡協議会 …… 41
平成14年度全国医師会勤務医部会連絡協議会 …… 42
日医 FAX ニュースから …… 44
医事紛争情報 …… 46
薬事情報センターだより(188)　動き始めた薬学６年制の行方 …… 48
医師国保組合だより …… 49
医師協同組合だより …… 50
理 事 会 日 誌 …… 51
県 医 の 動 き …… 56
追悼のことば …… 57
ニューメンバー ……竹中　美香，山内　励　58
会　員　消　息 …… 59
ベストセラー，ドクターバンク …… 61
行　事　予　定 …… 63
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会 …… 65
診　療　メ　モ（ウエストナイル熱，ウエストナイル脳炎） ……富田　雄二　73
私の本　私家版 私のシネマ遍歴 ……大西　雄二　75
あ　と　が　き …… 76
平成14年総目次 …… 77

お知らせ　臨床研修医師募集 …… 26
はにわネット展示ブース設置のお知らせ …… 60
宮崎県医師会「互助会融資契約」によるボーナス資金等融資のご案内…… 62
郡市医師会への送付文書 …… 71
ご 案 内　患者さんへの融資のご案内 …… 27

医師の誓い

人の生命を尊重し、これを救い、更に健康増進に寄与するは、医師たる職業の貴い使命である。

人の生命を至上のものとし、如何なる強圧に遇うとも人道に反した目的のために医学の知識を乱用せず、絶えず医学の研鑽と医術の練成に励み、細心の注意と良心に従って医を行う。

社会の倫理にもとらず、不正の利を追わず、病を追い、病を究め、病める人を癒し、同僚相睦び相携えて、医学の名誉と伝統を保持することを誓う。

宮崎県医師会

（昭和50年８月26日制定）

〔表紙写真〕

ひととき

戦争，子育て，病院の手伝等で忙しく，やっと69歳の時，人物中心のサークルに入門し，初めて人物を描く面白さを知りました。表紙の絵は，習いはじめて，５年目位の作品で，まだまだ未熟でございます。忙しい合い間のひとときを，雑念を去り，対象に向います時は，至福の思いでございます。

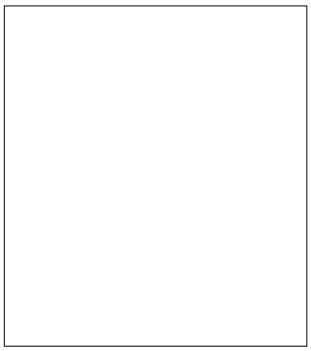
清武町　城山（しろやま）　治子（はるこ）

（第３回宮崎県医師会医家芸術展より）

会長のページ

よ い お 年 を

秦　喜八郎



ダンロップフェニックストーナメント(11/20～23)へのタイガー・ウッズの出場で，全国からファンが来県し,街中が湧き立っていました。世界的スーパースターの偉力をまじまじと実感しました。農業立県・観光立県に並ぶ「メディカル・スポーツランド・ミヤザキ」を提案しています。今回のウッズ効果を見て,まんざら夢でもないなと思いました。併せて「医療立県」を提唱しています。医大や県病院へスーパースターを呼んで来ると実現可能の想いを強くしました。

衆議院でペイオフ制度の延期が可決されました(11/22)。大手銀行や自民代議士の猛烈な巻き返しの結果だとされています。宮崎参議院議員も早速「ペイオフを延期したぐらいだから,３割負担も延期すべきだ」と発言しています(11/16・中部医師会連合委員総会)。しかし，参議院厚生労働委員会での同議員の質問(11/14)に対し厚生労働大臣は,３割負担の実施延期の考えはない事を明言しています。

九州ブロック臨時委員総会(11/15)では志多副会長・稲倉担当常任理事が,診療報酬問題を取り上げ質問しました。坪井会長は，外総診や月内逓減制の取り扱いは，緊急動議として早急な是正を求めていく，と力強い発言をしました。まだお若くて元気な身近な先輩が3名,10月からの受診抑制策による患者減少の為,年内に診療所を廃止すると言ってこられたので,ショックを受けています。県医師会として何のお役にも立てなかったと忸怩たる思いです。

地域医療の確保の点からも，会員の諸先生方に歯を食いしばって頑張っていただきたい。良質の医療を提供して地域住民との信頼関係を築いていただきたいと思います。11月末には，厚労省の医療制度抜本改革案が提出される予定です。理不尽な条項は地域住民とともに叩き潰しましょう。県民の健康と幸せを守るために，会員の先生方も健康に留意されて，一致団結して，正念場の戦いに参加されますよう心からお願いを申し上げます。よいお年を。

(H14.11.24)

ＰＳ．元宮崎市郡医師会長(５期10年)河野 通先生の日本医師会最高優功賞の受賞を心からお慶びします。奥様の内助の功あればこそ，と考えています。

日州医談

「品（ひん）」

常任理事　濱　砂　重　仁

私は県医師会にて主として産業医部会，勤務医部会，病院部会，医療法人部会を担当している。

その中で最近特に思うことは，日本の経済・財政の影響力がいかに強いか感じるのである。これ程とは思わなかったし，又超スピードで変革する制度についていくのがやっとで息切れしそうである。

平成14年９月12日，産業医活動推進全国会議が開催され，坪井会長は日医認定産業医が５万５千人を超えたが，医師は産業保健と地域医療の両面で，労働者の健康を守る責務があり，産業医の質の向上，とりわけ実際に役立つ実地研修を行い，自己研鑽に努めてもらいたいとの挨拶があった。

一方，産業医選任義務のある50人以上の事業場において，産業医活動の予算計上をしていない所が多く，従って月１回ではなく，年数回の職場巡視で良いのではないかとの質問があった。景気低迷の影が見える。答えは月１回の巡視は是非お願いしたいとのこと。やはり医師は奉仕の精神に基づき,対応しなければならないのか？宮崎県では，医師会が提示している料金は高過ぎるとの事業場も多く，実際の所，低料金で契約を締結している産業医もおり，この傾向はますます拡大してゆく可能性を秘めている。その事業場の健診を受け持てば，それ以上の利益は求めるべきではないとの声も聞こえてくる。

診療報酬マイナス2.7%改定に応じたのも,今の世の流れに止むなくの気持ちであり，まさか患者負担増が同時に行われることは,「寝耳に水」であったと坪井会長も述べている。マイナス2.7%改定だけで，健保財政は十分であるとの日医思案は，もののみごとに政府に利用された。会長も悔しかったであろう。患者負担増があたかも医療機関の収入増に錯覚するような方法は断じて排除しなければならない。

受診抑制は患者負担増もあるが，日本全体の景気低迷の方が影響力があるとの意見もある。又，政府は患者負担増という名目で税収を増加させたという見方もできる。

経済低迷により，税収減少・健保収入減少を見越しての患者負担増が決定されたとしたら，それは政府の責任である。

自殺者が３万人を超え，メンタルヘルスの重要性が指摘されている。３万人の内，労働者が約8,000人で45歳から65歳に集中している。戦中，戦後，食糧事情の厳しいあの環境の中で生き抜いてきた年齢層である。精神的・肉体的に強い年代と考えていたが，それ以上にストレスが上回ったのであろうか。それともそれ以上に責任感が強い結果の現象であろうか。

平成14年10月26日，全国医師会勤務医部会連絡協議会メインテーマ「ついに来た医療改革」が山口市で開催された。その中で山口県立中央病院長であり，元山口大学附属病院長であった江里先生が自治体病院の５割強が赤字であり，黒字病院の多くが病院長に人事・予算の全てが委

任されている病院(これを全適病院という)であると強調された。自治体病院の一つのあり方として興味深い指摘である。

さて平成15年８月31日までに一般病院か療養型か混合型かの選択を迫られている。一般病院が経営的に成り立っていく為には，平均在院日数が14日以内を達成しなければならないとすると，一般病院は50～60万床でこと足りる計算になる。公的病院の全ベッド数は，約60万床であり,私的一般病院の倒産も現実味を帯びてくる。全日本病院協会が提案している亜急性期の病院即ち「地域一般病院」構想が受け入れられれば，私的病院も一息つける。医師の自殺者が増加すれば，政府は医療改革を緩めてくれるであろうか。それは，期待しない方が良い。

かつて，武見会長の頃，診療拒否という実力行使で政府に対抗したことがある。その方法論は,今の国民には反発を促す結果となり,かえって日医を窮地に追い込むことになるので，なりふり構わずではなく，もっと品のある対抗手段を用いたいと坪井会長は発言している。

竹中平蔵，金融・経済財政担当相は，平成14年１月１日の住所は米国にあり，従って税金は米国に支払うことになるが，これを知っている国民は何人いるのであろうか。どうして，そういうことになったか私自身詳細については知らないが,事実はそうである。これで日本の経済・財政面を本当に担うことができるのであろうかと不安に思う。日本医師会も個人攻撃はしない所に品がある。やっぱり日本医師会は学識者集団であり，頭脳集団であり，品を重んじる集団である。品は，すべてにおいて余裕のなせる業（わざ)である。

お知らせ

宮崎県医師会館の閉館について

県医師会館(医師会，医師国保，医師協同組合・エムエムエスシー，病院厚生年金基金)は年末・年始休業のため，下記のとおり閉館いたしますのでお知らせします。

記

期　間　　平成14年12月29日(日)～平成15年１月３日(金)

随　筆

「国際山岳年」にあたって
― 紙の節約と森の保護・育成 ―

宮崎市　野崎病院　友成久雄（ともなりひさお）

国連の「国際山岳年」についてはこれまでメディアもほとんど取り上げていなかったようである。今年がそれらしいということは，私は別の方面からうすうす聞いていたが，それがどういうものなのかは５月の新聞（朝日新聞「私の視点」）で初めて知った。それは山岳地域の環境保護を目指すもので，山々と山麓住民の文化を守るのが目的であるという。世界で60か国に国内委員会が組織され，日本でも昨年11月に委員会が発足しており，日本委員会事務局長の江本氏によれば，山々の明日を考え，山々を大事にしようという世界的な行動が起こされたわけだという。森林保護も大きな眼目になるわけで，われわれも無関心ではおれない。筆者は２年前入院したとき「地球村宣言」（高木善之著）という本を読んで，環境問題の深刻さにあらためて愕然とし，暗澹たる気持ちになった。その後とくに紙や木のことが頭に引っかかっていた。

日本の木材・紙の消費：日本は国土の70パーセント近くを山が占めており，美しい風景を与えてくれているが，私たちは周囲の山々に無感動になっていると，江本氏も述べている。熱帯雨林の破壊のことは以前から聞き及んでいることだが，この際あらためて森林保護のことに注意を喚起したいと思う。

日本では木材の54パーセントが建築用資材に使われ，その中でビルやマンションを建てるときに木製の型枠やコンクリートパネルなどの使い捨てがあるという。29パーセントが紙を作るパルプ用材として使われる。紙を作るのには間伐材だけでなく，実際には建材や家具に使える木全体がチップ工場に運ばれているという。そして，その量は3,000万立方メートルで，日本の森林面積の80分の１に相当するというから，大変な量である。

ところで，われわれの周りにはおびただしいダイレクトメールやチラシが届けられ，積もってくる。雑誌や本などの出版物もますます増えている。医学関係の専門図書にしても同様である。専門分化して増えた学会や研究会も機関紙や報告書を出す。もちろん医学の進歩によるところも大きいから，ある程度はやむをえないのだが。

病院関係の紙の使用：医師の職場である病医院は，一般に紙を多量に使用する企業体ではないかと思われる。なかでも精神科では病歴が長く，また対話を主とする診察の記録も量が多い。看護記録も同様に長く，カルテが厚くなる。最近病院で気になるのは各種の用紙が大型化したことである。数年前保険請求のレセプトがＢ５版からＡ４版に変わり，それに連動してカルテ用紙も大きくなった。最近は各種の監査で，医療行為を詳しく記録するように厳しく指導されるのだが，作業療法とか心理テスト，画像診断など指示書や依頼書，検査報告などまでほとんどＡ４になりつつある。従来のＢ５で十分間に合っていたのだが。医師や看護師が記録に使う用紙は広くなっても必ずしも無駄を生ずるわけではない。

ただ,ドクターの使う用紙は中央に縦の線が入っていて，左半分に診察所見を，右半分に指示を書くようになっていて，左右で日付を合わそうとすると，どちらかに空白ができる。そういうことで私は診察記録を書くときはいつも気を使う。記録を後で見やすいようにという配慮もしなければならないから。

お役所など外部から要求される診断書もやたらに大きくなった。年金診断書などは従来B4版だったものが,何とA3版に変わり,広すぎてかなりの空白ができる。何故そんなに大きくしたのか理解に苦しむが，筆者が想像するに，保管する場合二つ折りにしてA4になるようにするためではないか。

製薬会社からもらう薬の説明書もA4版で,上質の厚い紙を使用している。内容がより多く，見やすければPRの効果がより大きいのだろう。お役所から送られる通達などもすべてA4に変わった。宮崎県，宮崎市郡医師会からの通知や報告は，従来のB5のままであり，好ましいことだ。ただ，細かいことを言うようだが，宮崎市郡医師会の封筒はA4対応で大きすぎるので,関係者のご検討をお願いしたい。

文具店で訊いてみると,A4判はもともと欧米から来たもので，今や国際標準規格になっているという。最近は企業体でもA4に変える所が多くなっている。だから，価格も小売では狭いB5のほうが少し安いが，大量に仕入れたり，入札で購入する場合はA4の方が安くなることもあるという。A4はB5より33%も広いのにである。それは途上国の材料(木材)が安くて，紙の価格における材料費のウエイトが小さいことも意味していると思う。消費者は値段が同じか，安ければ広い方を買うだろう。そして結局は木を浪費することになる。チリ紙交換車が来なくなって久しい。円高もあって外材が安く輸入されるようになったから，再生紙の方がかえって高くなり，リサイクルも進まないわけだ。

森林のはたらきとその破壊：ここで，紙の原料を産出する森林の働きとその重要性をあらためて復習してみたいと思う。「地球村宣言」によると，森林には植物から昆虫，鳥，小型・大型動物が集まり，それらが食物連鎖の中でつながり，豊かな生態系を形成し，共生している。樹木はその中に水を蓄え，少しずつ蒸発させて雲をつくり,雨を降らせる。草木の根は雨を蓄え,それを少しずつ地下に流し，それが渓流や川となる。森林は自然のダムといわれる。全体でわずか10パーセントの熱帯雨林が地上生物の60パーセントを養っている。そして地球全体の酸素の３分の１を供給しており，二酸化炭素を吸収するなど，空気を浄化する働きもある。しかし，スギやヒノキ，マツなどの人工林はそれらの働きがほとんど欠けているのである。そして，森林破壊は食糧不足,水不足,地球温暖化の加速,砂漠化の進行などをもたらすのである。

世界の原生林は76パーセントが失われているという。ヨーロッパは産業革命以後18世紀までに自然林がほとんど消失し,アメリカでも85パーセントが失われている。乱開発や商業伐採のためだ。シベリアの寒帯林の破壊も始まっているという。国連のFAOは後100年で世界の森が消えると警告している。一方,日本は国土の66パーセントが緑で覆われている世界第二の森林国だという。戦後スギ，ヒノキの植林に励んだからだが,儲からない第１次産業を犠牲にしたため,農業は衰退し，林業はほとんど壊滅状態だという。それで木材需要の70パーセント以上を輸入に頼っており，それは世界中の20パーセントを占めている。だから，日本は世界有数の森林破壊国になっているというわけだ。

紙・木材の消費と節約：日本人１人当りの紙の消費量は１年に223kgにもなり,世界第２位だという。紙１トンを作るのに直径14センチ，高

さ８メートルの木20本が必要で，日本人１人で約５本伐採していることになる。それでは，紙の消費を減らすのに私たちはさしあたって何ができるだろうか。高木氏は，基本的にはできるだけ買わない，使わない，捨てない，リサイクルするという４か条だという。われわれ医師もあまり読まない雑誌を定期購読したりしていないだろうか。必要な学術誌は個人で取らず，複数の医師がいる病院では医局に取ってもらうようにする。コピーも便利だが，安易にしてはいけないようだ。

宮崎にも以前から簡易包装を実施しているデパートがある。そこは何年か前買い物用の袋として布製とビニール製の２種類を置いていたが，ほとんど売れなかったという。デパートにもスーパーにも買い物かごや袋を持っていく人は見かけない。みんながサービスの紙袋やビニール袋に頼り，結局使い捨てにする。筆者は５年前東欧を旅行したとき，プラハのスーパーで果物を買ったところ，入れ物のサービスはなかった。各自入れ物を持参しているのだ。私はそこで売っていたビニールの袋を買わねばならなかったが，それは丈夫で見栄えもよく，長く使えそうだった。使い捨ての無駄をしていないのに感心した。

私たちは個人で，家庭で，あるいは職場で紙の節約をすることができる。自分だけやっても微々たるものだからしないというのではなく，一人ひとりが実行すれば大きな量になると，前向きの積極的な考えに改めなければならない。グリーンコンシューマー（緑の消費者）というのがある。環境に与える影響を考えて買い物をする人のことで，彼らは再利用できる容器を選ぶ，使い捨て商品をさける，リサイクルできるものを選ぶ，生産から廃棄までの段階で資源やエネルギーを浪費しないものを選ぶ，環境対策に積極的な店やメーカーを選ぶ，といったことを主に実行しているのだという。つまり，環境保全につながる行動をするわけで，ドイツではほとんどの人がグリーンコンシューマーだが，日本ではわずか１パーセントにすぎず，全国ネットワークもなかなか広がらないそうである。世界環境デーの６月５日，宮崎県では携帯用買い物袋のエコバッグを配布したりして，環境に配慮した消費活動を呼びかけていた。こういう行政の取り組みも大事だが，市民の意識の向上が望まれる。

一方，グリーン購入法というのが平成13年４月から施行されている。これは正式には，「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」という長い名前の法律で，環境への負荷が少なく，再使用または再生利用のしやすい「環境物品」の使用を推進しようというものである。現在のところは国，独立行政法人，地方公共団体だけに義務付けられており，民間の事業者や国民はそれに縛られないが，教育や広報活動を行って，一般の理解と実践がなされることを目指している。すでに，その法律に沿うように取り組んでいる民間企業も少数ながらあるという。

最近のニュースによると，建設リサイクル法というのができて，今年の５月末発効した。それは建物の解体による廃材の再利用を義務付けたものである。木材のリサイクル率は低く，まだ10パーセントに過ぎないという。紙のリサイクルもやはり国のレベルで考え，再生紙がより高価だといったようなこともなくしてほしいと思う。

ところで，木は育った年数だけもつといわれている。だから，木材を使う木造住宅や建材，家具などをその木が育つのにかかった年数だけもつように作れば，外材の輸入はゼロに近くなるという。そのためには耐用年数の短い合板を使わないようにしなければいけないのだそうである。ただ，天然木はコストが高いという問題がある。また，紙の製造に関することだが，稲

本氏によれば，木から紙を造るのは無駄が多いのだという。紙になるのはセルロースであって，木材からパルプ，紙に進む間にリグニンを除去しなければならない。その過程で膨大なエネルギーも消費する。クマザサとかツル系植物などはリグニンが少なく，セルロースが多いので，紙の原料に適しているが，それらから紙を造るノウハウがまだ確立していないという(これは1985年ごろまでのことで，その後研究がどれだけ進んだかは調べていない。こういう研究は各国が連携して早く進めてもらいたいと思う)。

森林の保護と森づくり：乱開発によって子供の頃よく遊びに行っていた里山がなくなった。子供たちにも動植物や樹木に接する心豊かな生活が望まれる。われわれ日本人は周りに山があることを当たり前と思っているが，その景観が生活環境のアメニティをどれだけよくしてくれているか，感謝していいと思う。森林は心を和ませ，癒しになる。これまで人間中心の自然観や文明が自然を征服し，破壊してきた。その結果，多くの動植物が絶滅したり，その危機に瀕している。森林を愛し，それに親しんで，森や自然と共生する生き方に変えていかなければならないと，筒井氏も述べている。

森林の保護に努める一方で，森づくりを進める活動もあちこちで取り組まれ始めている。宮崎県も最近，「みやざき悠久の森づくり」という構想の策定を発表し，県民参加の森づくりを推進するという。筆者は最後に，「ドングリ1000年の森をつくる会」というボランティア団体を簡単に紹介したいと思う。同会発行の「どんぐり通信」によれば，大淀川流域の国有地に流域住民の60万人が毎年１本のドングリの苗を植えていくと，1000年かって常緑広葉樹林が復活するという。環境問題にはとかく悲観的になりがちだが，筆者はその遠大な計画に希望を感じて入会した。同会は６年前発足し，現在約500人の会員がおり，その18パーセントは県外の人である。500円で１本の苗を大きな木に育てようという計画で，すでに14ヘクタールに22,000本のカシ類，シイ類などの苗木を育てている。ピクニックを兼ねたような植樹会などの活動に子供も一緒に参加すれば，子供たちが山や植物に接すると同時に，彼らに森林の大切さを教育するいい機会にもなるだろう。

医療機関には多数のコ･メディカルや職員も勤務しており，紙の使用についても，とくに院長や理事長の影響力は大きい。医師会員各位のよき理解とご配慮をいただければ幸いです。

〈参照図書〉

高木善之：「地球村」宣言，1999年，ビジネス社
稲本　正：緑の国から，1985年，現代出版
筒井禎夫：森林文化への道，1995年，朝日新聞社

「ドングリ1000年の森をつくる会」事務局
〒885-1103
都城市上水流町4530 - 2 佐土原裕一方
TEL & FAX 0986 - 36 - 1171

エコー・リレー

（328回）
（南から北へ北から南へ）

柿の想い出

延岡市　赤須医院　赤須正道（あかすまさみち）

柿や蜜柑が色づくと医者が青くなるとか？小学４年生の秋，遊び仲間の１人が，「柿を千切りに行こう？」と言い出した。皆が賛成し私も行った。途中，誰かが柿の木の有る家の爺さんは，柿を千切ると「こらっ！」と大声を出して面白いよ，と話して呉れた。柿を千切っていると「こらっ！」と大声がしたので皆一斉に逃げた。柿を千切った事を忘れ遊んでいると，父が往診から帰って来るなり「正道，ポケットが膨らんでいるが何を入れているのか」と聞かれ無断で千切った柿を見せると，父は透かさず何度も殴り鼻血が出た。父は柿の木の有る家へ謝りに行く私に同行した。「申し…」と父が言うと，小柄なお爺さんが出て来て「あら，先生今日は何事ですか？」と父に尋ねた。父は「息子がお宅の柿を許しもなく千切ったと言うので，謝りに来ました」と答えた。「先生，柿の１つや２つ千切ったくらいで，わざわざお出でにならなくても」と，お爺さんが言うと父は急に怒り出して「柿泥棒をした息子と謝りに来たのに，柿の１つ２つ千切ったくらい良いとは何ですか」と，父の言い分であった。

その後父は，庭に柿の木を植えて呉れた。毎年たわわに実る柿を眺めると，父親の威厳・優しさとあの少年の日の事が懐しく思い出される。

〔次回は，宮崎市の早稲田芳男先生にお願いします〕

家族の手術

宮崎市　宮崎社会保険病院　白尾一定（しらおかずさだ）

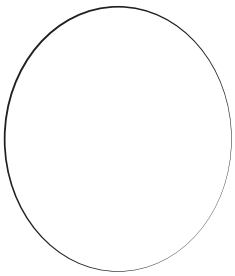
医学生時代に祖父が残胃癌になり，主治医から癌の進行度と手術の危険性などの説明を受けた。腹水があり腹膜播種も否定できない，高齢で術後合併症も高いという説明であった。家族会議が開かれ手術について話し合ったが結論は出ず，小生にまかされた。他病院の外科医の説明も受けるなど，情報を集め主治医と納得いくまで話した。手術は断念し，祖父は約１年後に死亡した。臨終の時に口対口呼吸をしたことを鮮明に覚えている。今考えると，祖父の死を受け入れられなかったのであろう。

医学部を卒業し祖父の主治医であった医局に入局した。卒後５年目に出張中，たまたま検診を受けた叔父の早期胃癌を発見した。先輩に手術の判断を仰ぎ術者として胃亜全摘術をした。親族の期待がずっしりと重くのしかかり皮膚切開のメスの動きがぎこちなく，術後も毎日が心配で退院するまで朝昼夕病室へ行って創部を観察した。現在，術後15年目になるが再発なく経過している。手術を任せて指導していただいた先輩に感謝している。

最近，一緒に働いている後輩が父の手術について相談してきた。手術への自信と病院への信頼がないと肉親の手術をする決断はつかないものである。15年前のことを思い出しながら，後輩の手術の助手をした。不安と責任を一度に背負って手術をしている後輩の姿が頼もしく感じられた。心の葛藤を経験することで，全ての患者を家族の一員として接する医療の原点をみつめる家族の手術であった。

〔次回は，都城市の貴島俊英先生にお願いします〕

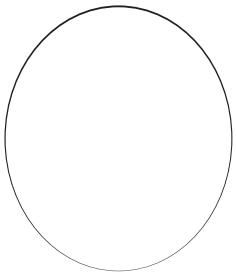
叙勲・祝賀



勲五等双光旭日章(保健衛生功労)

渡邊得三（わたなべとくぞう）　先生（日向市）

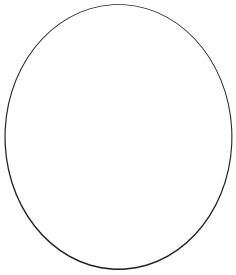
高齢者叙勲において，保健衛生功労により，９月26日㈭（８月１日付を以って)勲五等双光旭日章をお受けになりました。



勲四等瑞宝章（保健衛生功労）

有満金郎（ありみつかねお）　先生（都城市）

このたびの秋の叙勲において，保健衛生功労により，勲四等瑞宝章をお受けになりました。



勲五等瑞宝章（保健衛生功労）

加藤重信（かとうしげのぶ）　先生（串間市）

このたびの秋の叙勲において，保健衛生功労により，勲五等瑞宝章をお受けになりました。

受章されました先生方に対しまして，衷心から祝意を表しますと共に，今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。

表彰・祝賀

宮崎日日新聞賞（科学賞）受賞

宮崎医科大学第二内科
坪内博仁（つぼうちひろひと）　教授（清武町）

劇症肝炎患者血漿から世界で初めて肝細胞増殖因子（ＨＧＦ）の精製に成功，その生理的役割を解明した功績により，10月24日㈮宮日会館ホールにおいて，宮崎日日新聞賞（科学賞）をお受けになりました。

社会保険診療報酬支払基金関係功績者として厚生労働大臣表彰

栗林忠信（くりばやしただのぶ）　先生（宮崎市）

社会保険診療報酬支払基金関係で医療保険制度の発展の功績により，10月24日㈭厚生労働省において，厚生労働大臣表彰をお受けになりました。

精神保健福祉事業功労者として厚生労働大臣表彰

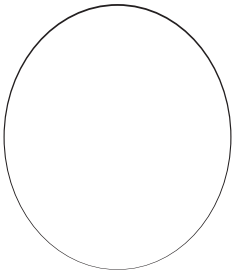
藤元登四郎（ふじもととしろう）　先生（都城市）

精神保健福祉事業の功労により，10月30日㈬東京厚生年金会館で開催された50周年記念精神保健福祉全国大会において，厚生労働大臣表彰をお受けになりました。

精神保健福祉事業功労者として厚生労働大臣感謝状

近間（ちかま）　悟（さとる）　先生（宮崎市）

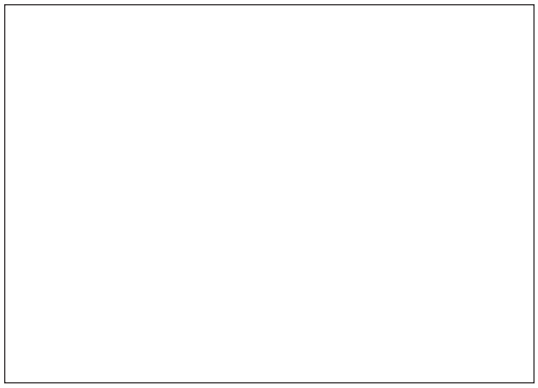
精神保健福祉事業の功労により，10月30日㈬東京厚生年金会館で開催された50周年記念精神保健福祉全国大会において，厚生労働大臣感謝状をお受けになりました。



救急医療体制の確立に貢献した功労者として日本医師会最高優功賞受賞

河野（かわの）　通（とおる）　先生（宮崎市）

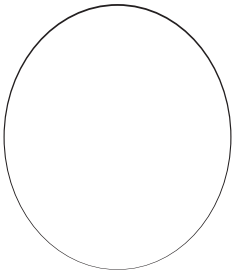
救急医療体制の確立に貢献した功労者として11月１日㈮日本医師会館において開催された第55回日本医師会設立記念医学大会において，日本医師会長から日本医師会最高優功賞をお受けになりました。



学校保健及び学校安全の功労者として文部科学大臣表彰

内之浦（うちのうら）　明（あきら）　先生（都城市）

学校保健及び学校安全の普及と向上とその充実の功労により，11月７日㈭福井市で開催された第52回全国学校保健研究大会において，文部科学大臣表彰をお受けになりました。

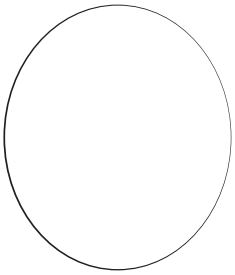


公衆衛生事業功労者として厚生労働大臣表彰

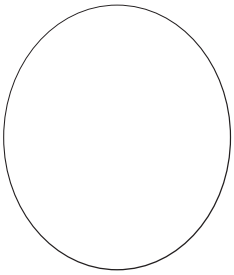
吉松（よしまつ）　成人（なりひと）　先生（都城市）

井上（いのうえ）　日出男（ひでお）　先生（延岡市）

公衆衛生事業功労により，11月７日㈭富山市で開催された第６回地域保健全国大会において，厚生労働大臣表彰をお受けになりました。



吉松 先生



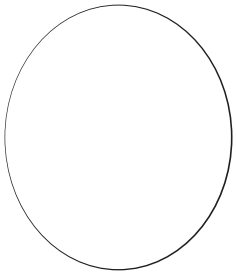
井上 先生

公衆衛生事業功労者として財団法人日本公衆衛生協会長表彰

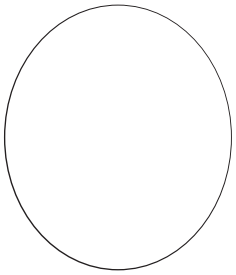
長田（おさだ）　憲二郎（けんじろう）　先生（日向市）

上野（うえの）　百喜（ももき）　先生（西都市）

公衆衛生事業功労により，11月７日㈭富山市で開催された第６回地域保健全国大会において，日本公衆衛生協会長表彰をお受けになりました。



長田 先生

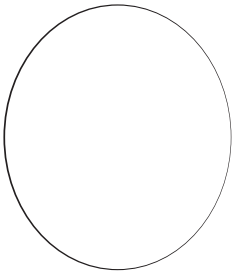


上野 先生

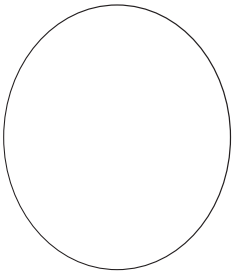
宮崎県公衆衛生事業功労者として県知事表彰

倉岡誠三（くらおかせいぞう）　先生（宮崎市）
佐藤重国（さとうしげくに）　先生（西都市）

公衆衛生事業功労により，11月14日㈭，県企業局「県電ホール」において，県知事表彰をお受けになりました。



倉岡 先生

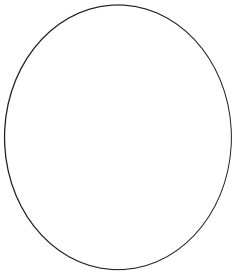


佐藤 先生

母子保健家族計画事業の功労者として厚生労働大臣表彰

寺尾博二（てらおはくじ）　先生（門川町）

母子保健家族計画事業の功労のより，11月14日㈭佐賀市で開催された母子保健家族計画全国大会において，厚生労働大臣表彰をお受けになりました。



各分野において表彰されました先生方に対しまして，衷心から祝意を表しますと共に，今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。

平成14年１月～12月
叙位・叙勲及び表彰・祝賀受賞会員

叙 位 ・ 叙 勲

【都城市北諸県郡】

勲五等瑞宝章（学校保健功労）（H14.４.29）	志々目　亨
勲四等瑞宝章（保健衛生功労）（H14.11.３）	有満金郎

【延　岡　市】

勲五等瑞宝章（保健衛生功労）（H14.４.29）	平田　実

【日向市東臼杵郡】

勲五等双光旭日章（保健衛生功労）（H14.８.１）	渡邊得三

【南　那　珂】

勲五等瑞宝章（保健衛生功労）（H14.11.３）	加藤重信

表 彰 ・ 祝 賀

【宮 崎 市 郡】

宮崎県医療功労者　県知事表彰（H14.６.29）	市来　齊
	川越博道
	徳丸泰稔
社会保険診療報酬支払基金関係功績者　厚生労働大臣表彰（H14.10.24）	栗林忠信
救急医療事業功労者　県知事表彰（H14.９.６）	志多武彦
精神保健福祉事業功労者　厚生労働大臣感謝状（H14.10.30）	近間　悟
救急医療体制の確立に貢献の功労者　日本医師会最高優功賞（H14.11.１）	河野　通
公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰（H14.11.７）	森下博夫
宮崎県公衆衛生事業功労者　県知事表彰（H14.11.14）	倉岡誠三

【都城北諸県郡】

救急医療功労者　厚生労働大臣表彰（H14.９.９）	姉川朔実
救急医療功労者　県知事表彰（H14.９.６）	福島正明
精神保健福祉事業功労者　厚生労働大臣表彰（H14.10.30）	藤元登四郎
学校保健及び学校安全の功労者　文部科学大臣表彰（H14.11.７）	内之浦　明
公衆衛生事業功労者　厚生労働大臣表彰（H14.11.７）	吉松成人

【延　岡　市】

救急医療功労者　県知事表彰（H14.９.６）	野　村　敏　彰
公衆衛生事業功労者　厚生労働大臣表彰（H14.11.７）	井　上　日出男

【日向市東臼杵郡】

宮崎県医療功労者　県知事表彰（H14.６.29）	鮫　島　哲　也
	松　岡　　弘
公衆衛生事業功労者　財団法人日本公衆衛生協会長表彰（H14.11.７）	長　田　憲二郎
母子保健家族計画事業功労者　厚生労働大臣表彰（H14.11.14）	寺　尾　博　二

【児　　湯】

宮崎県医療功労者　県知事表彰（H14.６.29）	喜　多　省　保

【西都市・西児湯】

公衆衛生事業功労者　財団法人日本公衆衛生協会長表彰（H14.11.７）	上　野　百　喜
宮崎県公衆衛生事業功労者　県知事表彰（H14.11.14）	佐　藤　重　国

【南　那　珂】

読売新聞賞（医療功労賞）（H14.２.４）	加　藤　重　信

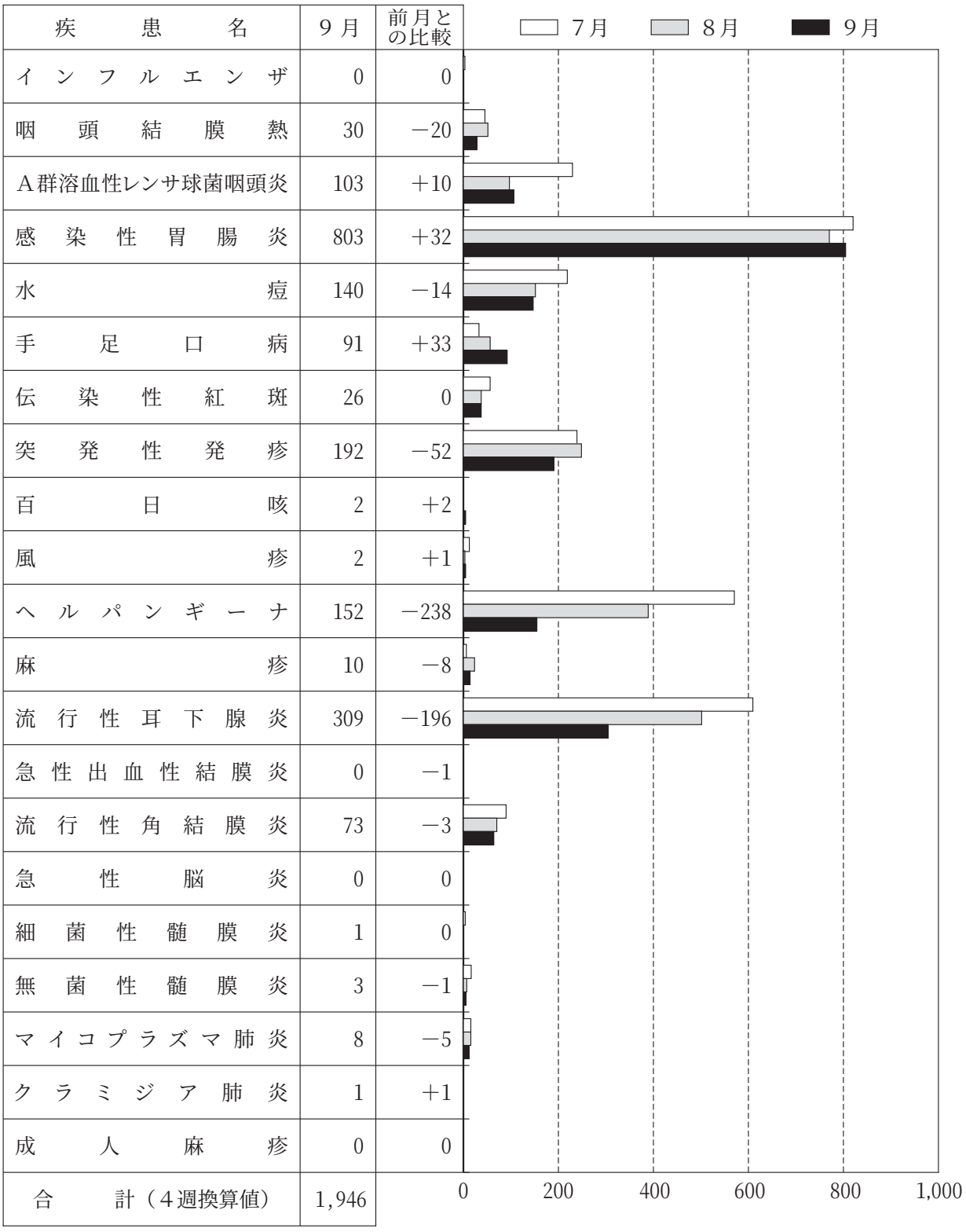
【宮崎医科大学】

宮崎日日新聞賞（科学賞）受賞（H14.10.24）	坪　内　博　仁

感染症サーベイランス情報

宮崎県の発生動向(定点把握)　　調査期間 14年８月26日～14年９月29日

疾患名	９月	前月との比較
インフルエンザ	0	0
咽頭結膜熱	30	－20
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	103	＋10
感染性胃腸炎	803	＋32
水痘	140	－14
手足口病	91	＋33
伝染性紅斑	26	0
突発性発疹	192	－52
百日咳	2	＋2
風疹	2	＋1
ヘルパンギーナ	152	－238
麻疹	10	－8
流行性耳下腺炎	309	－196
急性出血性結膜炎	0	－1
流行性角結膜炎	73	－3
急性脳炎	0	0
細菌性髄膜炎	1	0
無菌性髄膜炎	3	－1
マイコプラズマ肺炎	8	－5
クラミジア肺炎	1	＋1
成人麻疹	0	0
合計（４週換算値）	1,946	



グリーンページ

医療保険制度改革 ― 坂口私案

副会長　志　多　武　彦

１．医療保険改革を取り巻く情勢

長引く政治混乱，経済低迷，不況の下，医療を取り巻く環境は極めて厳しく，多くの問題点，解決すべき点が改めて浮き彫りになってきている。もはや待ったなしの状況といえる。

当面の個別の対応は急ぐとしても，一方，医療に対する抜本的・本質的な議論も優先されねばならない。パッチワーク的な手法での限界は目に見えている。

英国労働党ブレア政権は,増税してでもＮＨＳ（国民保健サービス）再建の意向を明確にしている。サッチャー政権政策により，医療への市場競争原理の導入，経済市場主義，政府の公的責任の軽減が意図され,ＮＨＳが危機的状況に陥ったからである。いまや英国医療制度はドン底状態にあり,英国政府はＮＨＳ復活の為に予算も倍増しているという。国民の生命と健康と福祉を第一義とし，これを守る制度の運営を長期にかつ確実にするという，確たる信念と意思の表示と受けとられている。英国の意図する「第三の道」は我々としても注意深く見守る必要があると考える。

一方，我が国の現状をみると，本年４月の診療報酬改定，７月の健保法等改正案，健康増進法の成立があったが，成立過程に様々の問題，疑問があり混沌とした状態にある。医療関係者の全てがイライラし，ストレスがたまった状態かと思われる。

２．小泉内閣の姿勢

第155臨時国会が10月18日に召集されたが,小泉首相は医療制度改革の基本方針について,「医療保険制度体系のあり方の諸課題については，将来とも国民皆保険を堅持し，安定的な運営を図ることを基本に，現在厚生労働省でたたき台をとりまとめるべく準備を進めている」とし,「今年中に基本方針を策定し，医療制度改革に全力をあげて取り組む」との決意を改めて示した。

一方，小泉改造内閣で再任された坂口厚労相は就任挨拶で「医療，年金，介護，雇用など分野別でなく，社会保障全体としてどう取り組んでいくか，トータルでの考え方を忘れてはならない」と総合的観点からの取り組み姿勢の重要性を強調した。

３．坂口私案

ところで９月25日，坂口厚労相は医療保険制度改革の進め方と診療報酬体系の見直しに関する私案を公表した。

１）医療制度改革

医療保険改革の進め方では　平成19年～20年を目途に，国保と政管健保を都道府県単位に再編・統合するとともに，制度を通じた年齢構成と所得に着目した財政調整を行うことを通じて,制度を一元化するビジョンを示している。又，健保組合については新法人の設立も検討するとしている。

最大の特徴は，各医療保険制度と都道府県ごとの保険者に再編し，保険者間の財政

調整を行って保険財政の実質的な一元化をめざすことである。一元化により「医療費の給付と負担が公平化すれば，高齢者医療制度も吸収していく」構想である。

・本年10月施行の改正健保法の附則には医療保険制度体系，診療報酬体系，新高齢者医療制度について，今年度中に改革の基本方針を策定することが明記されている。厚労相私案を踏まえて厚労省としての改革案を11月を目途にまとめ，さらにこれをたたき台に，政府・与党・関係団体と意見調整し，今年度中に基本方針を策定することとなっている。

・坂口私案の医療保険制度見直しの改革工程表は以下の如くである（図１）。

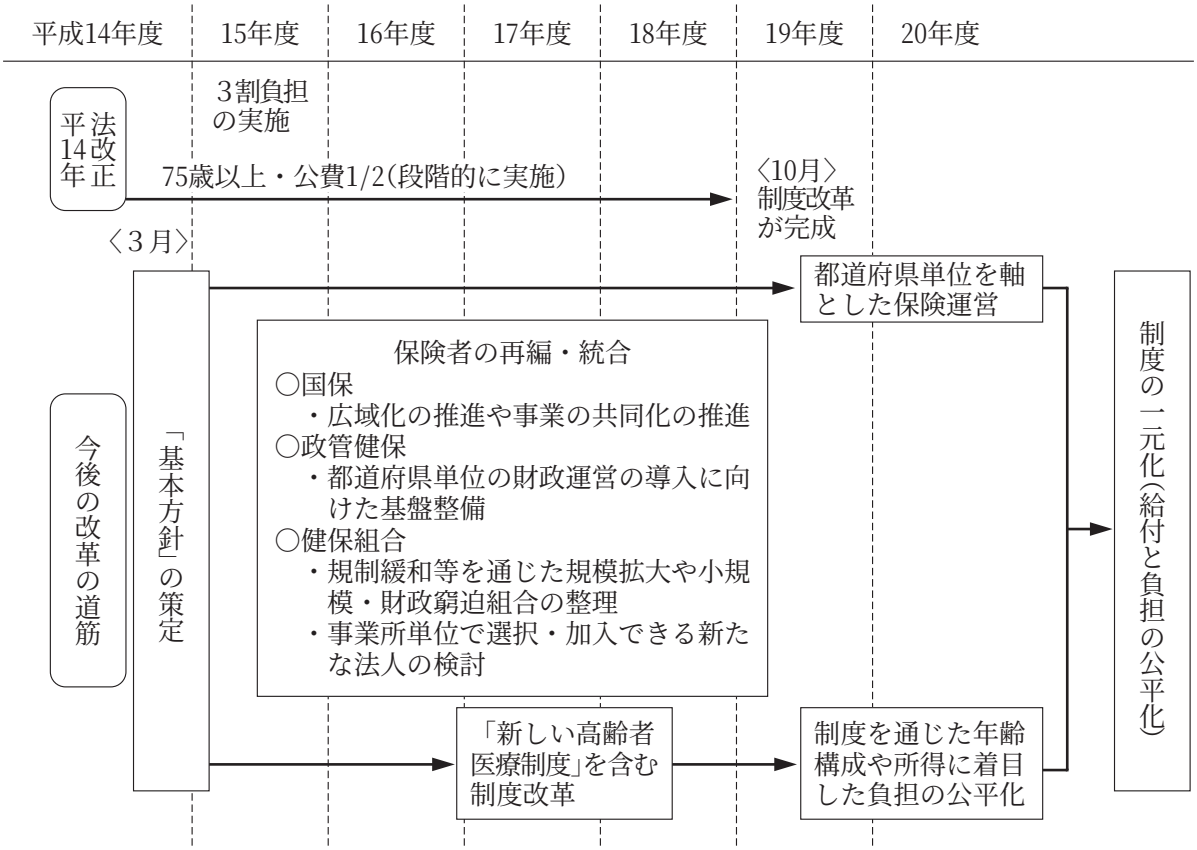


図１　医療保険制度改革に関する私案

〈ポイントⅠ〉国保・政管を都道府県単位に，組合健保には新法人を検討。

・先の通常国会で成立した改正健保法に沿った制度変更が19年10月に完成することから，19年～20年度までに保険者の再編，統合をすすめる。

・現在3,200以上ある市町村国保は，市町村合併・広域化・事業の共同化をすすめて都道府県単位の保険運営へ移行させる。規模の大きすぎる政管健保は都道府県単位へ分割する。保険者については都道府県か，市町村の統合体か，別のものか現段階では決まっていない。

健保組合は統合化を進めるために規制改革などを進めるが，最も難しいとされ，最終的には組合の主体性に任せるが，他組合との統合と政管健保への移行以外の選択肢として事業所単位で加入できる新しい法人設立も検討するとしている。

この他，共済組合・国保組合(医師国保等)も合併・統合を進める方針である。

以上をまとめると

①国保は都道府県単位に統合,政管健保は分割

②健保組合は関連組合間の統合，政管健保への移行，新しい法人の設立

③共済組合，国保組合を合併・統合

④最終的に地域保険と被用者保険の一元化，都道府県単位に統合再編

⑤制度間，保険者間の年齢・所得によるリスク構造調整後に一元化

というストーリーである。

参考までに各保険者の比較を以下の２つの表に示す。参考にして頂きたい。

表１　保険者の規模

（2001年３月末現在）

	保険者数	被保険者数（万人）	１保険者当り平均保険者数（万人）	加入者数（万人）	１保険者当り平均加入者数（万人）
政管健保	1	1,945	1,945.1	3,676	3,675.8
組合健保	1,756	1,503	0.9	3,138	1.8
船保	1	8	8.4	23	22.8
共済組合	78	449	5.8	1,001	12.8
市町村国保	3,242	4,337	1.3	4,337	1.3
国保組合	166	425	2.6	425	2.6
計	5,244	8,667	1.7	12,600	2.4

（参考）保険集団の規模に関する国際比較

	日本（2001）	ドイツ（2000）	フランス（2000）	アメリカ（2000）
保険者数	5,244	420	15	（HMOの場合・1999）
１保険者当り平均加入数	2.4万人	17.0万人	約５千万人（人口の約８割)が一般制度に加入,ほかの保険者は数十万人から百万人が一般的	12.6万人

表２　政府管掌健康保険・組合管掌健康保険・国民健康保険(市町村)の比較

	政管健保	組合健保	市町村国保
加入者数 (13年３月末)	３,６７６万人 本人1,945万人 家族1,731万人	３,１３８万人 本人1,503万人 家族1,635万人	４,３３７万人
加入者平均年齢 (11年度)※１	３７.０歳 (３４.６歳)	３３.９歳 (３２.６歳)	５１.７歳 (４３.３歳)
老人加入割合 (13年３月末)	５.６％	２.８％	２６.２％
保険料 (11年度決算ベース)	月収の８.５％ (労使折半) ボーナスの１.０％	月収の８.５％　※２ {事業主 ４.８％ 被保険者 ３.７％} ボーナスの０.９％	世帯毎に応益割(定額)と応能割(負担能力に応じて)賦課
１世帯当り保険料 調定額(11年度)※３	１５.０万円 (３０.１万円)	１６.０万円 (３６.５万円)	１５.３万円
１世帯当り年間所得 (11年度推計)※４	２４４万円	３８０万円	１６８万円
国庫負担	給付費の１３.０％ (老健拠出金は１６.４％)	定額 (予算補助)	給付費等の５０％ 保険料軽減分の1/2

※１　(　)内は70歳以上のものを除いた場合。
※２　組合健保の保険料率は全組合平均。
※３　(　)は事業主負担分を含む。
※４　国保は旧ただし書き方式に課税標準額（市長村民税の基礎となる総所得金額から基礎控除を行ったもの)であり,政管健保,組合健保は標準報酬をもとに賞与月額,給与所得控除等を見込んで推計したもの。

尚，慶応大学医学部医療政策管理学教授の池上直己氏は1998年,自著「ベーシック／医療問題」の中の日本の医療改革の章で「改革と理念の方向性」の中に「保険者の再編と財政調整」を取り上げ,第１に被用者保険(組合健保と政管健保)を県単位に徐々に再編する。第２に国は各県に対し,県は県内の各保険者に対して,加入者の性・年齢・所得水準を考慮して，それぞれのレベルで財政調整を行う。第３に県内の各保険者の保険料が平準化した時点で,県民に対し２つの選択肢－１つは１つの保険者に統合，１つは２～５の保険者が競争する体制にして県民に保険者を選択させる－を示すとしている。

保険者統合に関しては，先見の明のあるユニークな発案である。国保統合については触れられていない。

〈ポイントⅡ〉リスク構造調整で，給付と負担の公平を図る。

私案はポイントⅠの保険運営の都道府県単位化と平行して，年齢，所得に応じたリスク構造調整を通して負担の公平化を図り，制度の一元化を実現する道筋を描いている。

高齢者医療制度については「保険者の統合・再編により，制度を通じた給付と負担の公平が図られれば必ずしも必要ない」と述べ，年令構成・所得による財政調整・リスク調整の導入に前向きである。しかしながら高齢者の医療費財源を保険料で賄うか，税なのかの議論が残されていることから，日医や自民党の主張している独立方式も排除はしていない。

高齢者医療制度に関しては，その早期創設を重視する意見も多い。日医や自民党部会もその方向であるが，健保連も以下のコメントを出している。「高齢者医療費をどうするかが一番大きな問題だ。国保の統合にある程度の合理性はあるが，統合しても高齢者医療費問題は何も解決しない。高齢者医療制度をどうするのか解らないので，私案と言われても，コメントのしようがない」。

民主党も６月12日に医療制度改革案を発表している。民主党案では医療保険制度の改革について，保険集団の再編成と保険者間のリスク構造調整の導入，さらに高齢者も従前に加入していた保険に継続して加入する方式（いわゆる「突き抜け方式」）とすることが柱となっており，保険集団の再編成では，①政管健保を原則都道府県単位に分割，②組合健保は10分の１程度に統合，③国保は原則都道府県単位に統合，する考え。このことから「坂口厚労相が９月25日に示した坂口私案と民主党案は似ているし，かみ合った議論が期待できる」としている。

制度一元化を目指す背景としては以下のこと等が考えられている。

⑴　国保加入者の増加と国保の特殊性

平成10年から11年末までの１年間で100万人が国保に加入した。70万人は老人で多くは年金受給者であり，30万人は若人であるが多くは失業者やパート労働者である。

元来，国保は健保退職者，国保組合事業終了者が加入する。国民皆保険を守る最後の砦であり，これらの人々を引き受ける構造になっている。かかる事情をもう少し考える必要がある。厳しい小規模保険者で，運営改善には市町村合併と広域化しか残された途はない。

⑵　各保険者の国庫負担と保険料がバラバラである（表２）。

⑶　地域による保険料の格差が10倍もある（地域による医療費格差は４倍）。

⑷　今回の健保法改正で原則７割給付で統一され，給付については一本化，一元化された。

⑸　保険者の規模がバラバラで数が多すぎる（表１）。

２)診療報酬体系見直し

示された私案は表３の如くである。

表３　診療報酬体系の見直しに関する私案

Ⅰ．基本的考え方

診療報酬体系については，患者の視点から質が高く効率的な医療を提供するとともに，医療技術や医療機関の運営コストが適切に反映されるよう，基準・尺度の明確化を図り，透明性の高い体系へと見直しを進める。

Ⅱ．改革の基本的方向

診療報酬体系を医療技術の評価(ドクターズフィー的要素)と医療機関の運営コストを反映した評価(ホスピタルフィー的要素)に再編。

１．医療技術の適正な評価(ドクターズフィー的要素)

医療技術については,出来高払いを基本としつつ,「難易度」や「技術力」,「時間」等を踏まえた評価を推進するとともに，重症化予防や生活指導を重視。

２．医療機関の運営コストを反映した評価(ホスピタルフィー的要素)

医療機関の運営コスト等に関する調査・分析を進め，入院医療の包括化を推進することとし，急性期については疾病特性や「重症度」に応じた評価手法の検討を進め，慢性期については患者の病態等に応じた評価を推進。

３．患者の視点の重視

医療機関等に関する情報提供や患者の選択を重視

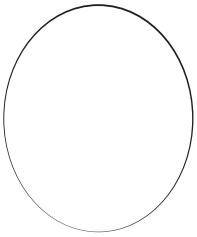
患者のニーズの多様化・高度化を踏まえ，高度先進医療を拡大

診療所についてプライマリケア機能を重視

医療技術を適正に評価するドクターフィー的要素，医療機関の運営コストを反映した評価を行うホスピタルフィー的要素の２つの基準に再編し，患者の視点を重視する方向性を示した。医療技術の評価は従来通りの出来高払いを基本とし，難易度・技術力・診療時間を加味した評価を行うほか，重症化予防・生活指導を重視した保険点数を設定するというものである。コスト反映の評価では運営コストを調査・分析し，入院医療は包括化，急性期は重症度，慢性期は病態の評価を推進するとしている。

宮崎医科大学だより

―周産母子センター―



池ノ上 克（いけのうえ つよむ） 教授

沿　革

宮崎医科大学附属病院開設以来別々に機能していた分娩部（産婦人科）と新生児集中治療室（NICU・小児科）が一緒になり，平成８年（1996年）５月，旧分娩部に周産母子センターが設置されました。平成10年（1998年）４月には，附属病院4階に，16床のセンターとして新築され，平成11年（1999年）４月には新生児特定集中管理の施設基準として，6床が認可されました。

スタッフ

部長は池ノ上 克教授（産婦人科）と布井博幸教授（小児科）が２年交代で務めています。副部長に鮫島 浩助教授（産婦人科），教官として，髙木純一講師（小児科），池田智明講師（産婦人科），金子政時助手（産婦人科），河野慶一郎助手（小児科），米田由香里助手（産婦人科）が配属されており，産婦人科と小児科の新生児領域の医師が一緒になって，毎日仕事をしています。

診療体制

妊産褥婦，胎児，新生児を包括的に診療する「周産期医療」の宮崎県における第３次施設として，24時間オープンしています。年間に約50例の母体搬送と約40例の新生児搬送を受けており，重症新生児や低出生体重児などの新生児入院は約200例です。

周産母子センターでは，産婦人科や小児科だけでなく，内科，外科，眼科，耳鼻科，脳神経外科，麻酔科，泌尿器科，整形外科などほとんど全ての科との連携の中で，集中治療を行っているのも特徴です。

また，医療関係者の教育機関として，研修医や医科大学生はもちろんのこと，看護科，看護大学，看護専攻科，他施設の医療従事者の実習も行っています。このように研修を受けた人材が，宮崎県内の周産期施設において，第一線の医療を展開することによって，県内の周産期医療は確実にレベルアップしています。

医師会や宮崎県の行政機関との関係も極めて良く，宮崎周産期セミナー，日向（ひむか）セミナーなどの講習会も合同で行っています。また，周産母子センターは，県内のNICU を有す他の５施設の現場で働く，産科側と新生児側の医師とともに，宮崎県周産期症例検討会を平成10年（1998年）に結成し，県内の周産期ネットワークの確立に一役かっております。

また，胎児・新生児期に原因が求められる周産期脳障害の基礎的および臨床的研究など，産婦人科学と小児科学領域以外の領域も包括した総合的な研究を展開しています。

平成10年（1998年），宮崎，延岡，日南の３県病院で施設導入や人員拡充が進められました。その結果，「一般病院－拠点病院－センター」という周産期医療のネットワークが完成し，宮崎県の周産期死亡率は，平成11年（1999年）には，日本一低い3.9に改善されました。このことを評価され，平成13年度宮崎日日新聞科学賞を戴きました。今後も，宮崎県の周産期医療のために，日夜努力して参りたいと思います。

（講師　池田（いけだ）　智明（ともあき））

お知らせ

平成15年度
臨床研修医師募集
県立宮崎病院

①　病床数：630床　③　臨床研修指定病院
②　診療科：　18科　④　関連教育病院指定
⑤　三次救急病院指定

1．臨床研修の特徴

内科系・外科系の２系統を中心とした
ローテーション研修プログラムを設定

2．募集関係事項

⑴　募集人員：数名
⑵　応募資格：平成15年３月医師免許取得見込者
　　または，医師免許取得者
⑶　応募締め切り：平成14年12月20日
⑷　選考日：平成15年１月中旬
　　（内定通知：平成15年１月下旬）
⑸　選考方法：書類審査及び面接
⑹　採用予定日：平成15年５月16日
⑺　待遇：報酬は宮崎県の規則に基づき定めた額

問い合わせ先　県立宮崎病院
（TEL：総務課管理係：0985 - 24 - 4181）

患者さんへの融資のご案内

下記事業は,公的制度ですので,安心してご利用ください。

出産費融資制度（無利子）

出産費をご融資します。みなさまが家計の心配をせず,
安心してご出産を迎えられますよう,お手伝いさせていただきます。

◎融資が受けられる方
　政府管掌健康保険・船員保険の被保険者または
　被扶養者で,出産育児一時金の支給が見込まれる
　方のうち,次の①もしくは②に該当する方。
　①出産予定日まで１か月以内の方
　②妊娠４か月(85日)以上で一時的な支払を要する方

◎貸付金額
　１万円単位で24万円まで,無利子です。
　（出産育児一時金の支給額の８割を限度）

― お気軽にお申し込みください。―

政府管掌健康保険・船員保険の被保険者のみなさんへ

無利子

高額な医療費の支払いに
高額医療費融資制度のご利用をどうぞ

手続き簡単，すぐに貸し付けされます。

●お問い合わせは
㈶宮崎県社会保険協会　電　話0985(23)0200
ＦＡＸ0985(23)9077

第３回各郡市医師会長協議会

と　き　平成14年10月８日㈫
ところ　県医師会館

稲倉常任理事の司会により，秦会長の挨拶に引き続き開催された。

報　告

１．９/20㈫(日医)第３回都道府県医師会長協議会について

秦会長から次のとおり報告があった。

都道府県医師会長協議会の当日の資料は全て配布しています。後ほどゆっくり目を通していただきたいと思います。９月20日，第３回都道府県医師会長協議会が開催され，それを受けて本日の各郡市医師会長協議会を行っている訳ですが配布資料の日医ニュース(10月５日　第986号)をご覧いただきますと，坪井会長が多くの先生方の意見を頂戴し，会務を執行していきたい，今まで以上に地方の声を聞きたいという姿勢を示しています。

保健所長の医師資格要件について，保健所長が医師でなくてもよいのか，という話ですが，宮崎県では問題にならない話で，むしろ保健所の所長を希望する医師が増えていて，普通の人は保健所長になれなくなりました。地方によってはまだ２割位の保健所が医師不足のようで，高齢の人がなるので医師の資格をはずしてくれということだそうです。日医では，医師資格要件の廃止については，地域住民の生命・健康を確保していくために強く反対しています。

外総診については，包括範囲の基準や外総診そのものが不明確で取りにくかったという苦情がいろいろ日医に寄せられているようです。実際に取っている人にとっては大打撃で，10，11，12月の３か月間でレセプト調査を実施しその影響を分析し対応しようという考えのようです。

その次は，入退院を繰り返す重症の肺結核患者について，病院を転々としている患者であり，元気になったら病院を出て行って悪くなると入院するのです。結核予防法第29条の規定には拘束力がないため，強制的に収容する方法がないようです。早速，日医から厚生労働省にその対応を要請する。死亡診断書と死体検案書の使い分けについては，法医学会のマニュアルで届出をしないといけない，そういうことがどうかという質問で，医師法第21条で異状死体の届出義務，はっきりしているのはこれだけです。

次に，三重県医師会が「緊急レセプト調査」の結果を踏まえた再改定の方策について質問がありましたが，日医は，中医協で４月の診療報酬改定の問題点の是正を主張して参りたいということです。

日医からは，医療改革特区について，医療改革の特区という名前をうたずに，医療に関連する特区が次々出てきているので注意していただきたいということです。「特区」となぜ騒ぐのかと言いますと，特区構想では「株式会社の医療への参入」「混合診療の容認」「外国人医師による医療」その３点が問題がある。

診療情報の提供に関する指針については，今までは要約書でよいということでしたが，

診療記録等の閲覧謄写のみとする。また遺族にも診療情報を提供すると進んだものでありますが，10月22日の日医臨時代議員会に提案される予定になっています(詳細は日医ニュース　平成14年10月５日　第986号掲載)。

２．宮崎県保健医療計画の見直しに係る意見について

夏田常任理事から，次のとおり報告があった。

現行の宮崎県保健医療計画の見直しについて，今年の５月に県保健福祉部長より照会があり，県医師会としては，先ず，各郡市医師会へ要望等を伺い，それから県医師会理事者に意見を求め，その後，県医師会地域医療保健委員会で６月，７月，９月に３回の委員会を開催し，この内容について検討いたしました。大変問題が多岐にわたっていますので，時間の関係もあり十分に意見を集約できなかったところもありますが，一応現状の問題点をまとめ，９月18日に県福祉保健部長へ提出しました。

内容については，１つは今度の医療計画改訂では，今までの医療計画のそれぞれの施策が，実際どのように実現され，どのように達成されたのかということを評価，検証，総括をしてほしいということを申し出ております。もう１つはこの5年間で介護保険が導入されたという事実がございます。高齢者医療と介護につきましてはこれは一体として捉えていくべきものだというふうに県医師会としては考えていますので，介護保険との整合性については是非この計画に基づいて言及していただきたいということもお願いしています。必要病床数については，県からも原案は示されていません。今回から算定方式が若干変わっていまして，平均在日数の短縮に伴ういわゆる基準病床数の減というのが各県とも見込まれています。どのような形で数字が出てくるのか今のところ分かりませんが，病院部会でこの病床についてのアンケート調査の結果では，宮崎県で1,600床ほどの増床希望がまだあるということです。そのあたり，どのように整合性をとるのか検討の余地あります。それから，平成16年度から実施予定の新研修医制度について，これは地域として十分取り組んでいかなければいけない内容でありますので，地域医療保健委員会において検討し，県と話し合いをして参りたいと考えています。

地域医療支援病院の問題，公的医療機関の医療連携の位置づけの問題等については，現在では問題がありますので是非いろいろお考えいただきたいと申し上げております。救急医療は二次医療圏毎の問題を，検討した上で特に小児救急医療については十分な配慮をしていただきたいということ等を申し上げています。

今月末に県保健医療推進協議会が開催され，医師会，各種団体から出席し具体的な案について検討するということになっています。

協　議

１．新研修医制度と研修病院について

住吉会長(宮医大)から，次のとおり説明があった。

研修医のことについて触れてみたいと思います。先生方のお手元に資料がありますが，「新医師臨床研修制度について(平成14年８月29日　厚生労働省医政局長)」は，結構変わってきていると思います。ただ１つ注意していただきたいのは，この問題につきまして，日医の方針と厚生労働省の方針と大学とが考えることでは対立するところがあります。そういうところがあるということをご承知の上で聞いていただきたいと思います。その資料で私が大変注目しているのは，日医が卒後臨床研

修に対す基本的な考えとして述べ，今でも篠崎医政局長はそれを支持するようなことについて触れています。しかし，研修をやるということの骨子が９月４日の委員会で決まった訳ですが，それに沿って実際実施するとしたら，一体，ここに書かれているようなことができるのかと私は疑問に思います。私自身はこの方式でさし当っていくのはよろしくないというふうに思っています。しかし，日医の理事，ワーキンググループに出席している先生方はこういうことを非常に強調しています。資料の「新医師臨床研修制度検討ワーキンググループ全体会（９月４日）」は，今までの検討を踏まえて座長がまとめ，多少の字句の訂正をしてコンセンサスを得て，発表したものであります。ところが，９月24日，27日に厚生労働省がプレスに発表したものを見ると，かなり変ってきています。一体これでいいのかということが実は問題になりますが，研修プログラムについて，１）当初の12か月は内科，外科，救急部門（麻酔科を含む）を基本研修科目として研修すること，なお，内科研修は６か月以上が望ましい。２）小児科，産婦人科，精神科及び地域保健・医療を必修科目として，それぞれを１か月以上研修することというのが，９月27日のプレスへの発表では，小児科，産婦人科，精神科及び地域医療を３か月を基本とするとなっています。そうしますと，実際は12か月が全然なくなる訳です。他の科を研修したいと思う人たちに残された時間がなくなる訳です。そこあたりが，行ったり来たりしていることが大変問題だと思います。それで，「臨床研修病院の指定基準（案）」の資料は新しい資料であり，その資料をお読みいただくと大体のことが分かるかと思います。先生方の興味は，恐らく臨床研修病院施設の基準だと思います。そうしますと，それを分かりやすく書いた図が資料「施設基準小委員会検討資料　臨床研修病院の指定基準（案）（第３版）」に出ています。そこでは，臨床研修病院（単独型），臨床研修病院群というものを大きく２つに分けて研修を行うことが提案されています。単独型というのは単独で全ての研修が完結するということです。しかし，ある部分が欠けていてもそこに管理能力があったら，それを臨床研修病院群管理型にして，それに協力型の病院を加えて，単独型がその基準を満たすような研修をしようというのが実はこの臨床研修病院群の形成であります。

もう１つ，研修協力施設というのは，保健所，単独の診療所等がこの中に含まれます。本県を想定して話をしますと，宮崎医科大学では，池ノ上副病院長を中心に私たちは臨床研修病院群を形成して研修に当りたいと思っています。単独型，一病院で完結する形というのはとらない方針です。本県には３県立病院がありますが，自分たちで管理型の臨床研修病院として病院群をそれぞれに作られるかどうかということについは，まだ話は進んでいません。臨床研修病院群においては，診療研修などに関して相互に機能的な連携がとられていることとしています。

臨床研修病院群における機能的連携というのは，医師の往来，医療器具の共同利用，合同カンファレンスなどが組織的に行われているなど具体的に診療及び研修について機能的な連携が行われている状態をいうというふうに書かれています。機能的な連携があるということになりますと，なかなか協力施設も選びにくい状況にあります。もう少し，私たちは融通して考えていかなければならないと思います。そうして，これで問題なのは，指導医の資格であります。指導医とは，原則として臨床経験７年以上，プライマリケアを中心

とした指導を行える十分な能力を有し，勤務体制上指導時間を十分にとれる者とする。この場合,臨床経験については臨床研修2年間を含むということです。７年というのは，２年間の基本的な臨床研修を経て，３年間くらいのレジデントとしての研修をし，２年くらいは指導医として学生の評価，教育をする訓練を受けたという能力と経験のある人ということで，７年ということが決まったようであります。

管理型の研修病院になるには，総合的な急性期型病院であることであります。総合的なという意味は，たくさんの科をもつ病院であるということです。例えば,循環器病センターやがんセンターというのは極めて特殊な部分を担う病院であるので，基礎的な初期の臨床研修の病院としてはふさわしくないという意味で，ここに総合的なという言葉をつけたということです。それから，研修協力施設については，適切な指導力を有する者が配置されていることとなっています。適切な指導能力を有する者というのは，上記の指導医と相当のものであるということについては見解が示されていません。実際問題としては，それに相当するような能力を有する人と解するのが妥当ではないかと思います。研修協力施設というのが，一体研修病院群の中にどれくらい入ってこれるかということが問題になる訳です。私たちは，実際は，指導医が研修医について，実はある診療所の症例が多いところには一緒に行って研修できるような，十分に研修医の指導に時間を割ける，そして指導医にそれなりの指導手当が出るということが求められることを主張していますが，そのことについては厚生労働省は何も見解を述べていない訳であります。一番重要なことは，研修医の身分保障ですが，研修医にはアルバイトを禁止するということがうたわれています。では，いくらくらい研修医に給料をあげればいいかということと，それをどこから出すかということになりますと，国費から出すべきである，いや診療報酬から出すべきであるということが言われています。

それから，研修協力施設として，保健所，診療所，社会福祉施設，介護保険施設，へき地診療所等に研修医をやったからといって本来の意味の基本的な臨床能力を獲得させる研修は可能なのかということが問題な訳です。そこにちゃんとした指導医がいるような施設がいくつあるかということを考えるとこれも大変問題でありまして詰めは十分になされていないということが現状であります。宮崎医科大学では，県立病院との話合いはしていませんが，私たちは病院群を作って話合いをしたい，その際，病院群に参加できる先生方と病院を，池ノ上副病院長が調べて，検討するようにお願いしましたが，今のところ協力していただけるところをみますと3県立病院と宮崎・都城市郡医師会病院が考えられるのではないかと思います。宮崎医科大学では救急医療の患者は極めて少ないので，そういうところと協力してやらないと単独型の研修病院を作ることはできないというふうに思っています。その他にも，Ｃｏｍｍｏｎ ｄｉｓｅａｓｅが大学で沢山あるかというとそうではない，そういうことを考えますと私たちは協力施設を増やして良い研修ができるような病院群を形成したいと思っています。

一体，研修病院がどういうような資格を有するかということに関しましては，10床あたりに研修医を１人とれるように，そして入院患者100人(年間)あたりに１人とれるようなということが言われています。ただ，このような総合的な救急型病院となりますと，どうい

うような診療科が必要かといいますと，厚労省は内科，外科，小児科，産婦人科，精神科の５つがあることが基本的要件としているが，私達はその他に整形外科，皮膚科，泌尿器科，眼科，耳鼻咽喉科，放射線科，麻酔科が設置されていることを要望している訳です。病床の規模は，今のところ問われていません。以上でございます。

その後，意見交換が行われた。

引き続き，日本医師会常任理事　柳田喜美子先生から「中央状勢報告について」と題し，臨床研修病院の指定基準に伴う日医の対応，医療費の動向と診療報酬の課題，「特区」の問題，医療安全対策のための医療法施行規則一部改正，看護師等による静脈注射の取り扱い等について説明が行われた。

その後，各郡市医師連盟委員長懇談会が開催された。

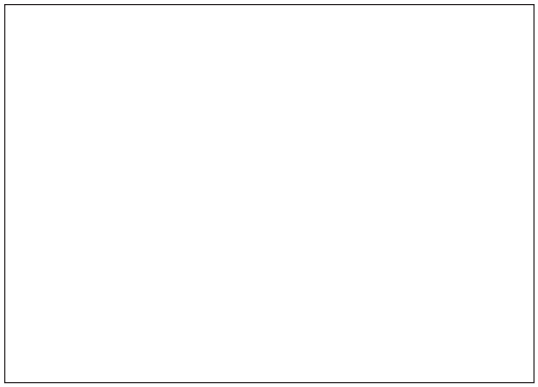
出席者

各郡市医師会－綾部会長，柳田会長，市原会長
甲斐会長，永友会長，大塚会長
岩田会長，大森会長，住吉会長

県医師会－秦 会長，大坪・志多副会長，稲倉・西村・富田・早稲田・河野・濱砂・夏田常任理事，和田・浜田・小玉・吉田・小牧・髙崎・髙橋・池井理事

事 務 局－日髙局長，小橋川・鳥井元・島原・児玉課長

県ドクターズテニス秋の大会



平成14年10月13日㈰都城市・イワキリコートにて秋の大会を行いました。時期が運動会や各種催しと重なりましたが，それでも20名の会員が参集し，終日楽しくプレイしましたことをご報告いたします。

県ドクターズテニスクラブ　会長　近 間　悟

平成14年度九州学校検診協議会専門委員会

と　き　平成14年10月19日㈯
ところ　福岡市・三鷹ホール

1．心臓専門委員会

座長：本田福岡県心電図判読委員長

1）学校心臓検診における Brugada 型心電図

（福岡県）

【提案理由】

Brugada 型症候群は，ＶＴ，Ｖｆを惹起して突然死を招来する危険性が高い。成人に関しては，国立循環器センターの委託研究13指-1として，同症候群症例報告が集積されているが，小児での検討はなされていない。

Brugada 症候群と関連が強いとされる Brugada 型心電図は学校心臓検診でも無視できない段階に達している。各県での取り組みを伺いたい。

【協議内容】

福岡　福岡県メディカルセンターで平成14年度収録の高校1年生の心電図50,383例では,7-2, 7-3, 7-5のいずれかのコードに該当するものは3,043例(6.04%),このうちＶ1誘導で coved 型心電図を示すものは10例, saddle back 型17例, 計27例が一応 Brugada 型心電図と考えられた。頻度はなんらかの右脚ブロック型心電図のうち0.89%，全例中0.054%である。

佐賀　フクダ電子機器のシステムを使い約１万例をコード７-２，７-３，７-５のチェックをかけて３人の先生で目視した結果１例だけ見つかった。

長崎　佐世保で６千人をダブルチェックをかけて，男子高校生1例見つかった。

熊本　６月に突然死をした症例で，４月にとった心電図に Brugada の疑いを持っているものがある。

チェックをしていない県についても，注意するよう呼びかけをしていたり，注意すべき項目として検討をしているようである。

2）新・学校生活管理指導表使用上の問題点

（福岡県）

【提案理由】

日本学校保健会より，新しい学校生活管理指導法についてのアンケート調査が一部の学校，学校医，精密検診医の方々に送付される予定である。

よりよい指導,より高いＱＯＬ達成のために協力いただきたい。

【協議内容】

各県とも新・学校生活管理指導表についての混乱などは特に報告がなかった。アンケートは無作為抽出されるので，来た医療機関はぜひ協力頂きたい。

3）九州各県における突然死の調査について

【提案理由】

本年，鹿児島県において開催された九州各県医師会学校保健担当理事者会で，この調査の継続について協議いただき，「継続する」ことになったので，報告書(第Ⅵ報)以降について報告する。

【協議内容】

福岡県より,第VI報以降(平成13年４月以降)福岡県５例，熊本県２例，長崎県・宮崎県各１例の発生について報告があった。

調査の方法について，学校管理下での死亡例は教育委員会が100%把握している。ここに，学校検診委員会や，医師会から問合せをしていただきたい。しかし，教育委員会が持っている情報だけでは足りないので，学校医や，学校医が死亡に立ち会っていない場合は，運ばれた病院などに問合せをして報告をしていただきたい。

学校管理下以外での発生の把握については，非常に難しく，除籍者名簿を洗い出すしか方法はないと思われる。来年また検討をしたい。

２．腎臓専門委員会

座長；阿南大分県医師会常任理事

１）九州各県における学校検尿アンケート調査集計結果報告書について　（宮崎県）

【提案理由】

昨年度の専門委員会において提案・了承され，本年２月に九州各県の郡市医師会へ学校検尿の実態調査を行った集計結果の報告をまとめたので検討いただきたい。

【協議内容】

九州各県の郡市医師会から89%も回答が得られたので，九州内の腎臓検診について全てではないが実態がかなりつかめたと思う。九州各県の郡市医師会へ集計結果を送付する。また，来年の全国学校保健・学校医大会で報告されたらいかがとの提案がなされた。

２）腎臓検診マニュアル(試案)について　（鹿児島県）

【提案理由】

12年度の専門委員会で作成することとなった腎臓検診マニュアルの試案を作成したので検討いただきたい。

３）暫定診断名の統一について　（福岡県）

【提案理由】

鹿児島より腎臓検診マニュアルの試案が提出されており，検診で最低限必要かつ不可欠な方法が提示できつつある。次の段階として暫定診断名の統一をはかり，九州全体の実態把握を可能にしたい。

【協議内容】

検診マニュアルと暫定診断名を九州内で統一した。後日，完成したものを配付するので，腎臓検診マニュアルがない郡市医師会は特に参考にしていただき，各地域でメリハリをつけて使用していただきたい。

３．小児生活習慣病専門委員会

座長：田崎佐賀医科大学教授

１）地区医師会での生活習慣病及び予防健診に関するアピールについて　（佐賀県）

【提案理由】

今年の鹿児島県において開催された学校保

健担当理事者会で，鹿児島県から発言があったように，これまでは予防健診を実施することを重視してきたが，実施にあたってはいろいろと問題があり，広く予防健診の重要性を認めさせることが肝心だと思う。各県の実態と今後のことについて意見を聞きたい。

2）小児生活習慣病予防健診事業について　（鹿児島県）

【提案理由】

本県では，生活習慣病予防健診事業の１つとして学校医，学校関係者，児童生徒，保護者が一体となって協力参加する親子体験学習教室またはそれに類する教室を展開して今日に至っている。今年度は新たに1郡市医師会に対し，本事業の参加を打診して計画・実施をお願いしたところである。採血による検診だけでなく体験型を重視した予防健診を進めていく方針であり，この事業が広く県下全域に浸透することを願いつつ推進したいと考えているので，この機会に是非，本専門委員会でも何らかの方法で取り上げていただき，九州全県での積極的な取り組みをお願いしたい。

3）尿糖陽性児童生徒の事後措置ガイドブックの活用について　（福岡県）

【提案理由】

学校検尿尿糖陽性で発見される糖尿病は１型・２型とも含まれる。１型糖尿病治療はインスリン治療を必要とするため，治療は継続されているが，２型糖尿病は発見後の長期管理中に脱落する患者が多いことが問題となっている。肥満，糖尿病患児の適正管理と学校への連絡表(26頁)としてこのガイドブックは有用と思う。また，本書に記載されている学校生活管理指導表は，糖尿病患児の日常運動を促進する指導表として活用できる。本ガイドブックの活用には教育委員会との協力が必要である。(学校への配布を検討)

【協議内容】

小児生活習慣病予防健診事業については，各県まちまちの取り組みであることから，九州ブロックとして一斉にキャンペーン(医師会主導で学校現場に向けて,例えば「子どもの健康週間」と銘打ち,それぞれの県独自のやり方で年1回実施)をやったらどうかとの鹿児島池田委員の提案に対して，やるという目標のもとに動く(この後開催される全体会，幹事会，九医連常任委員会へ要望)ということが申し合わされた。なお，たたき台を佐賀の田崎委員（座長)が作り，各委員へ意見照会の後，11月の九医連常任委員会へ提案することが了承された。

出席者

心臓専門委員会－佐藤雄一先生(宮崎)
事務局－久永主事
腎臓専門委員会－宮田純一先生(延岡)
事務局－小川課長補佐
小児生活習慣病専門委員会－浜田理事
事務局－島原課長

九州各県医師会学校保健担当理事者会

と　き　平成14年10月19日㈯
ところ　福岡市・三鷹ホール

分科会　眼科部門・耳鼻科部門
九州医師会連合会学校医会評議員会
九州医師会連合会学校医総会
　メインテーマ「学校における健康教育」
基調講演Ⅰ「学校医の立場から－テーマ未定－」
　元国立公衆衛生院長・元東京大学
　教育学部教授　高　石　昌　弘
基調講演Ⅱ「学校教育現場から－テーマ未定－」
　福岡教育大学教育学部保健体育講座教授
　照　屋　博　行

１．第47回九州ブロック学校保健・学校医大会並びに平成15年度九州学校検診協議会(年次大会)について　［大分県］

　平成15年８月２日㈯関係役員等による諸会議，８月３日㈰学校保健・学校医大会等を開催することを決定した。

《８月２日関係役員等による諸会議》

　九州学校検診協議会幹事会，九州各県医師会学校保健担当理事者会(日医学校保健担当理事との懇談会)

《８月３日学校保健・学校医大会及び九州学校検診協議会年次大会》

教育講演
「心臓部門－テーマ未定－」
　大分県成人病検診センター心臓検診班
　委員　梶　本　展　孝
「腎臓部門－テーマ未定－」
　熊本医療技術短期大学部看護学科教授
　服　部　新三郎
「生活習慣病部門－テーマ未定－」
　福岡子ども病院・感染症センター
　河　野　　斉

２．九州医師会連合会学校医会の各県医師会負担金について　［鹿児島県］

　先日開催の九州医師会連合会学校医会評議員会で提案のあった各県医師会負担金の増額について各県持ち帰り検討したが，担当県，来年度担当県とも従来の額で努力できるとのことであり，このままの額で据え置くことに決定した。

３．その他

　採血に対する保護者の抵抗感について。

　小児生活習慣病予防検診について，九州ブロックとして一斉に体験学習的な形で実施できるように検討していきたい。

　小児生活習慣病については尿糖についておろそかになっていないか，などの意見交換が行われた。

出席者－浜田理事，島原課長，小川課長補佐

九州医師会連合会第250回常任委員会

と　き　平成14年10月30日㈬
ところ　ホテルニューオータニ佐賀

協　議

1．平成14年度(第24回)九州各県・政令指定都市保健医療福祉主管部局長及び九州各県医師会長合同会議について

今回は，佐賀県医師会の担当で開かれる。協議事項は３題，日程等についての確認が行われ，承認された。

2．第102回九州医師会連合会総会における宣言・決議(案)について

九州医師会連合会担当の鹿児島県医師会から提出された原案をもとに協議の結果，一部の修正が行われた。

今後さらに，各県医師会に照会があり，その意見に基づき最終案が取りまとめられ，次回の常任委員会，臨時委員総会を経て，九州医師会連合会総会で決定される。

3．第251回常任委員会並びに第84回臨時委員総会について

標記会議並びに合同懇親会の日程等について協議が行われ，承認された。

4．第252回常任委員会並びに第２回各種協議会について

次の通り開催することに決定した。

期日：平成15年１月25日㈯

場所：シーホークホテル＆リゾート(福岡市)

第252回常任委員会　15：00～16：00
第２回各種協議会　16：00～18：30
合　同　懇　親　会　18：40～

各種協議会として，どのような対策協議会を開催するかについては，現在，九州各県医師会に照会中。回答を待って次回の常任委員会で決定のうえ，あらためて案内される。

5．九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会における日本医師会への質問・要望事項について

日本医師会の坪井会長，九州ブロック出身の西島・柳田両常任理事の出席を得て開催される。

各県から11事項提出されたが，時間の都合等により，本会からの「今後の診療報酬改定の見通しについて」「医療安全管理体制及び褥瘡対策等に関する施設基準に係る減算の取り扱いについて」，沖縄・長崎・福岡・鹿児島各県医師会からの７項目を質問・要望事項とすることに決まった。

6．日本医師・従業員国民年金基金第５期代議員候補者の推薦について

２名の推薦依頼。引き続き，前島和樹先生（長崎)の推薦を決定。辞退された代議員１名の後任については，今後，会長担当県か，あるいは次期担当県から候補者を出すことになった。

7．その他

平成15年度九州医師会連合会及び各種関連行事予定について(佐賀県)

平成14年10月30日現在で取りまとめられた予定表が配布され，凌会長(佐賀)から説明があり，了承された。

出席者－大坪副会長，日高局長

平成14年度（第24回）
九州各県・政令指定都市保健医療福祉主管部局長及び
九州各県医師会長合同会議

と　き　平成14年10月30日㈬
ところ　ホテルニューオータニ佐賀

1．米盛九州医師会連合会長挨拶

恒例の保健医療福祉主管部局長さんと九州各県医師会長さんとの合同会議を開催したところ，月末のお忙しい中を佐賀県の出納長さんをはじめとして九州厚生局の方々にご出席いただき，また後ほど意見交換会には知事さんもご出席されると伺っているが，心から感謝を申し上げる次第である。

本日は３つの議題が用意されているので，忌憚のないご意見を賜るようお願い申し上げる。

最後に本日の会を担当された佐賀県医師会の凌会長先生をはじめ佐賀県医師会役職員の皆様方並びに佐賀県の行政当局の皆様方に感謝申し上げ，ご挨拶にかえたい。

2．井本佐賀県知事挨拶

皆様方におかれては日頃から地域保健医療の向上に多大のご尽力をいただいていることに対し，深く敬意と感謝の意を表する次第である。

今日，わが国においては急速な少子高齢化の進行，障害者の自立と社会参加の促進，さらには，家庭機能や疾病構造の変化等により福祉と保健，医療に対する県民の意識は大きく変わって来ている。このような中，個々人が健康づくりに努めることを基本理念とした健康増進法が成立した一方，医療費自己負担割合の増が盛り込まれた健康保健法の改正をはじめとする医療改革関連法が成立し，この10月には高齢者の医療費負担の改正が施行された。さらに来春には介護保険制度における保険料やサービス計画の見直し等が控えており，保健，医療，福祉における様々な制度の創設や改革に向けた取り組みが予定されている。また，レジオネラ症患者の発生やダイエット食品による健康被害の発生，腸管出血性大腸菌による食中毒など感染症や食品問題による住民の生命や安全を脅かす事案が多数発生しており，健康危機管理体制の強化が求められている。こうした中，佐賀県でも，保健医療の分野については，住民に良質かつ適切な医療を効果的に提供する医療供給体制の整備に努めるとともに，生涯を通じた健康づくりを県民運動として展開している。保健や医療を取り巻く環境は刻々と変化しており，こうした変化に迅速かつ的確に対応する必要がある。そのためにも日頃から関係機関が互いに連携を強化していくことが必要だと考えているので，ご理解とご支援をお願いしたい。

最後に，本日の会議が意義深いものとなることを祈念し，ご挨拶としたい。

3．白川厚生労働省九州厚生局 総務管理官 来賓挨拶

皆様方におかれては，日頃から県民，市民の健康づくり対策や保健予防対策，医療の確保，生活環境の改善，高齢者に対する社会福祉等，各方面にわたり推進されていることに敬意を表するものである。また，九州厚生局の行政並びに国立病院，療養所の運営等に当り，いろいろと，ご理解，ご協力を賜ってい

ることについても厚く御礼申し上げる。

九州厚生局は，ご承知のとおり，平成13年１月６日の中央省庁等の再編に伴い，国立病院や療養所の指導監督を行う病院管理部，麻薬・覚せい剤を取り締まる麻薬取締部，また，本省から移管された業務を行う保健福祉課等として発足して，間もなく２年になる。私ども業務内容の充実を図るとともに，厚生行政の推進に当って，なお一層，皆様との繋がりが密接なものとなって行くものと思っているので，これまでに増して，ご協力，ご指導を賜るようよろしくお願い申し上げる。

４．座長選出

米盛九州医師会連合会長を選出

５．議　事

議題１）結核予防法第22条及び第23条に伴う，医師及び病院管理者からの届出状況について　（福岡県）

（提案理由）

本県では，結核予防法第22条の２日以内の届出（医師の届出）及び第23条の７日以内の届出（病院管理者の届出）が徹底されていない状況であり，苦慮している。

各県及び政令指定都市においての届出状況を伺いたい。

また，効果的な取り組みの事例があったらご教示をお願いしたい。

なお，医師会においては，日頃よりご協力いただいているところであるが，今後とも行政との連携にご配慮いただくよう，よろしくお願いしたい。

○福岡県（北九州市，福岡市及び大牟田市を除く）における
平成13年の結核予防法第22条及び第23条に係る届出状況

	２日以内	７日以内	15日以内	30日以内	30日超	合　計
22　条 （医　師）	605 （52.8%）	398	93	37	12	1,145
23　条 （病院管理者）		850 （72.3%）	223	61	42	1,176

（宮崎県の回答）

○県内８保健所及び宮崎市保健所における
平成13年の結核予防法第22条及び第23条に係る届出状況

	２日以内	７日以内	15日以内	30日以内	30日超	合　計
22　条 （医　師）	214 （58.2%）	129 （35.1%）	15 （4.1%）	8 （2.2%）	2 （0.5%）	368
23　条 （病院管理者）		409 （87.4%）	44 （9.4%）	11 （2.4%）	4 （0.9%）	468

○取り組み状況

⑴　平成12年度結核対策特別促進事業において，結核予防法に基づく各種届出及び患者管理等について記載した医療機関向けポスター「結核を診断したら，まず最寄りの保健所へ」を作成し，医師会を通じ県内全医療機関に配布した。

⑵　保健所で実施する医療監視において指導

している。

⑶　保健所が主催する医療機関連絡会議で指導している。（県内１保健所）

議題２）医療安全対策の推進について

（佐賀県）

（提案理由）

医療事故等が頻繁に報道され，その対策に国民の関心が高まっている中，本年４月に公表された「医療安全対策検討会議」報告書を受け，医療法施行規則や診療報酬制度の改正（本年10月施行）により，病院及び有床診療所における安全管理体制の整備の推進が図られることとなった。

県民が安心できる医療を確保するためには，国制度を踏まえた県，政令指定都市及び医師会の積極的な取り組みが必要であるが，医療安全対策に係る先進的取り組み事例等があれば，ご教示願いたい。

（佐賀県の状況）

○佐賀県医師会

「医療安全管理体制・院内感染防止対策ガイドライン／マニュアル・褥瘡対策マニュアル」を作成し，全会員に配布するとともに，その普及を図るため，講習会を開催している。

（宮崎県の回答）

本県では，県医師会の方が早くから医療安全対策に積極的に取り組んでいただいていることもあり，医療監視において，医薬品の適正な管理や医療用具等の清潔の保持，感染廃棄物の適切な処理等の状況を確認するとともに，医療安全に関する国の通知等の情報の提供を行っている程度であり，現在のところ，先進的と言われるような取り組みは実施していない。

非常に重要な課題であり，県医師会が先進的に取り組んでおられるので，今後も相談しながら県民の健康の安全確保に努めて参りたい。

（宮崎県医師会の回答）

本会では，平成10年度に医療安全対策委員会を新設。医療安全・事故防止対策等に取り組んでいる。

⑴　医療事故・医事紛争の発生を防止するための対策について「各科別事故対策」を作成し，全会員に配布した。

⑵　ヒヤリ・ハットの事例を県医師会に提出してもらい，これを分析。

⑶　本年度には，前期作成した「医療事故・医事紛争の発生を防止するための対策について」―各科別事故対策―に精神科，皮膚科，薬剤を追加するとともに，ヒヤリ・ハット事例の分析結果を収録。全会員に配布。事故防止等ご活用いただくようお願いした。

⑷　医療安全管理体制づくりのマニュアルを作成し，全会員へ配布した。また，12月に研修会を開催する予定。

議題３）次回開催地及び当番について

福岡県（行政）担当にて，福岡市において開催することに決定。

（九州厚生局）

厚生労働省において，来年度，各都道府県に医療事故苦情相談窓口を置くという事業について概算要求している。全国で３億6,000万円。詳細は，まだ分らない。医療安全に関するワークショップが昨年から始まり，本省で実施された。今年は全国８ブロックで開催される。九州厚生局としては，本年12月12日・13日の両日，国立病院の九州医療センターで開催する。対象は200床以上の医療機関100×２名の予定で詰めているところである。

出席者－大坪副会長，日高局長

都道府県医師会公衆衛生担当理事連絡協議会

と　き　平成14年10月11日㈮
ところ　日本医師会館

1．挨拶(日本医師会長　坪井栄孝)

禁煙推進プロジェクトの活動をはじめ，日医が行っている禁煙推進活動の幅や深さが拡大している。日本での禁煙運動主軸となっていると言っても過言ではない。都道府県，郡市区医師会での活動のさらなる広がりを期待したい。

2．報　告

1)「地域における包括的な保健・医療のあり方」に関するアンケートの中間報告

未定稿であるが，結果，530の回答があった。日医公衆衛生委員会で纏めフィードバックしたい。

2）地方分権改革推進会議の「保健所長の医師資格要件」について

「直ちに」とはなっておらず，今後の動きをみたい。これについては厚生労働省も同じ意見をもっている。厚生労働省とも情報交換をしながら新たな動きがあれば平成８年と同じ様に対応したい。

3）日医の禁煙推進活動について

日本医師会館は昨年の７月から禁煙となり，各都道府県医師会長にも禁煙を呼びかけている。ご協力をお願いしたい。

4）健康増進法について

日医としては趣旨には賛同するが，今後の運用については十分に注意を払う必要があるので，皆さんのご協力をお願いしたい。

5）医療機関における喫煙実態と禁煙対策アンケート調査結果

神奈川県医師会で今年7月に実施したアンケートの結果が報告された。

6）禁煙推進についての日本医師会への要望(京都府医師会)

賛成である。さしあたって医師会館と医療機関の禁煙化を進めたい。

3．特別講演

「医師とたばこ　医師・医師会はいま何をなすべきか」(同時通訳)

講師　デビッド・シンプソン
(国際タバコと健康研究所所長)

たばこはいかなるハードドラッグよりも依存度が高く，受動喫煙でも心臓血管疾患や癌，呼吸器疾患を引き起こす。医師自らが率先して禁煙運動を始めるべきである。禁煙を成功させるためには，患者に対する情報やアドバイスの奨励を積極的に実施すること。医師会の取り組みとして，未成年者を対象にした健康教育を実施するとともに，地域レベルでのタバコ規制政策に影響力を発揮すべきである。多くの医師は，企業・県・市町村において，アドバイザーとして特別な機会が与えられており，その場を利用して，タバコ対策へのアクションプログラムの立案，医師会から政治家への働きかけを行うことが必要であるとともに，医師自身の禁煙への意識向上についても言及した。

4．質疑応答(講師シンプソン先生との質疑)

「日本ではタバコに対する認識が低い。いろんな方策のうち一番有効策は何か」「子どもへの教育が重要と考えるが，イギリスの対策はどうなっているか」「日本では，こういう会議は禁煙になりつつあるが，懇親会の席では制限されていない。イギリスではどういうことから始めたか」等々の質疑を含む活発な意見交換がなされた。

出席者－吉田理事，島原課長

平成14年度全国医師会勤務医部会連絡協議会

と　き　平成14年10月26日㈯
ところ　山口県総合保健会館
理事　浜　田　恵　亮

日本医師会主催の平成14年度全国医師会勤務医部会連絡協議会が,山口県医師会の担当で,「ついに来た医療改革」をメインテーマに開催された。400名余りの参加者があり,始終熱心な発表と討議が行われた。

坪井栄孝日本医師会長による特別講演「医療の考え方を根底から変える」があった。社会保障に関する考え方を根底から変えて国民的な合意形成がなされないと皆保険制度も市場原理主義者に踏みにじられてしまう危惧があること，小泉政権では社会保険に関わる政策決定が財務官僚のみの狭小な視野で策定されている事実を全医師が知って行動すべきであること，医師のみの行動では成果が得られないので，医師の考えをどのように国民に伝え，国民の合意形成を果たすかが重要な鍵であること，行政と政治に医療の本質を正確に理解させるためには，医師自身の考え方の基盤をどこに置き，どのように行動するかが最も重要であることなどが，講演の要旨であった。日本の医療は，昔からある医療の姿のように人類のための医療であるべきで，財政や政治のために医療の本質が決して歪曲されてはならないことが強調された講演であり，日頃から政治，医療経済には疎い勤務医にとっては理解しやすい講演内容であったと思う。

池田俊彦日本医師会勤務医委員長は，委員の交代，本会始まって以来の女性医師委員の参加などがあり今期第１回の委員会が開催されたこと，今期の会長諮問「勤務医と医師会活動」を受けたこともあり，勤務医に求められている医師会活動について今後議論を深めたいと述べた。

また，日本医師会の会員の47%強を勤務医会員が占めている，勤務医部会は25か所で組織されている，勤務医の日医生涯教育の申告率は低いとの報告があった。勤務医部会は,「開業医のみならず,勤務医からももっと意見を！」の主旨で発足したと聞いている。本部会の一層の活性化を図る方策を探って欲しいと思う。

山口県医師会から「勤務医現況調査」の結果が報告された。これまでの継続的な調査項目に加えて，医療改革および卒後医師臨床研修制度に関する勤務医の意識および認識の程度を問う調査が行われた。時機を得た試みであったと思う。

２つのランチョンセミナーが行われたが，本連絡協議会では初めての試みであったのではないか。発表および討議内容は省略するが，医師会主催の会においても他学会と同じように昼食時間抜きの過密プログラムがあってもよいのではないか。

シンポジウムは「医療改革後の勤務医の対応」をテーマに５名の演者によって展開された。独立行政法人化後の国立大学の附属病院経営，自

治体病院の機能分担，卒後臨床研修との関わりおよび経営などに関する問題点，企業病院の地域への役割と急性期病院としてのあり方，勤務医と地域医療の関わり,病院における IT 化の意義などについて発表があり，ホットな質疑応答がくり返された。独立行政法人化後の国立大学附属病院の行方はどうなるのだろうか。

プログラム最後の講演として，西島英利日本医師会常任理事の「勤務医が意欲をもって働くためには」があった。内容は表題から予想されたものとはほど遠いものであり，患者さんや国民が安心して医療を受けることができる環境づくり，医療関係者が安心して医療を提供できる環境づくりのために日本医師会が行っている事業についての現状報告であった。

（プログラム）

メインテーマ：「ついに来た医療改革」

挨　拶　日本医師会長　坪　井　栄　孝
山口県医師会会長　藤　井　康　宏

特別講演「医療の考え方を根底から変える」
日本医師会長　坪　井　栄　孝

座長　山口県医師会長　藤　井　康　宏

報　告

「日本医師会勤務医委員会報告」
日本医師会勤務医委員会委員長
池　田　俊　彦

「山口県勤務医アンケート調査報告」
山口県医師会理事　三　浦　　修

次期担当県挨拶
奈良県医師会長　有　山　雄　基

ランチョンセミナー

第一分科会「感染症対策について－院内感染に対する医師会活動について」
青森県医師会常任理事　和　田　一　穂

第二分科会「日本医師会が提唱する卒後臨床研修－地域施設群研修方式(仮称)モデル事業について－」
栃木県医師会常任理事　昌　子　正　實

シンポジウム：「医療改革後の勤務医の対応」

座長　山口県医師会勤務医部会長
福　村　昭　信

コメンテーター
日本医師会常任理事　星　北　斗

シンポジスト５名

「独立行政法人化後の国立大学医学部付属病院経営」
山口大学医学部付属病院長　沖　田　　極

「自治体大病院の抱える諸問題－機能分担，卒後初期・後期研修」
総合病院山口県立中央病院長
江　里　健　輔

「IT 化は病院に何をもたらすか－電子カルテ・遠隔画像診断運用の現場から」
萩市民病院長　河　野　通　裕

「企業病院として地域に貢献できること－急性期病院の役目と一般市民に望まれる病院にするには－」
宇部興産㈱中央病院長　篠　崎　文　彦

「これからの地域医療と勤務医のかかわり」
(医)医誠会都志見病院副院長
村　田　秀　雄

講演「勤務医が意欲をもって働くためには」
日本医師会常任理事　西　島　英　利

座長　山口県医師会副会長　藤　原　　淳

出席者

勤務医部会－立山部会長，上田理事，東理事
県医師会－秦 会長，濱砂常任理事，浜田理事
鳥井元課長，千原主事

日医 FAX ニュースから

病床区分の見直しを反映し療養病床３万床増　― 01年医療施設調査 ―

厚生労働省官房統計情報部が10月30日に公表した2001年の医療施設(動態)調査・病院報告によると，01年３月の改正医療法施行による病床区分見直しなどを反映して，00年10月からの１年間で，病院病床の「一般病床等」が２万8598床減少する一方で，「療養病床等」は３万1057床増加したことが明らかになった。

病院数は00年に比べ27施設(0.3%)減少の9239施設となり，90年の１万96施設をピークに，依然，減少を続けている。診療所は９万4019施設で，前年に比べ1195施設(1.3%増)増加したが，有床診療所は前年比3.6%減の１万7218施設で，診療所全体に占める割合も0.9ポイント低下して18.3%にまで落ち込むなど，診療所の無床化傾向が続いている。

病床数の状況をみると，病院病床は164万6797床で前年に比べ，456床減少した。これまでの病床区分の項目だった「その他病床」を一般病床と療養病床に分ける改正医療法の施行で，「その他の病床等」のうち「療養病床等」は，介護保険制度施行(00年４月)もあり，27万2217床と３万1057床増加した。施設数では，療養病床を持つ病院は309施設増え，3476施設となったほか，療養病床を有する診療所も63施設増の2571施設となり，病床数も898床増加し，３万1955床となった。その反面「一般病床等」は２万8598床減少した。

65歳以上人口10万人当たりの療養病床等の病床数をみると全国平均は1293.9床。都道府県別では高知が3874.0床でトップ。次いで熊本(2862.3床)，徳島(2817.8床)などが続き，中国，四国，九州で平均を大きく上回っている県が多い。一方，山形(584.9床)，滋賀(603.1床)，宮城(606.9床)などが平均を大きく下回る。

診療科目別に施設数(病院)をみると，リハビリテーション科(99施設増)や麻酔科(60施設増)，循環器科(57施設増)などが増加する一方で，小児科が41施設の減少，産婦人科も36施設の減少となった。　（平成14年11月５日）

３か月間の病院，無床診療所医業収入はマイナス　― 日医総研・医業損益動向調査 ―

日医総研は11月７日までに，ワーキングペーパー(ＷＰ)「『医業損益動向調査』結果報告－診療報酬改定後の経営実態－」(主任研究者＝鈴木克己研究員)をまとめた。それによると，病院，無床診療所の医業収入は４月からの３か月にわたって対前年比で減少となったほか，医業収入が５月以降は単月でマイナスとなっていない有床診療所でも外来収入や自由診療の落ち込みが大きく，３か月単位では前年同期の水準を割り込んでいることが明らかになった。

また，収支差(利益)をみると，病院は全ての月でマイナスとなったものの，個人立診療所の５月，６月はプラスに転じ，回復傾向にあることがわかった。日医総研は「あくまでも売上(医業)原価や販売費及び一般管理費(販管費)の削減など，医療機関側の経営努力の結果」と指摘している。

収支差についても病院は全ての月で減益となった。４月と５月は経常利益ベースで黒字だが利益幅はいずれも半減した。賞与月でもある６月は前年同月も赤字となっていたが，今年６月に関してはさらに赤字幅が拡大した。個人立以外のその他設立主体の診療所では売上(医業)原価や販管費が減少傾向にあるものの，ＷＰでは６月の医業収支は15万7000円のマイナスとなるなどコストの削減が「利益に反映されていない結果となった」と分析。経常利益率自体が高水準となっ

ていないこととあわせて，「今後も利益の減少が続くようであれば赤字の状態になってしまう可能性も十分にある」とも指摘している。

（平成14年11月12日）

「情報･広報センター」を来年４月１日にオープン　― 日医の新広報戦略 ―

日本医師会は11月12日，来年４月１日をめどに医師会員や国民・患者などに向けて情報発信する「情報・広報センター」を設置すると発表した。同センターは坪井栄孝会長が広報戦略強化の一環で設置する方針を示していたもので，インターネットを利用して日医の会務や国会動静，定例会見の内容などを発信する。西島英利常任理事は同日の会見で，日医総研内にセンターを設置するとともに，人材確保を図る考えを示した。

センターのホームページとして「JMA PRESS NETW ORK（仮称）」を開設。ニュースを掲載するとともに，日医の活動や国会の動きなどをタイムリーにメールニュースで送信する。発信されたニュースについては，クレジットを入れれば，会員や新聞社が無料で活用できるようにする予定。（平成14年11月15日）

患者の不平，不満を教科書に信頼関係構築 ― 日医が相談事例を冊子化 ―

西島英利常任理事は11月19日の会見で，都道府県や郡市区医師会の「診療に関する相談窓口」に寄せられた患者やその家族，医療関係者からの相談事例を掲載した「『診療に関する相談窓口』における受付事例 vol １」をまとめ，各県や郡市区の医師会に配布することを明らかにした。同冊子は2000年１月から今年９月にかけて寄せられた7300件を超える相談事例と対応状況の一部を掲載したもの。西島常任理事は同冊子について，「（患者などからの）不平，不満をひとつの教科書として，患者と医師の信頼関係を強めるための資料としたい」と述べ，各地域医師会などでの活用に期待感を示した。

（平成14年11月22日）

厚労省が01年度医療政策の実績評価

厚生労働省は2001年度に実施した医療政策などの実績評価結果を初めて公表した。厚労省ホームページに掲載される。

医療提供体制の整備（医療計画に基づく医療機関の整備，へき地保健医療対策の推進など）では，「現在の施策は一定の効果をあげているが，医療資源の地域的偏在を是正する必要性は依然として高い」と指摘。救急・災害医療体制の整備（救命救急センターの整備，小児救急医療の充実，災害拠点病院の整備など）では，「救急医療・災害医療の確保のため体系的な整備を引き続き推進する必要がある」などとして，小児救急医療の充実などに取り組む方針を示した。医療従事者の確保では，需要が供給を上回っている医療従事者の養成や確保対策の推進，供給過剰が将来予想される医療従事者の養成のあり方の検討などを行う考えを提示。医療従事者の資質向上では2004年度からスタートする医師臨床研修の必修化に向けた検討・準備や医師などの国家試験の改善の検討などに力を注ぐ姿勢を示している。医療安全確保対策では，医療事故防止に関する医療機関の自主的な取り組みへの支援をより一層推進させる方針を提示した。安定的・効率的な医療保険制度の構築については「近年の経済の低迷，少子高齢化の進展などにより，医療保険財政は大変厳しい状況にあり，今後とも目標の達成のためには，引き続き取り組み強化が必要」「高齢化のピーク時においても制度の安定的な運営を図るため，今後の医療保険制度の体系のあり方などについても引き続き検討していく必要がある」などとしている。

（平成14年11月26日）

医事紛争情報

― メディファクスより転載 ―

■９人死亡のO157感染で初動態勢の整備など指導

宇都宮市の報徳会宇都宮病院と老人保健施設「陽南」で病原性大腸菌O157により９人が死亡した集団食中毒で，栃木県と宇都宮市は11日，合同で実施した両施設への立ち入り検査の結果を公表し，再発防止のため危機管理や院内感染対策について指導したことを明らかにした。

検査結果によると，両施設では，①集団感染を早期に把握する態勢がない，②院内感染マニュアルが一部の感染症に限られており，O157対策が不十分，③清掃職員が不足している－などの改善すべき点があった。

このため県と市は，①危機管理マニュアルを作成するなど初動態勢の整備，②院内感染マニュアルの改定と職員への周知徹底，③清掃職員の確保－などを指導。10月末をめどに改善報告書の提出を求めた。

宇都宮市は今回の食中毒の発症者数をこれまで139人としてきたが，原因給食を食べていない人などを除外し123人に修正した。

■出生直後の死亡で担当医らに賠償支払い命令

女児が出生直後に死亡したのは出産時の経過観察や診察を怠ったためとして，札幌市の女性（30）と夫（31）が札幌東豊病院と担当医（51）に，慰謝料や逸失利益など計約5700万円の損害賠償を求めた訴訟で，札幌地裁は11日，病院と担当医に計約1800万円の支払いを命ずる判決を言い渡した。

佐藤陽一裁判長は「患者の症状の変化に適切に対処する義務に違反している」と述べた。

判決によると，女性は1999年８月26日，同病院で切迫早産と診断され，薬の点滴を受けた。しかし実際には胎盤の剥離が起きていて薬が効かず，胎児の心拍数が低下した。担当医は直接診察せず，助産婦に点滴を続けるよう指示を出していた。

翌日の早朝，院長が帝王切開で女児を取り出したが仮死状態で，間もなく死亡した。

担当医は「助産婦からの報告は診察を求めるものではなかった」などと主張していたが，佐藤裁判長は「直接診察し最適な処置をとるべきだった」と退けた。

■くも膜下出血の発症を見逃したとして2500万円で和解

新潟県相川町立相川病院の不適切な治療で妻（当時59）が死亡したとして，同町の夫が約5200万円の損害賠償を求めた訴訟は18日，相川町が2500万円を支払うことで東京高裁（森脇勝裁判長）で和解が成立した。一審新潟地裁は５月「病院に運ばれた時点でくも膜下出血を発症していたのに，付添人への十分な問診などをせず，発症を見逃した」と担当医の注意義務違反を認め，相川町に約3300万円の支払いを命じていた。

一審判決によると，妻は1997年12月25日，納屋で干し柿の選別作業をしていて倒れ，救急車で相川病院に運ばれた。翌日にくも膜下出血と診断され，転院して手術を受けたが，１週間後に死亡した。

■インスリン投与による低血糖こん睡，死亡に対して6300万円の賠償

兵庫県姫路市の県立姫路循環器病センターに入院し，死亡した男性（当時70）の遺族が「病院は不必要なインスリンを投与したうえ，経過観察も怠った」として，県と医師２人に総額約１億円の損害賠償を求めた訴訟の判決で，神戸地裁の古川行男裁判長は23日，総額約6300万円を支払うよう県と医師１人に命じた。古川裁判長は，インスリン投与自体の是非について判断は示さなかったが，「インスリン投与で低血糖こん睡に陥って死亡した」と認定し，「投与後に必要な血糖値の定期的な確認を怠ったのは医師として重大な不注意だ」と述べた。

判決によると，男性は1996年５月28日，足に浮腫ができ，同センターに入院。医師は血糖値

を下げるため，29日夜からインスリンを投与したが，男性は30日深夜に低血糖状態となって意識を失い，別の病院に移った後，７月に死亡した。遺族は99年６月，殺人容疑などで医師２人を告訴。昨年５月，殺人容疑については２人とも不起訴処分とされたが，神戸区検は１人を業務上過失傷害罪で略式起訴し，医師は罰金50万円の略式命令を受けた。

■くも膜下出血を見落とし患者が死亡したとして4900万円の支払い

愛知県春日井市の春日井市民病院が，くも膜下出血を見落とし，妻（当時52）が死亡したとして，同県小牧市の夫（55）らが春日井市に計約5800万円の損害賠償を求めた訴訟の控訴審判決で，名古屋高裁の小川克介裁判長は10月31日，市側の控訴を棄却，一審名古屋地裁判決より約1400万円増額した約4900万円の支払いを命じた。

一審判決は精密検査を拒否した妻の過失を認め，請求の３割を相殺したが，小川裁判長は「担当医は『念のため』と検査を勧めており，説明は不十分だった」と増額の理由を述べた。病院側の過失は「妻のＣＴ写真に明らかな異常があり，担当医はくも膜下出血と確定できなくても専門医に連絡するべきだった」と一審同様に認めた。

判決によると，妻は95年４月，激しい頭痛を訴えて同病院で受診。担当医はＣＴ写真でくも膜下出血の疑いがあったのに見落とした。妻は脊髄液の検査を勧められたが拒否。２日後に脳動脈りゅうが破裂，くも膜下出血で死亡した。

病院の矢野孝院長は「裁判では診療に誤りがないと主張してきたが，判決は真摯に受けとめる。今後の対応は内容をよく検討したうえで決めたい」との談話を発表した。

■心筋炎の診断遅れによる死亡として900万円の支払い

長野赤十字病院（長野市）に入院していた妻（当時47）が急性心筋炎で死亡したのは診断の遅れが原因として，夫ら遺族３人が日赤（東京）などに計約7400万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で，東京地裁は11日，計900万円の支払いを命じた。判決理由で貝阿弥誠裁判長は「医師は心電図の検査結果を知った時点で急性心筋炎などを疑い，専門医に相談するべきだった」と指摘。「適切な注意義務を尽くしていれば，死亡時に女性が生存していた相当程度の可能性があった」と医師の過失を認定した。

判決によると，妻は1998年２月16日，自宅で倒れ救急車で長野赤十字病院に運ばれたが，同日中にいったん帰宅。その後，嘔吐を繰り返し，17日早朝に再搬送された。診察した医師は心電図を取るなどし，経過視察のために入院を指示したが，翌日死亡した。

■中耳炎の手術ミスで神経マヒ

仙台市立病院で1998年６月，中耳炎の手術を受けた宮城県津山町に住む60歳代の女性の顔に，神経まひなどの後遺症が出た医療過誤で，病院側は19日までに1600万円の損害賠償を支払うことで女性側と和解した。

病院によると，担当医が手術の際に顔の神経に傷を付けたため，神経まひの症状が出た。約10日後に再手術を行い，通院しながら治療を続けたが，左顔面の神経まひや平衡感覚の異常などの後遺症があるという。病院側は手術ミスを認め，女性側と話し合いを続けていた。

■点滴ミス死亡事故准看護師を書類送検

新潟県新津市の新潟勤労者医療協会下越病院（五十嵐修院長）で７月，点滴ミスで同市内の無職女性（当時71）が死亡した医療過誤事故で，新潟県警捜査１課などは18日，業務上過失致死の疑いで点滴を担当した女性准看護師（54）を書類送検した。

調べでは，准看護師は７月８日午後４時すぎ，肝臓の病気で入院していた女性に点滴をする際，点滴の袋に追加混入して投与すべき塩化カリウムを，誤って管に注入し，約２時間後に死亡させた疑い。

薬事情報センターだより（188）

動き始めた薬学６年制の行方

医療制度の見直し・改革の議論が進む中で，これと平行するように薬学教育６年制への延長問題が議論として取り上げられ，私たち薬剤師にとっては，以前からの懸案事項であり，その実現に向けて絶好の機会が来たと感じております。

ご案内の通り，厚生労働省医薬局は，薬剤師養成に関する今までの経緯と今後の方向性及び特に検討を要する課題について次のように述べております。

先ず経緯として，

⑴　医療の高度化・複雑化，医薬分業の急速な伸展，医療事故の社会問題化など，薬剤師を取り巻く環境の大きな変化に伴い，国民から患者本位の医療が求められており，医療の現場や医薬品開発分野において，医療人としての薬剤師に対する期待が高まっている。このため，薬剤師のより一層の資質向上を図り，国民から信頼される薬剤師を養成することが必要となっている。

⑵　このためには，創薬に従事する薬剤師も含め，医療薬学，臨床医学領域の教育が必須であり，早急に，その実施体制を充実する必要がある。

⑶　平成８年より，文部省，厚生省，日本薬剤師会，日本病院薬剤師会の４者で「薬剤師養成問題懇談会」を設け，さらに平成11年度より，国公立大学薬学部長会議及び日本私立薬科大学協会を加え，いわゆる「６者懇」として，薬学を履修する課程についての修業年限のあり方（６年制を含む）など薬学教育の充実方策，病院等での実務実習充実方策，生涯研修充実方策等について，これまで20回の懇談会が開かれた。

⑷　６者懇においては，薬剤師の質の向上を考えることについて意見の一致を見ており，そのために解決すべき諸問題も明らかになった。今後は，これらの問題を各構成員がそれぞれ検討することとし，本６者懇に検討状況，結果を持ち寄ることとされた。

次に，今後の方向性及び特に検討を要する課題として，次の５項目をあげている。

⑴　薬剤師国家試験の受験資格

⑵　「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」の作成

⑶　実務実習の受け入れ体制の整備

⑷　実務実習における調剤等の許容範囲の明確化

⑸　薬剤師業務のあり方の見直し

この中で⑴については国公立大学薬学部長会議及び日本私立薬科大学協会がそれぞれ独自に薬学教育カリキュラム（案）を作成したが，薬学関係者の総意としての結論を得るため，今般，日本薬学会が新しい「薬学教育モデルカリキュラム（案）」の取りまとめを行ったところであり，これによれば，薬剤師の受験資格としては，本カリキュラムは適切なものとして評価でき，それを履修するに当たっては現在の修行年限では足りず，すくなくとも２年程度の延長，すなわち，６年間の薬学教育は不可欠であると考えられるとのスタンスであります。

一方，文部科学省は「薬学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」を立ち上げ薬学教育問題について，本格的に議論がスタートし10月２日には日本薬学会の「薬学教育モデルカリキュラム（案）」を軸とした第１回会議を開催しております。

さらに，自民党の薬剤師問題議員懇談会の「薬剤師教育検討チーム」の会合が10月９日に開かれ薬務局長経験者で本県の持永和見先生がチーム座長に就任されました。

日本薬剤師会は「一貫６年制」の実現を訴えているが，検討チームでは専門職大学院制度（プロフェショナルスクール）とのからみで議論されるのではと危惧しております。

いずれにしても，活発な議論が展開され薬学６年制の夢が実現されることを祈るのみであります。

（宮崎県薬剤師会　医薬分業支援センター
所長　内田　保實）

医師国保組合だより

「第８回歩こう会」に参加して

宮崎市　タヅメクリニック
田爪（たづめ）靖史（やすふみ）

去る10月６日㈰県医師国保組合主催の歩こう会に夫婦で初参加しました。確か，故福永会長時代に始ったと記憶しますが，今まで何となく参加しそびれていました。

今回は「高鍋湿原」と聞き，「高鍋」に郷愁を「湿原」にロマンを感じ早速申し込みました。

「高鍋」は小生の生地（３歳まで）であり，「湿原」は一度訪れてみたいと思っていた所だったからです。

当日は予報が良くなかったにもかかわらず，秦 理事長をはじめ，59名という大勢の参加があり，県南の方々はバス２台に分乗し，予定10分前には県医師会館を出発できるという盛況でした。

一路北上し，沿道の秋を感じながら，児湯医師会館に到着，永友会長はじめ県北の皆様と合流し，湿原に向かいました。到着後すぐ，挨拶，ラジオ体操，記念撮影と型通りに進行。４班に分かれ，それぞれにボランティアの案内がつき散策しました。大変めずらしい多くの植物・トンボ（ハッチョウトンボが有名）・チョウ類を観賞できました。遊歩道は車イス対応でもあり，約30分の散策は快適でした。終わるのを待っていたかのように大雨になりましたが本当にラッキーでした。

その後，「めいりんの湯」に寄り，買い物をし，「四季亭」にて昼食，談らんの時間も充分あり久しぶりの方々も多く親睦を深めることが出来ました。

帰路「高鍋美術館」の鑑賞でした。さすが，文教の町を自負するだけあり立派なものでした。

児湯医師会館で県北の方々と別れ，予定通り16：00に帰着となりました。途中，バスの中では「手造りのゲーム」など文字通り快適なバスの旅でした。

お世話下さいました髙橋常務理事・児玉課長以下医師国保組合の職員の皆様に心よりお礼申し上げます。来年も是非元気で参加したいと思っています。皆様お疲れさまでした。

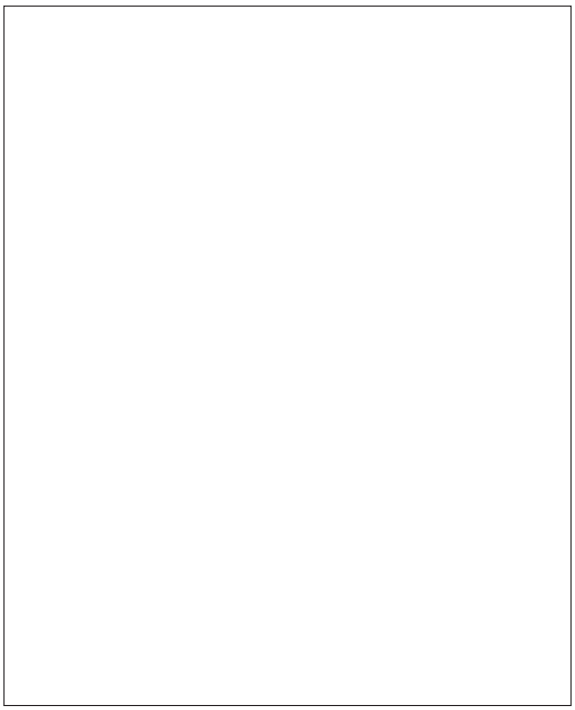
医師協同組合だより

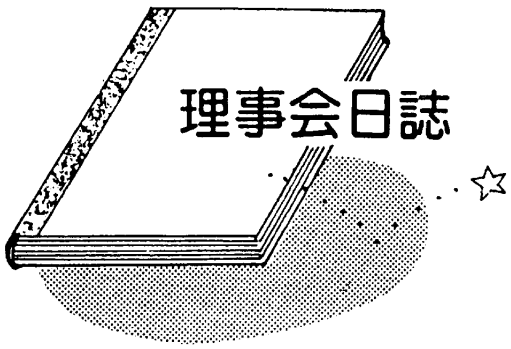
宮崎県医師協同組合
「患者さんに喜ばれる接遇研修会」

日　　時　　平成14年11月14日㈭　18：30～20：00
開催場所　　県医師会館地階大ホール
挨　　拶　　宮崎県医師協同組合
　　副理事長　志　多　武　彦
講　　師　　日本コンサルタントグループ
　　㈱アトル専任講師　野　川　良　枝　氏
司　　会　　事務長　西　村　昇　二

医療機関をとりまく経営環境がますます厳しさを増す中,医療を受ける側に軸足を置いた接遇研修会がおなじみの，野川良枝氏を講師に迎えて盛会に開催されました。

医療機関の経営向上と安定を図る為に最近接遇向上が特に重要視され,又関心も高いこともあって，当日は493名と多数の参加を頂き地階大ホールでは対応できず，３階,４階の会議室にテレビ放映する程の熱気あふれる研修会となりました。





平成14年10月29日㈫　第17回全理事会

医師会関係

（議決事項）

1．国民健康保険診療報酬審査委員会委員（保険医代表）の推薦依頼について

従来通り各郡市医師会長及び各専門分科医会長に推薦依頼することに決定した。

なお，標記委員の任期が本年12月31日をもって満了することに伴うものである。

2．11/14㈭（延岡）・11/15㈮（日向）社会保険医療担当者（医科）の個別指導の実施について

役員の立会いが決定したが，11/15㈮は鹿児島市における九州医師会連合会諸行事への参加が決まっており，宮崎社会保険事務局へ日程調整をお願いすることになった。

3．白菊会への運営資金援助のお願いについて

例年通り会員へお願いの文書を送付すること等について，承認された。

4．レジオネラ症集団感染における疫学調査の協力依頼について

標記調査への協力が承認された。

5．11月及び12月行事予定について

11月及び12月行事について，検討された。

6．その他

①11/15㈮～17日㈰（鹿児島）第102回九州医師会総会・医学会等の諸行事について

諸行事への出席役員の確認が行われた。

（報告事項）

1．週間報告について

2．10/25㈮（第一宮銀ビル）県保健医療推進協議会について

3．10/27㈰（JA・AZM ホール）ひむか東洋医学研究会学術大会について

4．平成14年度の医療法第25条第１項の規定に基づく立入検査の実施について

5．さい帯血移植の安全性の確保について

6．尿失禁の被験者募集（第２回目）新聞紙上等による情報提供について

7．10/16㈬（日医）日医社会保険診療報酬検討委員会について

8．10/22㈫（日医）第107回日医臨時代議員会について

9．10/23㈬（宮医大）宮崎医科大学諮問会議について

10．10/28㈪（東京）支払基金本部理事会について

11．10/29㈫（福祉総合センター）県社会福祉協議会運営適正化委員会について

12．９/28㈯・10/12㈯（宮崎市郡医師会病院）・10/26㈯（都城市郡医師会病院）平成14年度在宅医療推進のための「実地研修会」について

13．10/29㈫（都城）第42回宮崎県精神保健福祉大会について

14．10/11㈮（日医）都道府県医師会公衆衛生担当理事連絡協議会について

41ページ参照

15．10/12㈯（県医）平成14年度本会学校医部会総会・医学会について

16．10/19㈯（福岡）平成14年度（第17回）九州学校検診協議会専門委員会について

33ページ参照

17．10/19㈯（福岡）九州各県医師会学校保健担当理事者会について

36ページ参照

18．10/21㈪（県医）本会学校医部会学校検診委

員会について
19. 10/16㈬(県医)グループ保険打合会について
20. 厚生労働省が主催する「医療安全推進週間」等について
21. 医事関係訴訟の円滑な適正な解決の協力依頼について
22. 10/16㈬・25㈮(県医)広報委員会について
23. 10/17㈭(県庁)県准看護師試験委員会について
24. 10/25㈮(福祉総合センター)地域福祉権利擁護事業契約締結審査会について
25. 10/24㈭(県庁)宮崎地方公務員災害補償基金支部審査会について
26. 10/27㈪(県電ホール)県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画策定委員会について
27. 10/19㈯(県医)本会産業医研修会について
28. 10/26㈯(山口)平成14年度全国医師会勤務医部会連絡協議会について
　42ページ参照
29. 健康保険法等の一部改正に関する『Ｑ＆Ａ』(更新版)の送付について
30. その他
　①救急医療に関する協議会の設置(案)について

医師連盟関係
(協議事項)
１．10/31㈭(県自治会館)自民党県連選挙対策常任委員会の案内について
　早稲田常任執行委員の出席が決定した。
(報告事項)
１．10/27㈰(シェラトンフェニックス)上杉光弘君出版記念パーティーについて

医師国保組合関係
(報告事項)
１．規約の一部改正について

医師協同組合・エムエムエスシー関係
(報告事項)
１．10/29㈫(県医)医協運営委員会について

平成14年11月５日㈫　第11回常任理事会

医師会関係
(議決事項)
１．宮崎県地域がん診療拠点病院検討会の委員就任依頼について
　６名の委員就任について，承認された。
２．第102回九州医師会連合会総会における宣言・決議(案)について
　九州医師会連合会の担当県鹿児島に一任することになった。
３．11/14㈭(延岡)・11/15㈮(日向)社会保険医療担当者(医科)の個別指導の実施について(再協議)
　11/15㈮(日向)分は変更することで宮崎社会保険事務局と日程調整中である。
４.12/２㈪(県医)平成14年度本会医療安全対策研修会の開催について
　日程，役員の役割分担等が決定した。
５．勤務医住宅ローン借入申し込みについて
　申請(１件)が承認された。
６．健康教育ラジオ番組について
　大筋で承認された。
　詳細については，本会健康教育委員会で検討することになった。
７．県民健康セミナーについて
　好評であり，年２回の開催について検討された。
８．その他
　①H15.４/６㈰(福岡)第26回日本医学会総会交歓行事(ゴルフ)の案内について
　西村常任理事に一任。
(報告事項)
１．平成14年10月末日現在 宮崎県医師会会員数について

２．11/２㈯（宮崎厚生年金会館）三師会役員と持永代議士との懇談会について
３．10/30㈬（佐賀）九州医師会連合会第250回常任委員会について
　37ページ参照
４．10/30㈬（佐賀）平成14年度（第24回）九州各県・政令指定都市保健医療福祉主管部局長及び九州各県医師会長合同会議について
　38ページ参照
５．10/30㈬（県医）労災診療指導委員会について
６．11/５㈫（県庁）宮崎地方公務員災害補償基金県支部審査会について
７．10/30㈬（労働局）県メンタルヘルス対策推進会議について
８．10/31㈭（県医）県産業保健連絡協議会・産業医研修連絡協議会
について
９．11/２㈯（延岡）第15回県内医師会病院連絡協議会について

医師連盟関係

（協議事項）

１．医政活動推進委員会の設立並びに若手医師連盟会員研修制度創設に伴う推薦依頼等について
　本連盟医政活動推進委員会の設立が決定した。第１回委員会を11月12日㈫県医師会館において開催し検討することになった。
　なお，メンバーは，本連盟委員長・副委員長，小選挙区担当常任執行委員，連盟担当理事である。
２．その他
　①11/21㈭（宮崎厚生年金会館）「米澤隆当選報告会」開催の案内について
　早稲田常任執行委員の出席が決定した。

（報告事項）

１．10/31㈭・11/５㈫（県自治会館）自民党県連選挙対策常任委員会について

平成14年11月12日㈫　第12回常任理事会

医師会関係

（議決事項）

１．宮崎県救急医療協議会（仮称）委員の推薦依頼について
　早稲田常任理事（救急担当）の推薦が決定した。
２．特定疾患治療研究専門委員辞任に伴う後任委員候補者の推薦依頼について
　県眼科医会長に女性委員の推薦を依頼することに決まった。
　眼科の委員の辞任に伴うもの。
３．鑑定人候補者の推薦依頼について
　調査対象者が延岡市在住の為，人選は吉田理事（延岡）に一任することになった。
４．H15．１/21㈫（日医）平成14年度第４回都道府県医師会長協議会の開催について
　標記会議を受けて県内の各郡市医師会長協議会を１月28日㈫開催することに決定した。
５．平成14年度地域保健医療計画推進事業の委託契約について
　委託契約の締結が承認された。
６．12/７㈯（延岡）・12/13（金）（宮崎）・12/14㈯（都城）各種がん検診実施医療機関の登録・指定による平成14年度本会成人病検診従事者研修会について
　本年12月，３地区において開催することが承認された。
　日医・県医生涯教育講座になっている。
７．臨床研修を行う病院の指定に係る申請手続きについて
　了承された。
　医師法第16条の２第１項の規定による医師の臨床研修を行う病院の指定に係る申請手続きについて，現在，平成16年４月１日から施行される医師の臨床研修の必修化に

向け，臨床研修病院の新たな指定基準及び指定手続きについて，厚生労働省において準備が進められており，申請の締め切り日，様式等が示されたもの。

８．H15．１/25㈯（JA・AZM 本館）平成14年度宮崎県性教育研究大会開催の共催願いについて

共催が承認された。

９．平成14年度学校医報酬基準額について

高等学校，特殊教育学校等の標記基準額について，承認された。

10．その他

①宮崎県母子保健運営協議会委員の推薦依頼について

引き続き，西村常任理事，千阪医会長を推薦することに決定した。

②行事予定について

12月行事について，検討された。

③平成15年度医療安全推進者養成講座受講者について

早稲田常任理事の受講が承認された。

（報告事項）

１．11/６㈬（県医）宮崎健康福祉ネットワーク協議会はにわネット第１回理事会について

２．11/11㈪はにわネット厚生労働省の視察について

３．11/７（木）（日医）第３回日医医療関係者対策委員会について

４．11/12㈫（県庁）県航空消防防災体制検討委員会検討部会について

５．11/８㈮（県企業局）県身体拘束ゼロ作戦推進会議について

医師連盟関係

（報告事項）

１．11/12㈫（県医）県医連医政活動推進委員会について

平成14年11月19日㈫　第18回全理事会

医師会関係

（議決事項）

１．宮崎県障害者施策推進協議会委員への就任依頼について

秦会長の就任が決定した。

２．宮崎県個人情報保護審査会委員の推薦依頼について

西村常任理事の推薦が承認された。

３．平15．１/25㈯（福岡）九州医師会連合会第252回常任委員会並びに平成14年度第２回各種協議会（医療保険・介護保険・地域保健医療対策協議会）の開催について

提案事項等については，稲倉・河野・夏田各担当常任理事がまとめることになった。

４．12/９㈪（日向）保険医療機関の個別指導の実施について

当日の立ち会いが，稲倉常任理事に決定した。

５．12/12㈭（JA・AZM ホール）社会保険医療担当者の集団的個別指導の実施について

対象医療機関は55機関。担当役員が立ち会う予定。

６．平15．２/16㈰（日医）平成14年度乳幼児保健講習会の開催について

担当理事の出席が承認された。

７．平15．２/27㈭（日医）平成14年度都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会の開催通知について

西村常任理事，事務局の出席が承認された。

８．宮崎県医師会健康教育ラジオ番組について

平成15年１月から３月までの放送期間（13回）の出演者については，本会役員で対応することに決まった。来年４月以降については，各専門分科医会へ出演を依頼することになった。

（報告事項）

1．医師による麻薬の無免許施用について
2．生活保護法による指定医療機関の訪問指導について
3．年末年始におけるレセプト提出及び平成15年レセプト提出締切日について
4．11/15㈮（鹿児島）九州医師会連合会第251回常任委員会について
5．11/15㈮（鹿児島）九州医師会連合会第84回臨時委員総会について
6．11/16㈯（鹿児島）九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会並びに第102回九州医師会総会・医学会について
7．11/9㈯（福井）第33回全国学校保健・学校医大会について
8．平成14年度の地方交付税における学校保健関係の財源措置について
9．11/11㈪（県医）第１回医師確保対策委員会について
10．11/13㈬（日医）都道府県医師会診療情報担当理事連絡協議会について
11．11/14㈭（延岡）社会保険医療担当者個別指導について
12．11/14㈭（県医）広報委員会について
13．11/14㈭（県医）地域リハビリテーション広域支援センター連絡会議について
14．11/16㈯（県医）産業医研修会について
15．11/18㈪（県医）健康教育委員会について
16．11/18㈪（福祉総合センター）県社会福祉事業団理事・評議員会について
17．11/19㈫（県庁）県航空消防防災体制検討委員会検討部会について
18．11/19㈫（宮観ホテル）県高年齢者雇用開発協会生涯生活設計セミナーについて

医師国保組合関係

（協議事項）

1．傷病手当金支給申請について
　申請（２件）が承認された。

（報告事項）

1．11/18㈪（県医）８割給付問題検討委員会について

Web site

褥瘡の管理のホームページ
（金沢大学医学部）

http://square.um.in.ac.jp/~sanada/

褥瘡対策未実施減算という理解しがたい制度は別として，入院患者や在宅患者の褥瘡予防には十分な対策が必要です。

ホームページ上には，褥瘡対策に関する様々な情報が掲載されていますので利用したいものです。

県医の動き

（11月）

1　日医設立記念医学大会（日医）
日本臨床細胞学会（下関）（西村常任理事）
2　九医協連理事会（福岡）（会長他）
県内医師会病院連絡協議会（延岡）
（早稲田常任理事）
三師会役員と持永代議士との懇談会（会長他）
5　自民党県連選挙対策常任委員会
（早稲田常任理事）
地方公務員災害補償基金県支部審査会
（河野常任理事）
第11回常任理事会（会長他）
6　はにわネット連絡協議会理事会
（富田常任理事）
県産婦人科医会献金委員会（西村常任理事）
7　日医医療関係者対策委員会（日医）
（早稲田常任理事）
8　県身体拘束ゼロ作戦推進会議（河野常任理事）
9　全国学校保健・学校医大会（福井）（会長他）
九医協連購買保険部会（福岡）
（志多副会長他）
乳がん検診研修会
病院部会・医療法人部会合同研修会
（濱砂常任理事他）
9～10　日本産婦人科医会九州ブロック協議会
（沖縄）（西村常任理事）
11　医師確保対策委員会（会長他）
12　県航空消防防災体制検討委員会検討部会
（早稲田常任理事）
県医連医政活動推進委員会（会長他）
第12回常任理事会（会長他）
県内科医会誌編集委員会
13　産業医研修会（会長）
都道府県医師会診療情報担当理事連絡協議会（日医）（西村常任理事）
14　社会保険医療担当者（医科）個別指導（延岡）
（志多副会長）
地域リハビリテーション広域支援センター連絡協議会（会長他）
医協接遇研修会（志多副会長）
広報委員会（大坪副会長他）
15　九医連常任委員会（鹿児島）（会長）
九医連臨時委員総会（鹿児島）（会長他）
九医連委員・九州各県医師会役員合同懇親会（鹿児島）（会長他）
16　九医連委員・九州各県医師会役員合同協議会（鹿児島）（会長他）
九州医師会総会・医学会（鹿児島）（会長他）
産業医研修会（池井理事）
都城看護専門学校創立50周年記念式典（都城）
17　九医学分科会・記念行事（鹿児島）（会長他）
18　県社会福祉事業団理事・評議員会
（河野常任理事）
日本細胞学会県支部理事会（西村常任理事）
医師国保８割給付問題検討委員会（会長他）
健康教育委員会（大坪副会長他）
19　県航空消防防災体制検討委員会検討部会
（早稲田常任理事）
県高年齢者雇用開発協会生涯生活設計セミナー（早稲田常任理事）
第18回全理事会（会長他）
県福祉保健部と県医師会との懇談会（会長他）
20　献血運動推進全国大会実行委員会（会長）
県医療審議会（会長他）
感染症危機管理講習会・予防接種研修会
（会長他）
県産婦人科医会性教育委員会（西村常任理事）
21　医協会計監査（会長他）
県地域がん診療拠点病院検討会
（志多副会長他）
米澤隆当選報告会（早稲田常任理事）
22　地方公務員災害補償基金県支部審査会
（河野常任理事）
都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会（日医）（夏田常任理事）
宮崎政経懇話会（稲倉常任理事）
県内科医会医療保険委員会（志多副会長）
23　日臨内九州ブロック会議（鹿児島）
（志多副会長）
九州各県内科医会連絡協議会（鹿児島）
（志多副会長）
24　九州各県内科審査委員懇話会（鹿児島）
（志多副会長）
25　支払基金本部理事会（東京）（会長）
広報委員会（富田常任理事他）
県産婦人科医会常任理事会（西村常任理事他）
栄養指導担当管理栄養士派遣事業打合せ会
（志多副会長他）
26　医協運営委員会（会長他）
第19回全理事会（会長他）
有床診療所協議会だより編集会議
（稲倉常任理事）
27　労災診療指導委員会（河野常任理事）
日医医療情報ネットワーク推進委員会（日医）
（富田常任理事）
県支払基金幹事会（会長）
地域福祉権利擁護事業契約締結審査会
（早稲田常任理事）
県保健・医療・福祉関連団体協議会役員会
（会長他）
28　宮崎信販との懇談会（会長他）
29　健康づくり協会創立５周年記念式典（会長）
医療保険委員会（会長他）
30　産業医研修会（志多副会長他）

追悼のことば

南那珂医師会
福岡良朗（ふくおかよしろう）先生
（昭和２年８月５日生　75歳）

弔　辞

本日，ここに今は亡き故福岡良朗先生のご葬儀が執り行われるにあたり，南那珂医師会を代表致しまして謹んで哀悼の意を表し，お別れの言葉を申し上げます。

先生は10月21日午後10時10分にお亡くなりになったとの突然の御訃報に接しまして，何とも申し上げる言葉もなく会員一同驚きと深い悲しみに包まれております。

８月１日，宮崎医科大学附属病院に入院なさったとの連絡がございましたが，会員一同，一日も早い御回復を念じておりました。

本日，ここに先生の御霊前に向いお別れの言葉を申し上げねばなりませぬことは，誠に残念，痛恨の極みでございます。

ましてや，奥様を始め御家族のお悲しみは如何ばかりかと，お慰めの言葉もなく，喪心よりお悔やみを申し上げます。

先生は昭和26年３月，東京慈恵会医科大学附属医学専門部を卒業になり，九州大学にて医学博士の学位を取得され，宮崎県立日南病院，日本赤十字門司診療所，北九州病院，国立療養所福寿園に勤務され，昭和36年６月に現在地，春日町に福岡内科医院を御開業になられ，先生の誠実さと温容溢れるお人柄は患者さんから大変厚い信頼を受けてこられました。

地域住民の健康管理，健康教育，疾病予防や診療活動に今日までの41年有余年にわたり地域医療に献身的に貢献されました。その御功績により平成９年に公衆衛生功労賞として宮崎県知事表彰を受賞されておられます。

先生はご多忙な診療の傍ら医師会活動に積極的にご活躍いただき南那珂医師会理事，監事，南那珂内科会会長などの要職を歴任されました。

昭和42年より現在まで永年にわたり，日南市立油津中学校の校医として児童生徒の健康管理及び体位向上の助言，指導に多大な貢献をいただき，昭和63年より平成４年迄，日南市教育委員として学校教育の充実に尽力なされました。その御功績により平成９年日南市教育長表彰，平成13年に宮崎県教育長表彰を受賞されておられます。昭和45年日南ロータリークラブ会長を務められ，その後，地区役員等も務め現在迄ロータリークラブ発展の為，積極的に奉仕活動に参加されて来られました。

ここに改めて深甚なる敬意と感謝を捧げる次第でございます。

御家族におかれましては，慈しみと優しさをもって導き育てられましたお二人の御子息に恵まれ，御次男の周司先生は先生の後継として，ご遺志は立派に引き継がれることと存じます。

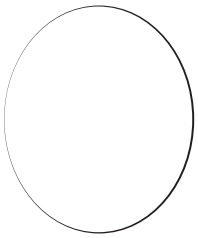
私共会員一同は，先生が尽くされました地域医療の充実に尚一層の努力をいたして参りたいと存じます。

福岡良朗先生，今ここに幽明境を異にして，もはや先生の温顔に再び接することはできませんが，地域医療のご功績に対し衷心より敬意を表し，奥様をはじめ御家族の皆様方のご安泰をお見守りいただき，安らかにお眠り下さいますよう心からご冥福をお祈り申し上げお別れの言葉といたします。

平成14年10月25日
南那珂医師会
会長　岩田達男

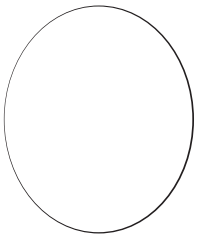
ニューメンバー

竹中美香（たけなかみか）



住　　所：日南市木山3-2-6
　　県病院医師公舎
　　A104
専門科目：耳鼻咽喉科
家族構成：夫
略　　歴：
　昭和62年　県立小林高校卒業
　平成５年　宮崎医科大学医学部卒業
　　同年　　宮崎医科大学耳鼻咽喉科入局
　平成14年　県立日南病院
趣　　味：音楽鑑賞，パソコン通信，映画鑑賞
抱　　負：アウトドアを楽しむタイプではないと自覚はあった。インドアで文字や映像や音楽などに触れていればそれで満足していた。最近，良き伴侶を得て，遅ればせながら楽しい食事の時間がいかに大事かを実感する。旬のものをその時期にいただく贅沢。それが血となり肉となり日々の活力となるのだ。これからはそれをどう消費していくかを考えなければ。体力気力を持続させるため，山や海へ飛び出して自然と触れ合おう。バランスのとれた考え方ができるよう，人の言葉にさらに耳を傾けよう。さらなる人生の目標をかかげよう。

山内　励（やまうちつとむ）



住　　所：宮崎市本郷南方字
　　辻原3988番地
専門科目：一般外科，消化器
　　外科
家族構成：妻，長男(中３)，次男(中２)
　　長女(中１)，次女(小４)
略　　歴：
　昭和52年　鹿児島県甲南高校卒業
　昭和58年　鹿児島大学医学部卒業
　平成14年　山内ファミリークリニック開業
趣　　味：書道
抱　　負：平成７年から13年まで県立宮崎病院外科に勤務,下部消化管を担当していました。今般，無床診療所を開業し宮崎市郡医師会に入会させていただきました。何分にも不慣れな点が多いので，諸先輩方のご指導の下，地域医療に少しでも貢献できればと思います。よろしくお願いします。

会員消息

平成14年11月末現在　会員数 1,623名
（A会員　804名，B会員　819名）
（男　性 1,478名，女　性 145名）

―☆　入　会　☆―

B	今村　登志子（南那珂）	H14.9.1	県立日南病院	日南市木山1-9-5 ☎0987-23-3111
B^{A2}	貴島　俊英　（都城）	H14.10.1	（医）社団博修会 柏村内科	都城市上町12-4 ☎0986-22-2616
A	野口　晴司　（都城）	H14.10.1	野口脳神経外科	都城市太郎坊町1991-5 ☎0986-47-1800
B^{A2}	竹中　美香　（南那珂）	H14.10.1	県立日南病院	日南市木山1-9-5 ☎0987-23-3111
B	木村　　隆　（児湯）	H14.10.11	（医）宏仁会 海老原総合病院	児湯郡高鍋町大字上江字堂ケ瀬207 ☎0983-23-1111
B	宮崎　哲眞　（児湯）	H14.10.11	〃	〃
B^{A2}	吹井　聖継　（宮崎）	H14.11.1	（医）社団善仁会 市民の森病院	宮崎市大字塩路字江良の上2783-37 ☎0985-39-7630
B^{A2}	三村　聡男　（宮崎）	H14.11.1	宮崎市郡 医師会病院	宮崎市新別府町船戸738-1 ☎0985-24-9119

―☆　異　動　☆―

A	山元　章裕　（宮崎） （有床→無床へ変更）	H13.4.1	山元眼科	宮崎市大字本郷南方2452-1 ☎0985-56-6000
A	長沼　弘三郎（延岡） （法人名称等の変更）	H14.10.1	（医）緑の風 長沼医院	延岡市平原町3-1299-1 ☎0982-21-7311
B^{A2}	吉見　多喜雄（都城） （自宅住所変更）	H14.10.10	（医）吉誠会 吉見病院	北諸県郡高城町大字穂満坊457-1 ☎0986-58-2335
B	上田　佳代　（宮崎） （勤務先変更）	H14.10.21	（医）財団シロアム会 新城眼科医院	宮崎市下北方町目後899-4 ☎0985-29-4700
A	黒崎　　毅　（宮崎） （新規開業：B^{A2}→A　西諸→宮崎）	H14.11.1	（医）春光会 雁ヶ音クリニック	宮崎市東大宮4-20-3 ☎0985-31-5008
A	黒木　文敏　（日向） （医療法人等へ変更）	H14.11.1	（医）くろき胃腸科	日向市鶴町1-6-8 ☎0982-55-0505
A	山内　　励　（宮崎） （新規開業：B→A）	H14.11.1	山内ファミリー クリニック	宮崎市大字本郷南方辻原3988 ☎0985-55-2288

―☆　退　会　☆―

B	田邊　樹郎　（都城）	H14.9.30	（医）明和会 宮田眼科病院	都城市蔵原町6-3 ☎0986-22-1441

B	楠元　志都生(南那珂)	H14．９．30	国立療養所 日南病院	日南市大字風田3649-2 ☎0987-23-3131
B^{A2}	永井　朝子　(宮崎)	H14.10.31	宮崎市郡 医師会病院	宮崎市新別府町船戸738-1 ☎0985-24-9119

―☆　死　亡　☆―

A	福岡　良朗　(南那珂) (75歳)	H14.10.21	福岡内科医院	日南市春日町1-8 ☎0987-23-5225
B	高橋　　司　(宮崎) (75歳)	H14.10.25		宮崎市江南4-16-14 ☎0985-52-1225
B^{A2}	海老原　爲明(宮崎) (93歳)	H14.11.19	海老原病院	東諸県郡国富町大字本庄4365 ☎0985-75-2115
B	江藤　英延　(児湯) (83歳)	H14.11.20		児湯郡木城町大字高城1251 ☎0983-32-2007

お知らせ

はにわネット展示ブース設置のお知らせ

―電子カルテ“Dolphin”と日医標準レセプトソフト“ＯＲＣＡ”のデモ機器を展示しております―

場所：県医師会館３階

県医師会では,宮崎医科大学医療情報部と共同で電子カルテを開発し,検証を行っております。現在約40か所の医療機関に参加して頂いておりますが,興味をお持ちの施設には随時参加を募集しております。

（県医師会地域医療課　担当事務：久永　☎ 0985 - 22 - 5118）

11月のベストセラー

1	ハリー・ポッターと炎のゴブレット（上）・（下）	J.K.ローリング	静山社
2	誰がためにポチは鳴く 新・ゴーマニズム宣言12	小林よしのり	小学館
3	不知火海	内田康夫	講談社
4	海辺のカフカ（上）・（下）	村上春樹	新潮社
5	日本よ	石原慎太郎	扶桑社
6	おわらない夏	小澤征良	集英社
7	釈迦	瀬戸内寂聴	新潮社
8	上田次郎のどんと来い，超常現象	テレビライフ編集室	学習研究社
9	異形の将軍　田中角栄の生涯（上）・（下）	津本陽	幻冬舎
10	食べるな，危険！	日本子孫基金	講談社

宮脇書店本店調べ
提供：宮崎店(宮崎市青葉町)
☎（0985）23-7077

ドクターバンク情報

（H14.12.1 現在）

求 人：91件(常勤 108人)，　求 職：5件　5人，　賃 貸：4件

本会では,会員の相互情報サービスとしてドクターバンク(求人・求職等の情報提供)を設置しております。現在，上記のとおりの情報が寄せられております。

情報の閲覧ご希望の方は，県医師会事務局に直接お越しになり，ご覧になってください。なお，求人，求職の申し込みをご希望の方は，所定の用紙をお送りしますので，ご連絡下さい。

担当理事　和田徹也
事務局　福元優美
ＴＥＬ　0985-22-5118

お知らせ

宮崎県医師会「互助会融資契約」によるボーナス資金等融資のご案内

宮崎県医師会互助会
TEL 0985 - 22 - 5118

「互助会基金引当融資」

1．融資対象条件：互助会加入歴２年以上の会員
2．融 資 金 額：3,000万円以内
3．資 金 用 途：設備・学資・運転資金，その他県医師会融資審議委員会で必要と認めた資金
4．融 資 期 間：①運転資金　原則として１年以内
　　②設備資金　20年以内
5．取 扱 銀 行：宮崎銀行・宮崎太陽銀行・西日本銀行
6．利　　率：1.875%～2.425%（期間に応じて）
7．事 務 手 続
　① 各郡市医師会又は県医師会に備えている「融資申込書」に必要事項を記入して，所属郡市医師会へ提出
　② 郡市医師会は支部長の推薦書を付けて県医師会(融資審議委員会)に提出
　③ 県医師会(融資審議委員会)で審議し，承認後「融資申込書」を会員へ交付
　④ 会員は「融資申込書」を銀行に提出し，融資を申し込む
　⑤ 互助会融資には枠がありますので，早急にお申し込み下さい
　⑥ みずほ銀行には既に融資枠が無いので，ご了承ください

宮崎県医師会行事予定表

平成14年11月28日現在

12月					
1	日		14	土	13：30　産業医研修会 15：00　成人病検診従事者研修会 15：00　園医部会総会・研修会 18：30　宮崎市郡医師会年末懇談会
2	月	14：00　宮崎地方労働審議会 19：00　医療安全対策研修会	15	日	
3	火	14：00　地方公務員災害補償基金県支部審査会 19：00　第13回常任理事会	16	月	14：00　県環境審議会 16：00（東京）支払基金本部理事会・懇親会 19：00　県産婦人科医会常任理事会
4	水	9：30　医師国保事業業務監査 12：00　宮崎政経懇話会 15：00　県介護支援専門員連絡協議会理事会 18：40　延岡市医師会会員忘年会 19：00　広報委員会	17	火	12：30（日医）日医医療関係者対策委員会 13：30　宮崎地方労働審議会労働災害防止部会 17：30　医協運営委員会 18：00　第21回全理事会 18：30　役職員年末懇談会
5	木	15：00　県社会福祉協議会運営適正化委員会 16：30　県医諸会計監査	18	水	19：00　都城市北諸県郡医師会忘年会
6	金	（東京）はにわネット厚労省発表会	19	木	13：10　保険医療機関の個別指導 14：00　「みやざき健やか親子21」策定事業企画検討会 15：00　労災診療指導委員会 18：00　労災部会懇談会 19：00　会員の倫理向上委員会
7	土	（東京）はにわネット厚労省発表会 13：30　プライマリ・ケア研究会総会 14：00　プライマリ・ケア研究会 14：00（日医）日医家族計画・母体保護法指導者講習会 15：00　成人病検診従事者研修会	20	金	14：00　産業医研修会 16：00　地域福祉権利擁護事業契約締結審査会 19：00　広報委員会
8	日		21	土	15：30（日医）日医代議員会議事運営委員会
9	月	14：00　産業医研修会 14：00　社会保険個別指導	22	日	
10	火	17：30　医師国保定例事務監査 19：00　第20回全理事会	23	月	（天皇誕生日）
11	水	14：00（日医）日医社会保険診療報酬検討委員会・懇親会	24	火	
12	木	（年末大掃除） 15：00　社会保険医療担当者集団的個別指導 18：30　宮崎銀行との懇談会 19：00　西都市・西児湯医師会忘年会	25	水	15：00　県支払基金幹事会
			26	木	19：00　医療安全対策委員会
			27	金	仕事納め式
			28	土	
			29	日	
13	金	18：00　宮崎政策懇話会 19：00　成人病検診従事者研修会	30	月	（年末休業）
			31	火	（年末休業）

社国保保審審査査

※都合により，変更になることがあります。

宮崎県医師会行事予定表

平成14年11月28日現在

1月

1	水	（元旦）	17	金	
2	木	（年始休業）	18	土	15：00　自賠責保険研修会
3	金	（年始休業）	19	日	
4	土		20	月	19：00　南那珂医師会会員新年会
5	日		21	火	13：45（日医）都道府県医師会長協議会 18：00　医協運営委員会 19：00　第14回常任理事会
6	月	９：30　仕事始め式 10：00　県健康づくり協会仕事始め式	22	水	16：00　県支払基金幹事会･懇親会
7	火	19：00　第22回全理事会	23	木	14：00　産業医研修会
8	水	18：30　宮崎社会保険事務局との意見交換会	24	金	
9	木		25	土	15：00（福岡）九医連常任委員会 15：00（福岡）九医連各種協議会 17：00（福岡）日医執行部との懇談会
10	金	13：30　県児童環境づくり推進協議会 18：30　病院部会・医療法人部会合同理事会・新年会	26	日	
11	土	15：00　健康スポーツ医学セミナー 17：00（東京）全医協連理事会	27	月	13：30（東京）支払基金本部理事会 19：00　県産婦人科医会常任理事会 19：00　広報委員会
12	日	12：30（東京）全医協連広報部会	28	火	18：00　第23回全理事会 19：00　各郡市医師会長協議会
13	月	（成人の日）	29	水	15：00　労災診療指導委員会
14	火	14：00　産業医研修会	30	木	14：00　産業医研修会
15	水	19：00　広報委員会	31	金	
16	木	19：00　三師会合同新春懇談会			

国保審査

社保審査

※都合により，変更になることがあります。

医　学　会・講　演　会
日本医師会生涯教育講座認定学会

注：数字は日本医師会生涯教育制度認定単位。当日，参加証を交付。
がん検診＝各種がん検診登録・指定による研修会　　太字＝医師会主催・共催
アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名　称	日　時	場　所 会　費	演　題	そ　の　他
平成14年度宮崎県医師会医療安全対策研修会 （５単位）	12月２日㈪ 19：00 ～	県医師会館 ※テレビ会議システムにより，都城市北諸県郡医師会，延岡市医師会，日向市東臼杵郡医師会，西都市・西児湯医師会，南那珂医師会，西諸医師会へ同時放映	医療安全活動推進のための具体的な展開要領について ㈱損保ジャパン・リスクマネジメント リスクマネジメント第２事業部 主任コンサルタント 石井　正範	◇主催 宮崎県医師会
宮崎市郡外科医会12月例会 （３単位）	12月２日㈪ 19：00 ～20：00	宮崎観光ホテル	冠動脈カテーテル治療の最前線 －医師会病院の現状－ 宮崎市郡医師会病院循環器科 医長　柴田　剛徳	◇主催 宮崎市郡外科医会
呼吸器疾患カンファレンス （３単位）	12月４日㈬ 18：40 ～20：30	日向市東臼杵郡医師会館	慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）の診断と治療－気管支喘息の鑑別のポイント－ 県立延岡病院内科医長 山口　哲朗	◇共催 かかりつけ医運営委員会 日向市東臼杵郡内科医会 第一製薬㈱
第20回南那珂消化器カンファレンス （３単位）	12月５日㈭ 19：00 ～20：00	県立日南病院	症例検討会	◇主催 南那珂消化器カンファレンス
三股木曜会学術講演会 （３単位）	12月５日㈭ 19：00 ～20：00	ホテル中山荘 500円	スタチンの多様性について －ＫＬＩＳスタディも含めて－ 県立日南病院内科部長 上田　正人	◇主催 三股木曜会 ◇共催 三共㈱
日向市東臼杵郡内科医会学術講演会 （５単位）	12月６日㈮ 18：30 ～20：00	ホテルベルフォート日向	臓器保護を目的とした降圧療法 鹿児島大学第１内科 宮田　昌明	◇主催 日向市東臼杵郡内科医会 ◇共催 日向市東臼杵郡医師会 かかりつけ医運営委員会 山之内製薬㈱ 日本ベーリンガーインゲルハイム㈱

名　称	日　時	場　所 会　費	演　題	そ　の　他
第７回宮崎県プライマリ･ケア研究会 （５単位）	12月７日㈯ 14：00 ～	県医師会館	我が国のプライマリ・ケア発展を期待して－現状と将来展望－ 日本プライマリ・ケア学会副会長 鈴木　荘一 パネルディスカッション テーマ「東洋医学と医食同源」 座長　恒心館クリニック 井上　博水 パネリスト 郷田薬局薬剤師　郷田　美紀子 宮崎県都城地方消費生活センター 尾辻　恵子 他　数名	◇主催 宮崎県プライマリ・ケア研究会 ◇共催 ㈱ツムラ
宮崎市郡医師会第４回市民公開講座・第106回しののめ医学会 （５単位）	12月７日㈯ 14：00 ～16：00	宮日会館	宮崎の緩和ケアはどう変わったのか－宮崎市郡医師会病院緩和ケア病棟の１年を振り返って－ コメンテーター 県立宮崎病院産婦人科医長 嶋本　富博 日高医院長　日高　四郎 訪問看護ステーション敬寿所長 徳村　浜子 宮崎南在宅介護支援センターケアマネジャー　矢部　法子 宮崎市郡医師会病院緩和ケア病棟看護師長　筒井　麗子 コーディネーター みやざき中央新聞編集長 水谷　謹人	◇主催 宮崎市郡医師会
平成14年度宮崎県医師会成人病検診従事者研修会 （５単位） がん検診	12月７日㈯ 15：00 ～17：10	サンレー松柏園	①肺がん検診「肺癌の画像診断とＣＴガイド下肺生検」 宮崎医科大学放射線科 黒木　正臣 ②胃がん検診「胃癌の検診と治療：最近の話題」 宮崎医科大学放射線科 宮崎　貴浩 ③大腸がん検診「大腸癌 High Risk Group と大腸癌検診」 宮崎医科大学第１外科 佛坂　正幸 ④乳がん検診「乳癌検診での見逃しを少なくするために」 宮崎医科大学第１外科 前田　資雄	◇主催 宮崎県医師会 宮崎県

名　称	日　時	場　所 会　費	演　題	そ　の　他
宮崎県眼科医会講習会 （３単位）	12月７日㈯ 15：30 ～18：40	宮崎観光ホテル	保険研究会「各支部健保担当理事をうけて」 健康保険担当理事　松浦　義史 アレルギー角結膜炎疾患の外科的治療と新しい調節機能付人工水晶体挿入の試み 東京歯科大学市川総合病院眼科講師　藤島　浩 triam cinolone を用いた硝子体手術 鹿児島大学医学部眼科学教室教授　坂本　泰二	◇主催 宮崎県眼科医会
宮崎県精神科医会懇話会 （３単位）	12月７日㈯ 17：30 ～19：00	宮崎観光ホテル	嗜癖問題からみた黒澤映画 かとうメンタルクリニック院長 加藤　信	◇主催 宮崎県精神科医会 ◇共催 大日本製薬㈱
西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会 （５単位）	12月11日㈬ 18：30 ～21：00	ガーデンベルズ小林	知っておきたい感染症 －まれだが重要な疾患－ 宮崎医科大学内科学第２講座講師　村井　幸一	◇主催 西諸医師会 西諸内科医会 ◇共催 大日本製薬㈱ 杏林製薬㈱
都城市北諸県郡医師会内科医会学術講演会 （３単位）	12月12日㈭ 18：30 ～	都城ロイヤルホテル	高血圧と臓器障害 －レニン・アンジオテンシン系－ 東京大学大学院医学系研究科内科学教授　藤田　敏郎	◇共催 都城市北諸県郡医師会内科医会 武田薬品工業㈱
平成14年度宮崎県医師会成人病検診従事者研修会 （５単位） がん検診	12月13日㈮ 19：00 ～21：10	県医師会館	①肺がん検診「肺癌の画像診断とＣＴガイド下肺生検」 宮崎医科大学放射線科 黒木　正臣 ②胃がん検診「胃癌の検診と治療：最近の話題」 宮崎医科大学放射線科 宮崎　貴浩 ③大腸がん検診「大腸癌 High Risk Group と大腸癌検診」 宮崎医科大学第１外科 佛坂　正幸 ④乳がん検診「乳癌検診での見逃しを少なくするために」 宮崎医科大学第１外科 前田　資雄	◇主催 宮崎県医師会 宮崎県
第６回都城脳卒中研究会 （３単位）	12月13日㈮ 19：00 ～20：30	都城市北諸県郡医師会館	症例検討会 急性期脳血栓症におけるアルガトロバンの位置づけ (医)与州会柳田病院長 上田　孝	◇主催 都城脳卒中研究会 ◇共催 第一製薬㈱

名　称	日　時	場　所 会　費	演　題	そ　の　他
平成14年度宮崎県医師会園医部会総会・研修会 （５単位）	12月14日㈯ 15：00 ～18：00	県医師会館	特別講演「子育て伝説の再検討！ －児童精神科の臨床から－」 広島市児童療育指導センター 診療部長　岡田　隆介 シンポジウム「保育所・幼稚園園児の健康管理の充実を考える」 シンポジスト　父兄・保育士・幼稚園教諭・行政・園医	◇主催 宮崎県医師会
平成14年度宮崎県医師会成人病検診従事者研修会 （５単位） がん検診	12月14日㈯ 15：00 ～17：10	都城市北諸県郡医師会館	①肺がん検診「肺癌の画像診断とＣＴガイド下肺生検」 宮崎医科大学放射線科 黒木　正臣 ②胃がん検診「胃癌の検診と治療：最近の話題」 宮崎医科大学放射線科 宮崎　貴浩 ③大腸がん検診「大腸癌 High Risk Group と大腸癌検診」 宮崎医科大学第１外科 佛坂　正幸 ④乳がん検診「乳癌検診での見逃しを少なくするために」 宮崎医科大学第１外科 前田　資雄	◇主催 宮崎県医師会 宮崎県
第117回宮崎県泌尿器科医会 （３単位）	12月19日㈭ 19：00 ～	宮崎観光ホテル	医師国家試験問題(泌尿器科学関係解説) 宮崎医科大学泌尿器科教授 長田　幸夫	◇主催 宮崎県泌尿器科医会
宮崎県医師会健康スポーツ医学セミナー （５単位）	平成15年 １月11日㈯ 15：00 ～17：00	県医師会館	日常診療における運動指導について (医)社団善仁会市民の森病院 副院長　中津留　邦展 運動処方作成時の注意点 －内科の立場から－ ㈶宮崎県健康づくり協会健診部 部長　小岩屋　靖	◇主催 宮崎県医師会
第18回宮崎直腸肛門疾患懇話会 （３単位）	１月11日㈯ 15：00 ～17：00	県医師会館	低位直腸から肛門周囲疾患に対する治療方法 潤愛会鮫島病院副院長 鮫島　隆志	◇主催 宮崎直腸肛門疾患懇話会

名　称	日　時	場　所 会　費	演　題	そ　の　他
第７回宮崎リウマチ医の会 （３単位）	１月18日㈯ 15：00 ～18：00	JA-AZM ホール 1,000円	関節リウマチと骨粗鬆症について 公立玉名中央病院整形外科 鶴上　浩 小児の関節炎－その鑑別と若年性関節リウマチの最新医療－ 鹿児島大学医学部小児科講師 武井　修治	◇共催 宮崎リウマチ医の会 日本リウマチ財団 旭化成㈱
平成14年度宮崎県性教育研究大会	１月25日㈯ 13：00 ～16：20	JA-AZM ホール 500円	「みやざき健やか親子21」に見る思春期保健対策 高千穂保健所長　和田　陽市 今，性教育に何が求められているか－若者たちの性を見つめて－ (医)清和会いえさか産婦人科医院 (群馬県前橋市)副院長 家坂　清子	◇主催 宮崎県性教育研究会 ◇共催 宮崎県 宮崎県医師会　他
第42回日本心身医学会九州地方会 （３単位）	１月31日㈮ ９：00 ～18：00 ２月１日㈯ ９：00 ～18：00	県医師会館 大会参加費 5,000円 懇親会費 3,000円 講習会費 3,000円 (但し一般参加者 1,000円)	招聘講演「医療・保険行政の流れと心身医学」 前厚生労働省企画官・現千葉県健康福祉部長　梅田　勝 特別講演１「牧水と癒し」 県教育研修センター・読書文学賞受賞・歌人　伊藤　一彦 特別講演２「産科婦人科領域の心身医療」（仮） 宮崎医科大学産婦人科教授 池ノ上　克 他　教育講演等	◇主催 第42回日本心身医学会九州地方会 ◇後援 宮崎県内科医会　他
第10回宮崎感染症研究会 （３単位）	２月６日㈭ 18：30 ～20：00	宮崎観光ホテル 1,000円	レジオネラ集団感染はどのようにして起こるか 九州大学細胞学教授 吉田　眞一	◇共催 宮崎感染症研究会 第一製薬㈱
第28回宮崎県スポーツ医学研究会 （３単位）	２月８日㈯ 16：10 ～18：20	県医師会館 1,000円	バスケットボール競技特性と膝前十字靱帯損傷 日本医科大学整形外科講師 成田　哲也 小児のスポーツ医学 東京女子医科大学附属第２病院 スポーツ健康医学センター教授 浅井　利夫	◇共催 宮崎県スポーツ医学研究会 ファイザー製薬㈱

名　称	日　時	場　所 会　費	演　題	そ　の　他
第21回宮崎救急医学会 （３単位）	２月15日㈯ 13：00 ～19：00	西都市文化センター 500円	特別講演 「救急処置法を普及させるためには」 九州大学大学院医学研究院麻酔蘇生学　野田　英一郎	◇主催 第21回宮崎救急医学会 西都市・西児湯医師会立西都救急病院
平成14年度日本医師会生涯教育講座・日本医師会社保指導者復講・県九州医療施設医師研修会 （５単位）	２月22日㈯ 15：00 ～18：00	県医師会館	今日の内分泌疾患診療（総論） （医）社団善仁会市民の森病院 副院長　中津留　邦展 今日の内分泌疾患診療（各論） （医）同心会古賀総合病院長 栗林　忠信 災害救急医療における最新の手技 －2000年８月アメリカ心臓学会が発行した心肺蘇生法ＡＣＬＳについて－（仮） （医）社団善仁会市民の森病院 救急総合診療部　廣兼　民徳	◇主催 宮崎県医師会
第20回宮崎県腹部超音波懇話会 （３単位）	２月28日㈮ 18：00 ～	県医師会館	肝エコーのすべて（仮） 近畿大学消化器内科教授 工藤　正俊	◇共催 宮崎県腹部超音波懇話会 宮崎県臨床衛生検査技師会 ＧＥ横河メディカル㈱

お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内いたします。
詳細につきましては，所属郡市医師会へお問い合わせください。

送付日	文書名	備考
10月17日	・感染症・食中毒情報(№1236)	
10月18日	・感染症・食中毒情報(№1237)	
10月19日	・「第８回仕事と家庭を考える月間」の実施に対する協力依頼について	
10月21日	・新医薬品等の再審査結果　平成14年度(その２)について ・使用薬剤の薬価(薬価基準)等の一部改正について ・花紅柳緑茶による健康食品等健康被害情報について ・インフルエンザＨＡワクチンの供給及び購入について ・我が国に不法に持ち込まれる犬の対策等の徹底について ・感染症・食中毒情報(№1238)	
10月22日	・「新医薬品等の再審査結果　平成14年度(その２)について」の差し替えについて ・感染症・食中毒情報(№1239)	
10月23日	・平成14年度の医療法第25条第１項の規定に基づく立入検査の実施について ・「健康食品・無承認無許可医薬品健康被害防止対応要領」について	
10月24日	・健康保険法等の一部を改正する法律等の施行に伴う９月診療分以前の診療報酬明細書の早期提出について ・感染症・食中毒情報(№1240，1241)	
10月25日	・医薬品の使用上の注意の改訂等について ・新医薬品等の再審査結果　平成14年度(その２)について ・医療用医薬品再評価結果　平成14年度(その２)について	
10月28日	・「病原性微生物検出情報」，「病原微生物検出情報(普及版)」の送付について ・「磁気テープ等を用いた請求に関して厚生労働大臣が定める規格及び方式の一部改正について」等の通知について ・感染症・食中毒情報(№1242，1243)	
10月30日	・胃がん検診実施要領の一部改正について ・厚生労働省が主催する「医療安全推進週間」等について ・厚生労働省が主催する医療安全研究発表会の「発表者および演題」の追加送付について ・「医療安全推進週間」の実施について(通知) ・厚生労働省から依頼の「医事関係訴訟の円滑かつ適正な解決について(協力依頼)」の送付について ・さい帯移植の安全性の確保について ・医薬品・医療用具等安全性情報第182号の速報について ・「平成13年度日本医師会生涯教育講座実施内容」の送付について ・第８回日本医師会認定健康スポーツ医制度再研修会の開催について ・感染症・食中毒情報(№1244，1245，1246)	
11月１日	・感染症法に基づくエイズ患者・感染者情報(平成14年７月１日～９月29日)等の送付について ・感染症・食中毒情報(№1247)	

送付日	文書名	備考
11月５日	・肝炎ウィルス検診の精度改善に伴う再検査費用の支払い方法について ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部改正に伴う医師からの届出について（ウエストナイル熱） ・医療機関に対するＨⅣ－２感染症例の周知について ・感染症・食中毒情報（№1248）	
11月６日	・「静注用フローラン」の使用について ・医薬品再評価の終了した医薬品等の取扱いについて ・求人についてのお願い（宮崎県教育委員会教育長） ・共済組合員証の無効通知について（厚生労働省第二共済組合） ・「人にやさしい福祉のまちづくり推進大会」について（依頼） ・医薬品の使用上の注意の改訂等について（ラジカット30mg） ・感染症・食中毒情報（№1249，1250）	
11月７日	・ポリ塩化ビニル製の医療用具から溶出する可塑剤（ＤＥＨＰ）について（通知） ・不良品の麻薬及び向精神薬取締法上の取扱いについて（通知） ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部改正等について（通知） ・エフェドリンアルカロイドを含む製品に関する情報について（通知）	
11月８日	・感染症・食中毒情報（№1251）	
11月11日	・ポリ塩化ビニル製の医療用具から溶出する可塑剤（ＤＥＨＰ）について ・県立宮崎病院「ふれあい健康講座」の開催について（ご案内） ・医療機関及び保健所に対するＨⅣ－２感染症例の周知について ・日本赤十字社「第11回赤十字血液シンポジウム」について（案内） ・医療用具の保険適用について ・今冬のインフルエンザ総合対策の推進について ・感染症・食中毒情報（№1252）	
11月12日	・精神保健指定医の指定申請に係る取扱いについて ・感染症・食中毒情報（№1253）	
11月13日	・感染症・食中毒情報（№1254）	
11月18日	・「医療用具の保険適用」等の通知について ・共済組合員証の無効通知について（刑務共済組合鹿児島刑務所支部） ・宮崎県救急医療現況調査（救急患者受療行動調査）などについて（依頼） ・インフルエンザワクチン需要予測のための調査について ・今冬のインフルエンザ総合対策の推進について ・感染症・食中毒情報（№1255，1256）	
11月19日	・感染症・食中毒情報（№1257）	
11月20日	・小学１年・中学１年に対するツベルクリン反応検査及びＢＣＧ接種の中止について ・感染症・食中毒情報（№1258）	
11月21日	・年末年始におけるレセプト提出及び平成15年レセプト提出締切日について（お願い） ・感染症・食中毒情報（№1259）	

診療メモ

ウエストナイル熱，ウエストナイル脳炎

米国でこれまでに170人以上の死者を出した「ウエストナイルウイルス」の日本上陸が危惧されている。４類感染症定点把握疾患にも指定されたので疾患の概要について掲載する。

１．病原体

ウエストナイルウイルス。フラビウイルス科フラビウイルス属に属し，日本脳炎ウイルスやセントルイス脳炎などに近い。鳥類に感染するが，時にヒトにも感染する。アフリカ，ヨーロッパ，中東，北米など広い地域に分布している。

２．感染様式

ウイルスを保有する蚊(媒介蚊は，イエカ，ヤブカ等)に刺されることで感染する。ヒトからヒトへの感染はない。

なお，輸血，臓器移植，母乳を介しての感染を疑わせる報告がある(この感染経路に関しては現在米国で調査中であり，本感染経路の重要性については今後の報告に注意する必要がある)。

３．症　状

多くは不顕性感染におわるが，発症する場合２～14日(通常２～６日)の潜伏期間の後，以下のような病態となる。

通常型(ウエストナイル熱)：急激な発熱(39度以上)，頭痛，背部痛，めまい，発汗，時に猩紅熱様発疹(約半数で認められる)，リンパ節腫大，口峡炎を合併する。患者は第３～７病日に解熱し，短期間に回復する。発熱は２峰性を示すこともある。

脳炎型(ウエストナイル脳炎)：筋力低下，頭痛，意識障害，痙攣。重篤で高齢者によくみられる。

1999年のニューヨークでの報告は以下の通りである。発熱（98%），消化器症状（80%），異常な精神状態（64%），頭痛（53%），筋力低下（40%），項部硬直（29%），発疹（18%）。このうち筋力低下は比較的特徴的な症状といえる。

なお初期の症例ではギランバレー症候群と診断された症例があったそうである。ウエストナイル脳炎は髄膜脳炎であり，髄膜炎症状のみを呈する場合がある。

４．確定診断のポイント

発症２～14日前に，流行地への渡航歴

臨床症状：発熱，頭痛，筋肉痛，発疹，筋力低下，意識障害

ウエストナイルウイルスが血液あるいは脳脊髄液から分離される。

ウエストナイルウイルス遺伝子が血液あるいは脳脊髄液中に検出される。

ウエストナイルウイルス特異的IgMが血液あるいは脳脊髄液中に検出される。

ウエストナイルウイルス特異的IgG(中和法で確認する)が血液中に検出され，ペア血清において４倍以上の上昇が確認される。

注意：特異的IgM，中和抗体とも日本脳炎ウイルスと交叉するので，日本脳炎ウイルスに対するよりも高値であることを確認する必要がある。IgMにおいてもペア血清で上昇を確認することが望ましい。

病原体診断および血清学的診断は，国立感染症研究所ウイルス第一部第２室において迅速に実施してもらえる。ウエストナイルウイルス感染症を疑う症例に遭遇した場合は，03-5285-1111内線2526へ相談すること(ただし，ウエストナイルウイルス感染症の常在する地域への渡航歴のある患者の検体に限るとのことである)。

検査所見

末梢血中の白血球数正常あるいは軽度増加。リンパ球数低下。

脳炎患者においては脳脊髄液中のリンパ球数増加，蛋白増加，糖正常。

オーダーする検査

特異的IgMとIgGの検索(ELISA，中和試験)，ウイルス分離，ウイルス遺伝子の検出(PCR)

５．治療のポイント

対症療法のみ

６．経過，予後

感染例の約80%は不顕性感染に終わり，重

篤な症状を示すのは，感染者の約１％といわれている。脳炎型の重篤な患者は主に高齢者にみられ，致命率は重症患者の３～15%とされる。ウエストナイル熱の場合は予後良好で通常１週間以内で回復するが，その後倦怠感が残ることもある。

７．２次感染予防・感染の管理

ワクチンはない。ウイルス侵淫地域では蚊との接触を避ける。

８．感染症法における取り扱い

ウエストナイル脳炎は，４類感染症定点把握疾患「急性脳炎（日本脳炎を除く）」に該当する疾患である。報告の基準は以下の通り。

１）診断した医師の判断により，症状や所見から当該疾患が疑われ，かつ以下の３つの基準をすべて満たすもの。

⑴発熱　⑵突然の意識障害　⑶以下の疾患の鑑別診断：熱性痙攣や代謝性疾患・脳血管性疾患・脳腫瘍や外傷等

２）上記の基準は必ずしも満たさないが，診断した医師の判断により，症状や所見から当該疾患が，疑われかつ，病原体診断や血清診断によって当該疾患と診断されたもの。

米国では航空機に紛れ込んだ蚊によって感染が爆発的に広がったとみられ，世界各地からの航空機が到着する日本に今までウイルスが入ってこなかったのは「運が良かっただけで，（上陸は）時間の問題」とみる関係者もいる。成田空港では上陸防止のため蚊の捕獲作戦を展開中で，現在のところウエストナイルウイルスを保有する蚊は認められない。虫捕りネットやバケツを利用した原始的ともいえる方法だが，２人の担当者は「１匹の蚊も見逃せない」と全力で取り組んでいるとのことである。　（富田　雄二）

〈参考〉

http://www.nih.go.jp/virl/NVL/WNVhomepage/WN.html
http://www.mhlw.go.jp/topics/2002/10/tp1023-1a.html
http://www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/topics.idwr/topics200235.html
http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/q&a.htm

図　ウエストナイルウイルスの分布地域■，日本脳炎ウイルスの分布地域■
インド西部は，両方が分布する地域である。

私の本

私家版

私のシネマ遍歴

宮崎市　大西医院
大西雄二（おおにしゆうじ）

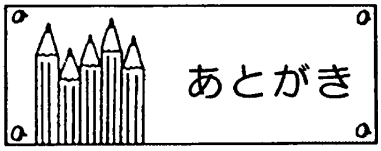
私の子供時代に経験した忘れ難い出来事に，昭和36年冬の西橘通りのセンター映画館火災がある。漆黒の闇に舞い上がる紅蓮の炎を自室の窓からしっかりと見た。その頃から映画産業は急速に衰退していった。私は市内の映画館が歩いて５分以内の至近距離に住んでいる。休日の時間がある際にサンダル履きで出かけて行き，スクリーンを見つめ，つまらない作品の時はそのまま眠ってしまう。

平成12年に余暇の記録として自分のためだけに作った小草子です。有り難いことにコーナーが設けられ，紹介させて頂くことにしました。参考までに内容の一部を示します。

私のベストテン

１．ドクトルジバゴ：社会や時代の中での人間の愛憎を雄大なスケールであますところなく描いていく。
２．エデンの東：青春映画の比類ない傑作。
３．太陽がいっぱい：青年の野望と挫折。空と海の青さと背徳の匂い。
４．ソフィーの選択：過去を持つ女と精神を病む男の出会い。それを見つめる田舎出の文学青年が自分と重なり合う。
５．愛と哀しみの旅路：苦難の人生を強いられた日系移民，いやどこで生きようと人生は苦難を強いられる。
６．西部戦線異常なし：戦争の消耗品でしかなかった兵士を描く反戦映画。
７．スケアクロウ：社会の底辺にいる男同士の友情。
８．夕陽に向かって走れ：マイノリティの哀切と悲哀。
９．さよなら子供たち：ナチスの犯罪を描きルイ・マルの天才を示す。
10．スタンド・バイ・ミー：生と死が一番近い少年時代の物語。

誰にも相手にされないのが私家版の運命であるのはよく承知しています。もし興味を持たれる方がおられれば贈呈致します。



2002年もあとわずかになりました。今年最後の日州医事をお届けいたします。21世紀になりはや２年経過，国内外を問わず政治・経済すべての面で激しく揺れ動き，益々混迷を深め出口がなかなか見えてきません。なにか末期的な様相さえ感じさせます。このような時，友成先生の随筆は時代の流れにながされず，地球環境保護のため我々がなすべき事があると示唆され，深く考えさせられます。一人ひとりが上手に自然と共生し，長い時間をかけて自然環境保護に取り組む気持ちが必要なのでしょう。1000年の雄大さがいいですね。

グリーンページは，医療保険制度改革に対する坂口厚労相の私案が掲載されています。今年は診療報酬改定で大変でしたが，医療保険の経済的な取り扱いだけに終始せず，納得できる抜本的医療制度改革を早く断行してほしいと医療関係者は願っています。

さて話は変わりますが，こうゆう時代のためでしょうか，産婦人科でも不安障害，パニック障害，うつ病を疑う症例が増えています。40～60歳の女性で，家庭や職場でストレスがある場合や，全く原因がない場合もありますが憂うつな気分になり，何もしたくなくなり，頭痛・めまい・耳鳴り，体がフワフワするなどの身体症状を訴えてきます。年齢的に更年期周囲であるため更年期障害，自律神経失調症の診断で加療することが多いのですが，よく話を聴くと不安障害，パニック障害，場合によってはうつ病が含まれています。専門医に紹介し治療していただきますが，一般医もこれらの疾患を鑑別する能力を要求されます。さらにこれらの疾患の予備軍に対しては，ストレス解消策や生活のテンポをゆったりさせる指導も必要です。この変化の激しい時代に，ゆっくりしたリズムでの生活は精神的肉体的な安定をもたらす最大の武器になります。

１年間，多くの先生方からの投稿やご意見・ご指導ありがとうございました。来年もよろしくお願いします。閉塞状態の社会で，厳しい医療状況ですが，来る年は少しの光が見える事を願っています。生活のテンポをゆっくり“スローライフ”はいかがでしょうか。　（加藤）

＊　＊　＊　＊　＊

昨日当番医でしたが百人ほどの患者さんを診て疲れました。その２日前には当直もしました。少しでも楽になりたいと開業しましたが小児科は大変です。体力が落ちて行くこれからの事を思うと気が滅入ります。でもこの前読んだハリー・ポッターの中に素敵な言葉を見つけました。「くよくよ心配するな。来るもんは来る。来たときには受けて立てばいい」頑張ります。　（市来）

＊　＊　＊

11月21日，高円宮さまの突然の訃報に日本中が驚き，悲しんだ。高円宮さまのご逝去は，各界に大きな衝撃を与えた。同時に同世代の私にとっても自分の健康，特に無茶な生活に対する反省と家族，職場への責任を考えさせられた。

「医者の不養生」という言葉があるが，医者は患者がいれば時間に関係なく診療しなくてはならない職業であり，それが当然と思い日夜診療にあたっている。多分この部分は変わらないと思うが，そのような生活の中自分の健康にも注意していきたいと思う。　（池井）

＊　＊　＊

今年も青島太平洋マラソンが近づいてきました。自分にとってこの大会は，１年の総決算の試合です。42．195キロは，ごまかしの効かない距離です。どのように１年を過ごしてきたか，この距離が判定を下します。体力はもちろん気力まで秤にかけられます。結果はどうあれ，期待と不安と興奮が入り混じったスタート地点に，大勢の仲間と共に立てることを喜びたいと思います。そしてゴールした瞬間から来年が始まります。　（井上）

＊　＊　＊

先日，家内が電動足揉み機を買ってきました。最初は馬鹿にしていましたが，実際やってみると足裏の刺激だけでなく，足を左右からリズミカルにマッサージするので，これが大変気持ちよくすっかりはまってしまいました。隠白や湧泉といったツボを刺激するためか，肩こりや疲労回復に効果あるようです。子供たちも帰宅すると交代で使っているようで，一家の必需品になっています。何かとストレスや疲れが溜まるこの年の暮れ，ご自分へのクリスマスプレゼントに1台，是非お薦めします。　（川名）

＊　＊　＊

医事新報社のアンケート調査では，16％の医師が医療への株式会社参入に賛成とのことです。確かに，技術料もでないような手術点数を官僚に一方的に押しつけられると，民間資本の導入もやむを得ないとの気持ちになります。しかし，本誌でも常々指摘しているように，株式会社参入には多くの問題点があり，この議論からは目が離せません。　（佐々木）

＊　＊　＊

グリーンページに目を通しますと，総合的観点からの医療制度改革と診療報酬体系見直しに関する坂口厚労相私案の概要がよくわかります。「私の本」では，懐かしい映画を思い出させていただきました。大西先生のベストテンのうち５本を見ていますが，先生の映画を見る目の確かさには脱帽です。早速，私家版を注文します。

勤務先の病院に5,000万円の予算で腹部エコー機器が納入されました。最新鋭機は大いに人の操作能力を要求しますので，機能を駆使できるよう勉強に大わらわの状況です。　（三原）

「日州医事」平成14年 総目次（№629～№640）

【表　紙】

初日の出	宮崎市	竹尾康男	1月号
たなびく	都城市	仮屋寿生	2月号
宵月	宮崎市	楠元正輝	3月号
しだれ櫻	高千穂町	田崎　力	4月号
good day	西都市	安藤　宣	5月号
ファニーフェイス	えびの市	志戸本久美子	6月号
山里	宮崎市	牛嶋壮一郎	7月号
落陽	延岡市	林田　中	8月号
巡礼の村コンク	えびの市	齋藤　宰	9月号
静物（洋なし）	宮崎市	楠元正輝	10月号
雨上がり	宮崎市	永山武章	11月号
ひととき	清武町	城山治子	12月号

【会長のページ】　会長　秦　喜八郎

2002年のごあいさつ	1月号
国会での医療制度改革論議に注目しよう！	2月号
反省しています	3月号
責任の持てる医療制度抜本改革を！	4月号
第130回宮崎県医師会定例代議員会挨拶要旨	5月号
平成16年を生き延びるために	6月号
まだ時間はある	7月号
重大な決意とは	8月号
今こそ団結を	9月号
時代の変革は	10月号
百家争鳴と新たな希望	11月号
よいお年を	12月号

【日州医談】

地域リハビリテーション	常任理事	夏田康則	1月号
子どもの虐待防止と医師の役割	理　事	浜田恵亮	2月号
宮崎県の介護保険現状について	常任理事	河野雅行	3月号
院内感染	副会長	大坪睦郎	5月号
平成14年度福祉保健部一般会計予算の概要	常任理事	夏田康則	5月号
医療安全　再びインフォームドコンセントについて	常任理事	西村篤乃	6月号
互助会の存続について	理　事	和田徹也	7月号
成年後見制度と医師の役割	常任理事	早稲田芳男	8月号
８割給付問題検討委員会を開くにあたって	理　事	髙橋政見	9月号
犯罪被害者支援	常任理事	早稲田芳男	9月号
平成14年度診療報酬改定の検討	常任理事	稲倉正孝	9月号
ひむか救急ネットの稼働状況	常任理事	富田雄二	10月号
労災医療を巡って	常任理事	河野雅行	11月号
毒劇物事故対策について	常任理事	早稲田芳男	11月号
品（ひん）	常任理事	濱砂重仁	12月号

【挨　拶】
年頭所感　日本医師会長　坪井栄孝　1月号
年頭所感　各郡市医師会長　1月号
年頭のご挨拶　衆議院議員（1区）　中山成彬　1月号
年頭のご挨拶　衆議院議員（2区）　江藤隆美　1月号
年頭のご挨拶　衆議院議員（3区）　持永和見　1月号
年頭のご挨拶　衆議院議員（比例区）　大原一三　1月号
年頭のご挨拶　衆議院議員（比例区）　堀之内久男　1月号
年頭のご挨拶　参議院議員　上杉光弘　1月号
年頭のご挨拶　参議院議員　小斉平敏文　1月号
【退任教授挨拶】
法医学講座教授　髙濵桂一　5月号
内科学第三講座教授　松倉茂　6月号
【新任教授挨拶】
外科学第一講座教授　千々岩一男　5月号
病理学第二講座教授　片岡寛章　8月号
【論壇・論説】
女性医師の増加と社会の変革　宮崎市　石川恵美　6月号
宮崎医科大学長の任を終えて　森満保　7月号
振動病診療に関して　宮崎市　岩切清文　8月号
【随想・随筆・寄稿】
25年医者をやっていて分かったこと　宮崎市　谷口二郎　3月号
佐土原病院資料室見学記　宮崎市　神戸十四郎　3月号
一過性全生活史健忘　宮崎市　早稲田芳男　4月号
厳冬の庭の植物　宮崎市　友成久雄　4月号
小さな旅　宮崎市　谷口二郎　6月号
初心忘るべからず　宮崎市　早稲田芳男　9月号
提言：意見（オピニオン）　宮崎市　楠原敏幸　9月号
宇多田ヒカル的病気　宮崎市　谷口二郎　10月号
老人性肺炎の落とし穴　都城市　久保貫　10月号
「国際山岳年」にあたって　宮崎市　友成久雄　12月号
【旅行記】
避暑旅行　宮崎市　貴島テル子　5月号
少林寺紀行　日向市　富山明宜　6月号
アメリカ核実験に私の甥が参加　日向市　富山明宜　11月号
【新春随想・俳壇・歌壇】
営業もつらいよ　宮崎市　谷口二郎　1月号
ゆっくり　延岡市　野村朝清　1月号
21世紀の2年目　宮崎市　立山浩道　1月号
青春時代を考える　延岡市　宝珠山弘　1月号
プロジェクトX　串間市　川畠尚志　1月号
耽読，卒読，積ん読　宮崎市　佐藤衛　1月号
一枚のレコード　宮崎市　木村三男　1月号
年男新春随想　宮崎市　大淵達郎　1月号
新春に想う　高鍋町　黒木宗俊　1月号
新春短歌　宮崎市　脇坂治　1月号

Michael Crichton てすごい！	都城市	高野哲也	1月号
「仰日」の歌人伊藤保氏を思う	延岡市	松崎武壽	2月号
私の人生の時間遺伝子はどうなっているのであろうか	高岡町	川﨑渉一郎	2月号
自殺遺児の問題	宮崎市	大西雄二	2月号
超老人な人々	日向市	尾﨑峯生	2月号
新人の老人	宮崎市	徳丸泰稔	2月号
削られ続けた墓石	延岡市	長沼弘三郎	2月号
スケッチ	宮崎市	日高四郎	2月号
電子カルテ	日向市	横内章	2月号
ジャズ・ボーカル	日向市	鮫島哲也	2月号
午年にあたって	宮崎市	林榮治	2月号
最近の医療事情について	都城市	小牧一麿	2月号
皮膚腫瘍	日南市	島田雅弘	2月号
コンピューターとの格闘	小林市	池井義彦	2月号
ワールドカップサッカー	高鍋町	大森史彦	2月号
年男の対話	宮崎市	近間悟	2月号
リフレッシュ	延岡市	岡村公子	2月号
【はまゆう随筆・俳句・短歌】			
我が家の酒	宮崎市	佐藤衛	7月号
彷徨する魂	宮崎市	大西雄二	7月号
最近，はまっていること	都城市	貴島亨	7月号
明治の一開業医の回想録から	えびの市	齋藤宰	7月号
ある日（その４）	宮崎市	小野武己	7月号
古い流行歌一筋に	山之口町	志々目栄一	7月号
ビタミンQ	宮崎市	西山武	7月号
よみがえった少女像	宮崎市	松本信儀	7月号
私の中のⅢ革命	宮崎市	谷口二郎	8月号
鈍才の弁	日向市	鮫島哲也	8月号
登山時の出来事	宮崎市	弓削達雄	8月号
胸突き八丁	延岡市	木下義美	8月号
時代は変化している	都城市	矢埜正実	8月号
旅のコース	都城市	久保貫	8月号
息子へ…	延岡市	長沼弘三郎	8月号
完熟マンゴー	宮崎市	立山浩道	8月号
ランニング中毒　その１	宮崎市	矢野隆郎	8月号
【エコー・リレー】			
故郷にて開業20年	都城市	折津達	1月号
平成13年の流行語	宮崎市	岩城義博	1月号
初仕事犬の散歩の後始末	宮崎市	押川公昭	2月号
ジョーダンが帰ってきた	田野町	北村亨	2月号
スポーツとけが	都城市	出水善文	3月号
私の趣味？	えびの市	児玉芳知	3月号
Ｎ先生と剣岳中尾根初登攀	日向市	鎗水史朗	4月号
私のゴルフ歴	宮崎市	篠原義成	4月号
開業４年半	小林市	柊山剰	5月号
子供の将来が危惧される今日この頃	宮崎市	前野正和	5月号

人生の分岐路	都城市	鮫島浩文	６月号
20年目の同窓会	小林市	丸山賢幸	６月号
ペダルをこいで	宮崎市	弘野修一	７月号
22年ぶりの郡山で考えた事	三股町	山下兼一	７月号
薫　習	高鍋町	栗田正弘	８月号
サッカーワールドカップを見て	日南市	田中茂樹	８月号
都城のひと	都城市	柏木輝行	９月号
ハードロック	日向市	鮫島哲郎	９月号
心よりお詫びします	宮崎市	美原　恒	10月号
夢うつつ	日南市	河野秀一	10月号
シゲ先生	宮崎市	濱砂重仁	11月号
飛行機嫌い	三股町	長倉穂積	11月号
柿の想い出	延岡市	赤須正道	12月号
家族の手術	宮崎市	白尾一定	12月号

【叙位・叙勲】

勲五等瑞宝章（保健衛生功労）	平田　実	６月号
勲五等瑞宝章（学校保健功労）	志々目　亨	６月号
勲五等双光旭日章（保健衛生功労）	渡邊得三	12月号
勲四等瑞宝章（保健衛生功労）	有満金郎	12月号
勲五等瑞宝章（保健衛生功労）	加藤重信	12月号

【表彰・祝賀】

労災診療行政関係功労者厚生労働大臣表彰	早川潤太郎	３月号
労災診療行政関係功労者宮崎労働局長表彰	増田好治	３月号
労災診療行政関係功労者宮崎労働局長表彰	上田　章	３月号
救急医療功労者厚生労働大臣表彰	姉川朔実	10月号
救急医療事業功労者県知事表彰	志多武彦	10月号
救急医療事業功労者県知事表彰	福島正明	10月号
救急医療事業功労者県知事表彰	野村敏彰	10月号
宮崎日日新聞賞（科学賞）	坪内博仁	12月号
社会保険診療報酬支払基金関係功績者厚生労働大臣表彰	栗林忠信	12月号
精神保健福祉事業功労者厚生労働大臣表彰	藤元登四郎	12月号
精神保健福祉事業功労者厚生労働大臣感謝状	近間　悟	12月号
救急医療体制の確立に貢献した功労者日本医師会最高優功賞	河野　通	12月号
学校保健及び学校安全の功労者文部科学大臣表彰	内之浦　明	12月号
公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰	吉松成人	12月号
公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰	井上日出男	12月号
公衆衛生事業功労者財団法人日本公衆衛生協会長表彰	長田憲二郎	12月号
公衆衛生事業功労者財団法人日本公衆衛生協会長表彰	上野百喜	12月号
宮崎県公衆衛生事業功労者県知事表彰	倉岡誠三	12月号
宮崎県公衆衛生事業功労者県知事表彰	佐藤重国	12月号
母子保健家族計画事業功労者厚生労働大臣表彰	寺尾博二	12月号
読売新聞賞（医療功労賞）	加藤重信	
宮崎県医療功労者県知事表彰	市来　齊	
宮崎県医療功労者県知事表彰	川越博道	
宮崎県医療功労者県知事表彰	徳丸泰稔	
宮崎県医療功労者県知事表彰	鮫島哲也	

宮崎県医療功労者県知事表彰			松岡　弘	
宮崎県医療功労者県知事表彰			喜多省保	
公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰			森下博夫	
【グリーンページ】		副会長	志多武彦	
医療制度改革大綱				1月号
規制改革の推進に関する第１次答申				2月号
医療制度の抜本改革に向けて				3月号
日医社会保険研究委員会報告書				4月号
社会保険医療担当者の個別指導の結果について				5月号
平成14年４月診療報酬改定について				6月号
医療制度改革関連法案				7月号
医療制度改革とその対応		（日医副会長	青柳　俊）	8月号
総合規制改革会議第２次中間報告				9月号
医療への株式会社参入				10月号
医療への株式会社参入（２）				11月号
医療保険制度改革－坂口私案－				12月号
【各郡市医師会だより】				
（メイン）	西臼杵郡医師会		佐藤元二郎	2月号
（メイン）	宮崎医科大学医師会		南嶋洋一	3月号
宮崎市郡医師会		会長	綾部隆夫	5月号
都城市北諸県郡医師会		会長	柳田喜美子	5月号
延岡市医師会		会長	市原正彬	6月号
日向市東臼杵郡医師会		会長	甲斐文明	6月号
児湯医師会		会長	永友和之	7月号
西都市・西児湯医師会		会長	大塚直純	7月号
南那珂医師会		会長	岩田達男	8月号
西諸医師会		会長	大森臣道	8月号
西臼杵郡医師会		会長	植松正雄	9月号
宮崎医科大学医師会		会長	住吉昭信	9月号
【国公立病院だより】				
県立延岡病院		院長	本田正之	3月号
串間市国民健康保険病院		院長	牟禮　洋	5月号
国立療養所宮崎病院		院長	寺本仁郎	7月号
高千穂町国民健康保険病院		院長	柴田和哉	9月号
県立富養園		園長	上田啓司	11月号
【宮崎医科大学だより】				
耳鼻咽喉科学講座		医局長	河野浩万	2月号
皮膚科学講座		医局長	天野正宏	3月号
生化学第一講座		教授	森下和広	4月号
微生物学講座		教授	林　哲也	5月号
病理学第一講座		助手	佐藤勇一郎	6月号
小児科学講座		医局長	髙木純一	7月号
泌尿器科学講座		医局長	山下康洋	8月号
脳神経外科学講座		医局長	上原久生	9月号
解剖学第二講座		教授	菅沼龍夫	10月号
解剖学第一講座		教授	年森清隆	11月号

周産母子センター	講　師	池田智明	12月号
【専門分科医会だより】			
内科医会	常任理事	小牧　斎	２月号
東洋医会	医会長	木下恒雄	４月号
外科医会	医会長	増田好治	７月号
皮膚科医会	医会長	田崎髙伸	10月号
【報告（各種委員会)】			
健康スポーツ医学委員会			２月号
第３回情報システム委員会			３月号
第２回介護保険委員会			３月号
第５回医の倫理推進委員会			４月号
インフォームドコンセント等委員会			４月号
会館建設検討委員会			５月号
医学会誌編集委員会			６月号
医学会誌編集委員会			７月号
医学賞選考委員会			７月号
地域医療保健委員会			８月号
第１回救急医療委員会			８月号
健康教育委員会			９月号
健康スポーツ医学委員会			９月号
地域医療保健委員会			９月号
介護保険委員会			９月号
地域医療保健委員会			10月号
医学会誌編集委員会			11月号
【駒込だより】			
社会保険診療報酬検討委員会	常任理事	稲倉正孝	１月号
医療情報ネットワーク推進委員会	常任理事	富田雄二	１月号
日医労災・自賠責委員会	常任理事	河野雅行	２月号
医療情報ネットワーク推進委員会	常任理事	富田雄二	８月号
年金委員会	常任理事	河野雅行	10月号
医療情報ネットワーク推進委員会	常任理事	富田雄二	10月号
医療情報ネットワーク推進委員会	常任理事	富田雄二	11月号
【報告（諸会議)】			
県福祉保健部と県医師会との懇談会			１月号
宮崎ＩＴ推進研究会生活部会	常任理事	富田雄二	１月号
都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会			１月号
感染症危機管理対策協議会			１月号
各郡市医師会長協議会			２月号
九医連第245回常任委員会			３月号
九医連平成13年度第２回各種協議会			３月号
都道府県医師会情報システム担当者連絡協議会	常任理事	富田雄二	３月号
全国医療情報システム連絡協議会第18回定例会議	常任理事	富田雄二	３月号
第129回宮崎県医師会臨時代議員会（概要）			４月号
九医連常任委員・九州各県医師会次期会長合同会議			４月号
九医連常任委員・九州各県医師会次期日医代議員協議会			４月号
九州ブロック日医代議員（含・次期）連絡会議			４月号

都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会			４月号
都道府県医師会共同利用施設担当理事連絡協議会			４月号
各郡市医師会長協議会			５月号
各郡市医師会役員連絡協議会			５月号
各専門分科医会長会			５月号
九医連第246回常任委員会			５月号
第130回定例代議員会			６月号
九医連第247回常任委員会			６月号
第１回各郡市医師会長協議会			７月号
県福祉保健部と県医師会との懇談会			７月号
宮崎県医師会互助会定時評議員会			７月号
九医連第83回定例委員総会			７月号
第131回定例代議員会			８月号
定例総会　他			８月号
九州ブロック広報担当理事連絡協議会	常任理事	富田雄二	８月号
都道府県医師会情報システム担当理事連絡協議会	理　事	吉田建世	８月号
成人病検診各部会長連絡協議会			９月号
医師年金制度普及推進懇談会			９月号
介護支援専門員連絡協議会理事会			９月号
九医連第248回常任委員会			９月号
第２回各郡市医師会長協議会			10月号
第46回九州ブロック学校保健・学校医大会，学校検診協議会			10月号
第18回九州ブロック医療情報システム推進協議会	理　事	吉田建世	10月号
医師会立准看護学校連絡協議会			11月号
准看護学校連絡協議会			11月号
九医連第249回常任委員会			11月号
九医連平成14年度第１回各種協議会			11月号
第24回産業保健活動推進全国会議			11月号
第３回各郡市医師会長協議会			12月号
九医連第250回常任委員会			12月号
九州各県・政令指定都市保健医療福祉主管部局長及び九州各県医師会長合同会議			12月号
都道府県医師会公衆衛生担当理事連絡協議会			12月号
全国医師会勤務医部会連絡協議会	理　事	浜田恵亮	12月号
九州各県医師会学校保健担当理事者会			12月号
九州学校検診協議会専門委員会			12月号

【報告（講演会・研修会・その他）】

園医部会総会・研修会	園医部会長	永山武章	１月号
はにわネット操作説明会	常任理事	富田雄二	１月号
県ドクターズテニス大会（秋）		近間　悟	１月号
勤務医部会活動報告	勤務医部会　理　事	上田　章	２月号
平成13年度学校保健講習会			４月号
平成13年度乳幼児保健講習会			４月号
電子カルテを中心とした地域医療情報化成果発表会	常任理事	富田雄二	４月号
平成13年度長期入院患者一日実態調査結果の概要			６月号
みやざきナースＴoday 2002			７月号
県ドクターズテニス春の大会		近間　悟	８月号

第13回新研修医保険診療説明会並びに祝賀会　８月号
日本医師会緊急理事会速報　９月号
第３回宮崎県医師会医家芸術展盛会裡に開催　副会長　大坪睦郎　９月号
勤務医部会活動報告　勤務医部会理事　上田章　10月号
平成14年度宮崎県医学会　10月号
宮崎県医師会親善ゴルフ大会　10月号
第46回社会保険指導者講習会　常任理事　稲倉正孝　10月号
介護支援専門員実務研修受講試験対策研修会　11月号
医療政策シンポジウム「望まれる医療と医療制度」　11月号
第３回診療情報提供の環境整備のための講習会　11月号
県ドクターズテニスクラブ秋の大会　近間尚　12月号
【薬事情報センターだより】
（177）セレウス菌による食中毒　１月号
（178）市販直後調査　２月号
（179）人畜（獣）共通感染症　オウム病　３月号
（180）フラーレン　４月号
（181）分子標的治療薬　５月号
（182）薬事法の改正（案）について（その１）　６月号
（183）薬剤性味覚障害　７月号
（184）ドライブスルー薬局の誕生！　８月号
（185）医薬品と特許　９月号
（186）健康食品について　10月号
（187）シックハウス症候群　11月号
（188）動き始めた薬学６年制の行方　12月号
【医師国保組合だより】
被保険者証の更新について　４月号
第86回通常組合会議事録　５月号
健康診断について　６月号
歩こう会案内　９月号
第87回通常組合会議事録　10月号
「第８回歩こう会」に参加して　宮崎市　田爪靖史　12月号
【医師協同組合だより】
相談窓口から（医療法人（一人）設立相談，開業医承継相談）　１月号
従業員（病・医院）の退職金制度　２月号
相談窓口から（医療法人（一人）設立相談，賃貸並びに譲渡希望物件）　３月号
医師賠償責任保険改定　５月号
相談窓口から（医療法人（一人）設立相談，譲渡並びに賃貸希望）　６月号
診療報酬改定に伴う研修会のご案内，開業医承継相談窓口について　８月号
相談窓口から（医療法人（一人）設立相談，譲渡並びに賃貸希望）　９月号
診療報酬改定に伴う請求事務研修会　10月号
相談窓口から（医療法人（一人）設立相談，譲渡並びに賃貸希望），接遇研修会開催のご案内　11月号
患者さんに喜ばれる接遇研修会　12月号
【追悼のことば】
寺師宗夫　先生（宮崎市郡医師会）　２月号
高宮澄男　先生（宮崎市郡医師会）　３月号
大岐良一　先生（都城市北諸県郡医師会）　５月号

高　山　正　己　先生（宮崎市郡医師会）　5月号
外　山　　衛　先生（南那珂医師会）　8月号
高　田　昌　敏　先生（西諸医師会）　8月号
古　賀　知　章　先生（宮崎市郡医師会）　10月号
蟻　塚　良　助　先生（児湯医師会）　10月号
福　岡　良　朗　先生（南那珂医師会）　12月号

【ニューメンバー】
山　口　政一朗（やまぐち　しょういちろう）　1月号
前　野　正　和（まえの　まさかず）　2月号
黒　岩　ゆかり（くろいわ　ゆかり）　2月号
宝珠山　厚　生（ほうしやま　あつお）　3月号
永　友　淳　司（ながとも　じゅんじ）　4月号
細　見　　潤（ほそみ　じゅん）　4月号
辻　村　善　正（つじむら　よしまさ）　6月号
佐久間　幸　雄（さくま　ゆきお）　7月号
荻　野　誠　周（おぎの　のぶちか）　8月号
大　淵　敏　生（おおぶち　としお）　8月号
竹　中　美　香（たけなか　みか）　12月号
山　内　　励（やまうち　つとむ）　12月号

【私の本】
冬のひかり　西都市　水田雅久　6月号
地名にみる原風景宮崎市街字町名誌　宮崎市　田代　学　7月号
続　野次馬ドクターア・ラ・カルト　日向市　鮫島哲也　8月号
ドクター美原のいきいき健康塾　宮崎市　美原　恒　9月号
部位別皮膚病カラーアトラス－診断と治療－　清武町　田尻明彦　10月号
「こだわり」の局所麻酔　清武町　髙崎眞弓　11月号
私家版　私のシネマ遍歴　宮崎市　大西雄二　12月号

【診療メモ】
リバビリン　三原謙郎　1月号
片頭痛の病態と新しい治療薬　宮崎社会保険病院脳神経外科　上田　孝　2月号
肝癌への新たな治療法；ラジオ波焼灼療法　三原謙郎　3月号
不眠症　宮医大精神医学講座教授　三山吉夫　4月号
宮医大診療受付時間及び休診日　5月号
遠近両用コンタクトレンズ　宮崎中央眼科病院　原田一道　6月号
褥　瘡　宮崎県皮膚科医会　成田博実　7月号
院内感染（結核）　高鍋保健所長　藤本茂紘　8月号
脊髄刺激は異常な痛みを和らげる　宮医大附属病院手術部助教授　宇野武司　9月号
更年期障害とホルモン補充療法　宮崎市郡医師会病院産婦人科　和田俊朗　10月号
安全は守るだけでなく創るもの　王子診療所　岡本将幸　11月号
ウエストナイル熱，ウエストナイル脳炎　富田雄二　12月号

【読者の広場】
Ｆ　生　2月号
Ｏ　生　2月号
Ｉ　生　6月号
Ｉ　生　7月号
Ｙ　生　8月号

S　生　8月号
T　生　9月号
T　生　11月号

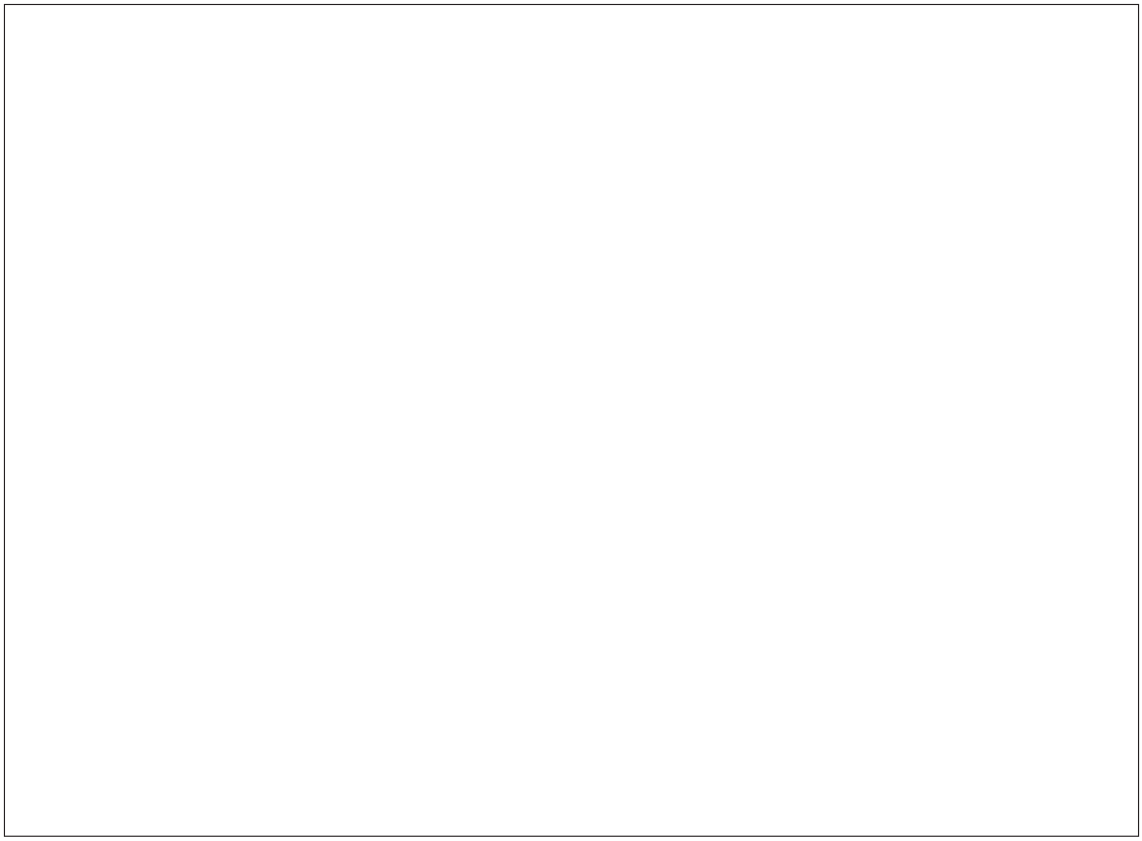
【その他】
県医新役員名簿・業務分担　4月号
各郡市医師会役員名簿　4月号
はまゆう随筆原稿募集　5月号
特集原稿募集：新診療報酬改定を検証する　6月号
はまゆう随筆原稿募集　6月号
特集原稿募集：新診療報酬改定を検証する　7月号
私の本原稿募集　7月号
特集：新診療報酬改定を検証する　8月号
私の本原稿募集　8月号
私の本原稿募集　9月号
新春随想原稿募集　10月号
健保法等の改正・平成14年10月実施診療報酬改定Ｑ＆Ａ　11月号
慢性疼痛疾患管理料等の算定について　11月号
お願い：施設入所者のインフルエンザ予防接種　11月号
平成14年総目次　12月号

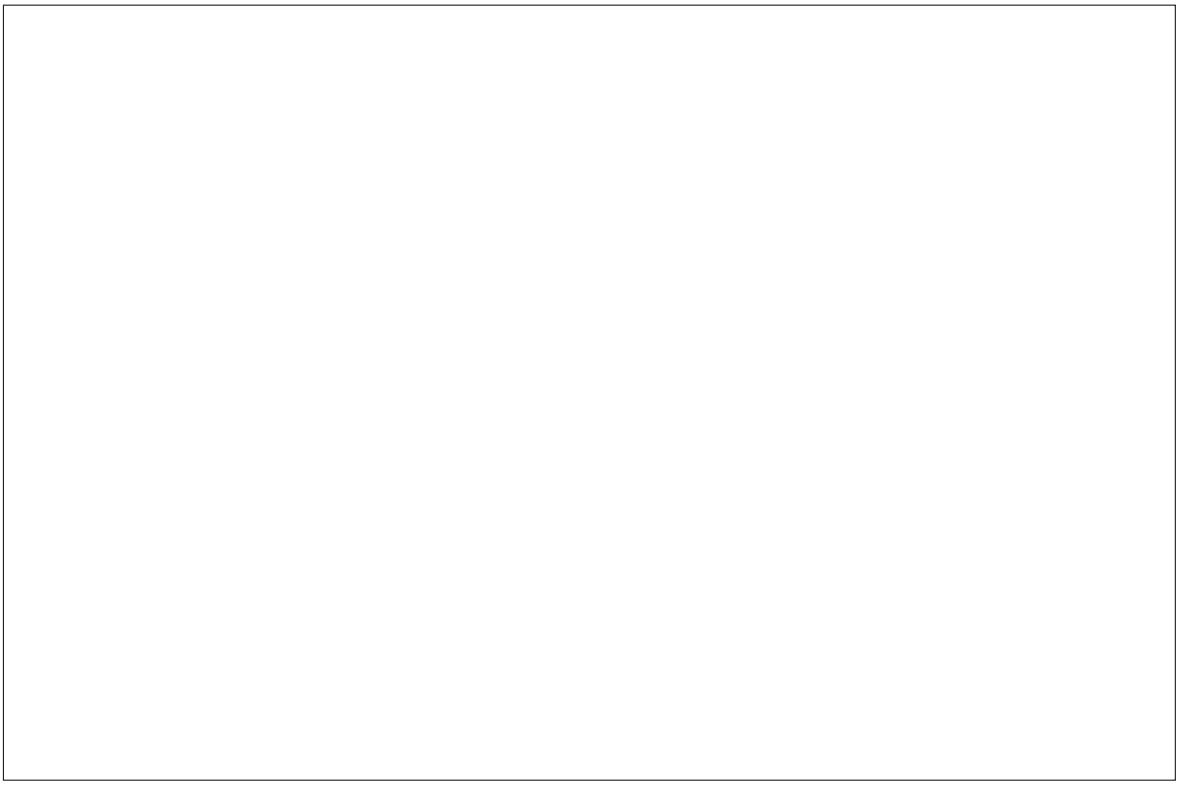
【Ｗｅｂ Ｓｉｔｅ】
救急時の対応法　1月号
ＦＩＲＳＴ ＰＡＰＥＲ　2月号
インターネット碁会所　3月号
ライフサイエンス辞書プロジェクト　4月号
ＩＯＣ アンチ・ドーピング　5月号
内科臨床研修指導マニュアル　6月号
患者管理問題　7月号
衆議院・参議院インターネット審議中継　8月号
ラジオたんぱ　医学番組　9月号
Ｗｅｂｃａｔ Ｐｌｕｓ　11月号
褥瘡の管理ホームページ　12月号

【告　知】
第129回宮崎県医師会臨時代議員会開催　2月号
定例代議員会・医連執行委員会開催　4月号
定例代議員会・医連執行委員会開・医協通常総代会開催　5月号

【お知らせ】
宮崎県医師会役員等の選挙のご案内　1月号
互助会融資契約による年始資金融資のご案内　1月号
郡市医師会への送付文書　1月号
郡市医師会への送付文書　2月号
郡市医師会への送付文書　3月号
郡市医師会への送付文書　4月号
日医予備代議員補欠選挙公示　4月号
融資契約の一部変更について　4月号
医家芸術展作品募集　5月号
諸会費決定について　5月号

広告規制緩和について　5月号
県ドクターズテニスクラブ春の大会開催について　5月号
C型肝炎ウイルス検診についてのお願い　5月号
互助会融資契約について　5月号
郡市医師会への送付文書　5月号
医療法人設立認可に係る医療審議会の開催時期等について　6月号
郡市医師会への送付文書　6月号
郡市医師会への送付文書　7月号
宮崎県医師会館の閉館について　8月号
郡市医師会への送付文書　8月号
フォトコンテスト　9月号
郡市医師会への送付文書　9月号
県医師会職員等の配置について　10月号
資格関係誤りレセプト発生防止にご協力を　支払基金　10月号
融資契約の一部変更について　10月号
郡市医師会への送付文書　10月号
郡市医師会への送付文書　11月号
郡市医師会への送付文書　12月号
臨床研修医師募集　12月号
はにわネット展示ブース設置のお知らせ　12月号
「互助会融資契約」によるボーナス資金等融資　12月号
【ご案内】
定例総会他　6月号
第3回宮崎県医師会医家芸術展　7月号
宮崎県医学会の開催について　8月号
親善ゴルフ大会について　8月号
患者さんへの融資のご案内　12月号





日　州　医　事　第640号（平成14年12月号）
（毎月１回10日発行）

発行人　社団法人　宮　崎　県　医　師　会
〒880-0023　宮崎市和知川原１丁目101番地
TEL 0985-22-5118㈹ FAX27-6550
http://www.miyazakimed.or.jp/
E-mail:office@miyazakimed.or.jp
代表者　秦　　喜八郎

編　集　宮崎県医師会広報委員会
委　員　長　井上　　久
副委員長　川名　隆司
委　　員　市来　　緑，大藤　雪路，加藤　民哉
小村　幹夫，佐々木　究，田尻　明彦
三原　謙郎，森　　継則
担当副会長　大坪　睦郎
担当理事　富田　雄二，池井　義彦
事務局学術課　崎野　文子，竹崎栄一郎，千原佐知子

カット　武藤布美子
印刷所　有限会社 ケイ・プロデュース
定　価　350円(但し,県医師会員の講読料は会費に含めて徴収してあります)
●落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。